YAMAHA

J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-4300

[YSP-CU4300 + NS-WSW160]

YSP-3300

[YSP-CU3300 + NS-WSW160]

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

●**必ずはじめに「安全上のご注意」をお読みください（80ページ～84ページ）。**

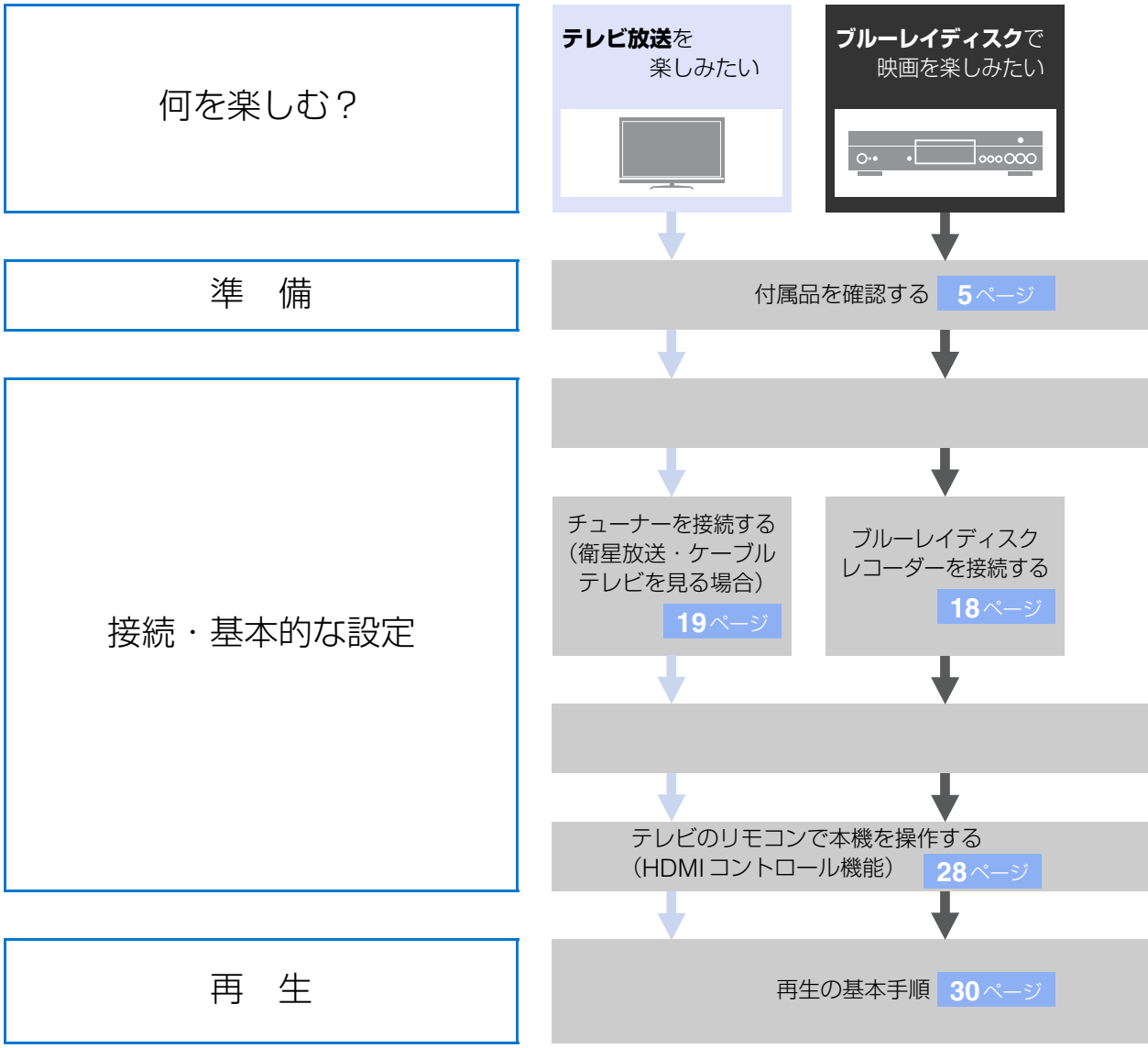
●本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

●保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

本機でできること

必ずはじめに「安全上のご注意」をお読みください（80 ページ～ 84 ページ）



いろいろな機能

HDMI コントロール（リンク）機能 28 ページ

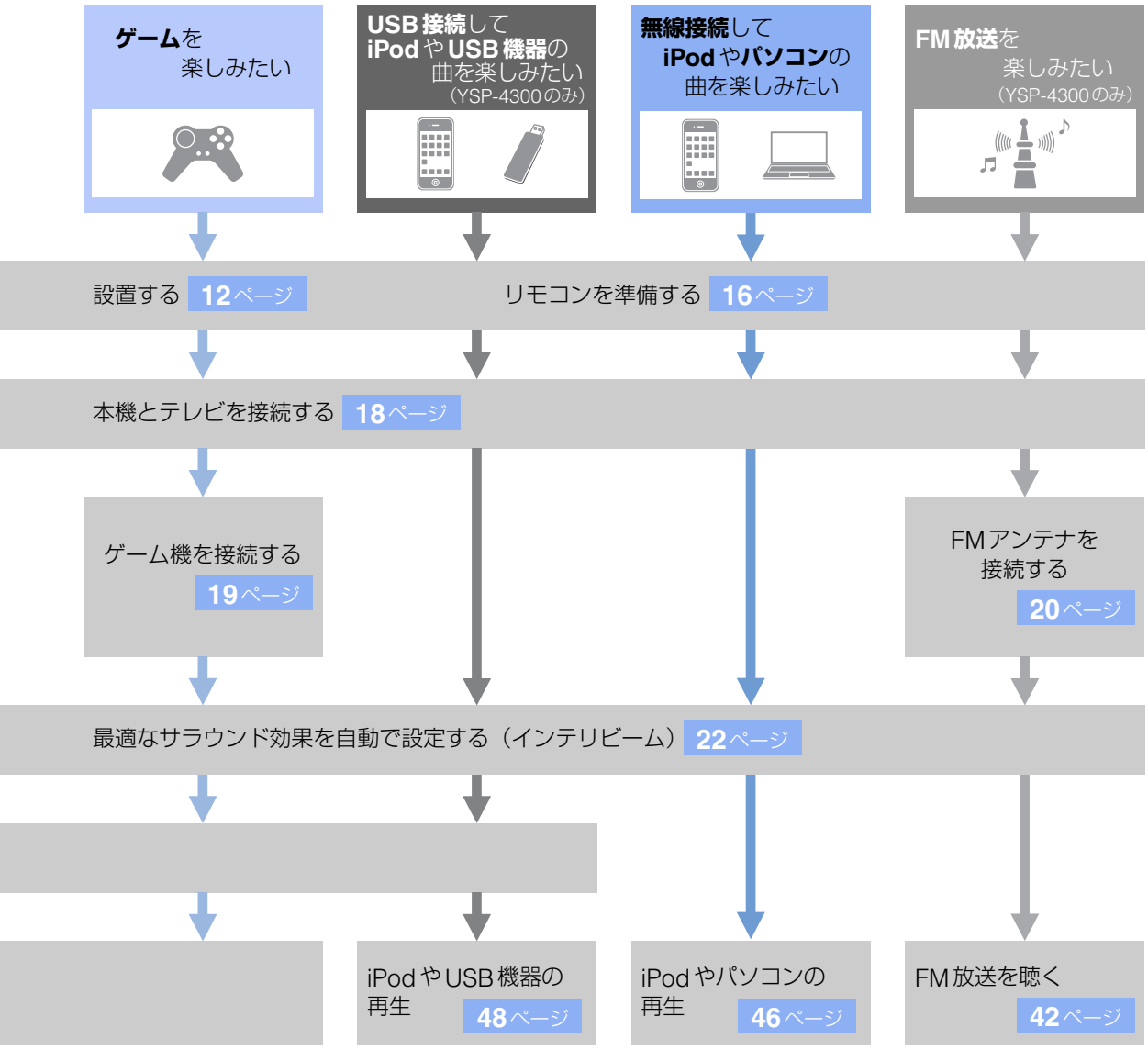
テレビリモコンリピーター機能 13 ページ

ユニボリューム機能 38 ページ

インテリビーム 22 ページ

システムメモリー 27 ページ

エコ機能 39 ページ



シネマ DSP 32 ページ

ミュージックエンハンサー 31 ページ

ターゲット再生 37 ページ

iPod やパソコンのワイヤレス再生 46 ページ

iPod や USB 機器の再生ー USB 接続（YSP-4300 のみ） 48 ページ

FM 放送（YSP-4300 のみ） 42 ページ

もくじ

はじめに

付属品の確認 5
各部の名称とはたらき 6
センターユニットのフロントパネル（前面・上面）..... 6
センターユニットのリアパネル（背面）..... 7
サブウーファーのリアパネル（背面）..... 8
フロントパネルディスプレイ 9
リモコン 10
設置 12
推奨する設置 12
音声ビームでサラウンドを視聴するのが難しい部屋の条件 12
部屋の条件を問わずにサラウンドを楽しむ（マイサラウンド機能）..... 13
センターユニットの設置によりテレビのリモコンが効かないとき（テレビリモコンリピーター機能）..... 13
センターユニットがテレビのスタンドをまたげないとき（センターユニットの高さを上げる）..... 13
サブウーファーを横置きにする 14
設置位置のポイント 14
リモコンの準備 16
電池を入れる 16
操作範囲 16
接続 17
テレビ、ブルーレイディスクレコーダーを接続する 18
ゲーム機や CATV、CS 放送チューナーなどを接続する 19
FM アンテナを接続する（YSP-4300 のみ）..... 20
サブウーファーを無線接続する 20
はじめて使うときの設定 21
無線接続のしくみ 21
グループ ID の種類 21
メニュー画面をテレビに表示させる 21
サラウンド効果を自動設定する（インテリビーム）..... 22
インテリビームマイクを設置する 22
測定する 23
システムメモリーに本機の設定を保存する 27
テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）..... 28

再生

再生 30
再生の基本手順 30
お好みのサウンドを楽しむ 31
ステレオ再生、サラウンド再生、ターゲット再生を切り替える 31
MP3 や WMA などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー）..... 31
各チャンネルの音量を調整する 31
臨場感のあるサラウンド音声を楽しむ（シネマ DSP）..... 32
サラウンドの音声出力方法を切り替える 34
サラウンドデコーダーを設定する 36
特定の位置に音声を届ける（ターゲット再生）..... 37
便利な機能を使う 38
音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）..... 38
二カ国語放送の音声を切り替える 38
エコ機能で節電する 39
フロントパネルディスプレイの情報表示を切り替える 39
入力ごとの設定（オプションメニュー）..... 40
FM 放送を聴く（YSP-4300 のみ）..... 42
放送局を受信する（ノーマルチューニング）..... 42
電波の弱い放送局を受信する 43
放送局を登録して受信する（プリセットチューニング）..... 43
iPod やパソコンの曲をワイヤレスで再生する 46
トランスミッターを使って iPod の曲を再生する 46
トランスミッターを使ってパソコンの曲を再生する 47
トランスミッターのグループ ID について 47
iPod や USB 機器を USB 接続して再生する（YSP-4300 のみ）..... 48
iPod を接続する 48
テレビ画面を見ながら iPod を操作する 49
iPod 本体で操作する 52
iPod を充電する 53
USB 機器を接続する 54
テレビ画面を見ながら操作する 55

設定

設定メニュー 58
操作手順 58
設定メニューリスト 59
ビームの設定 60
水平角度 60
ビーム経路長 60
焦点距離 60
Lch/Rch 位置調整 61
チャンネル出力 61
サウンドの設定 62
スピーカーレベル 62
アダプティブ DRC 62
ダイナミックレンジ 63
Dolby PL IIx パラメーター 63
HDMI の設定 63
HDMI コントロール 63
HDMI 音声出力 63
TV インプット 63
AirWired の設定 64
インターロック 64
グループ ID 64
表示の設定 65
ディマー 65
メニュー言語 65
距離単位 65
情報表示 65
音声 65
映像 65
システム 65
拡張メニュー 66

困ったときは

故障かな？と思ったら 68
全般 68
FM 放送（YSP-4300 のみ）..... 70
iPod ／パソコン（トランスミッター使用時）..... 70
USB 機器（YSP-4300 のみ）..... 71
リモコン 72
メッセージリスト 73
iPod（USB 端子接続時）／USB 機器（YSP-4300 のみ）..... 73

付録

技術／用語解説 74
主な仕様 76
対応する信号 79
安全上のご注意 80
索引 85

本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 本書は iPod、iPhone、iPad を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod、iPhone および iPad を意味します。
- では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- **ご注意** では、安全に関する重要な注意事項と操作方法を記載しています。
- センターユニットのイラストは YSP-CU4300 を使っています。説明上必要な場合は、YSP-CU4300 および YSP-CU3300 のイラストを併載しています。

付属品の確認

ご使用になる前に、付属品がすべてそろっていることを確認してください。[1)]

YSP-4300 の構成

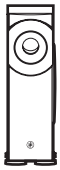
センターユニット（YSP-CU4300）

ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW160）

YSP-3300 の構成

センターユニット（YSP-CU3300）

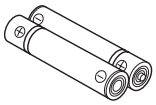
ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW160）



YSP-CU4300/YSP-CU3300 の付属品

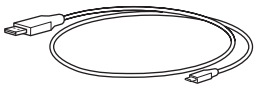
リモコン

単 4 乾電池（2 本）

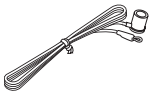


光ファイバーケーブル（1.5m）

USB ケーブル（0.3m）

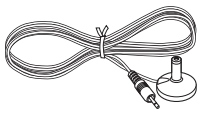


FM 簡易アンテナ（YSP-4300 のみ）

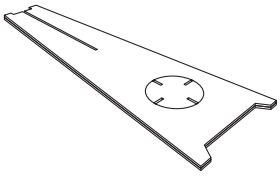


トランスミッター（YIT-W12TX）

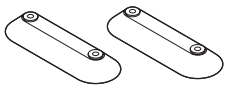
インテリビームマイク（6m）



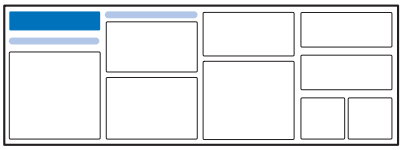
簡易マイクスタンド



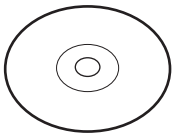
センターユニット用スペーサー（2 個）



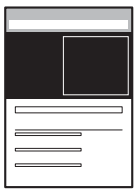
簡易接続・操作ガイド



サラウンド確認用 DVD



サラウンド確認用 DVD 説明書



取扱説明書（本書）

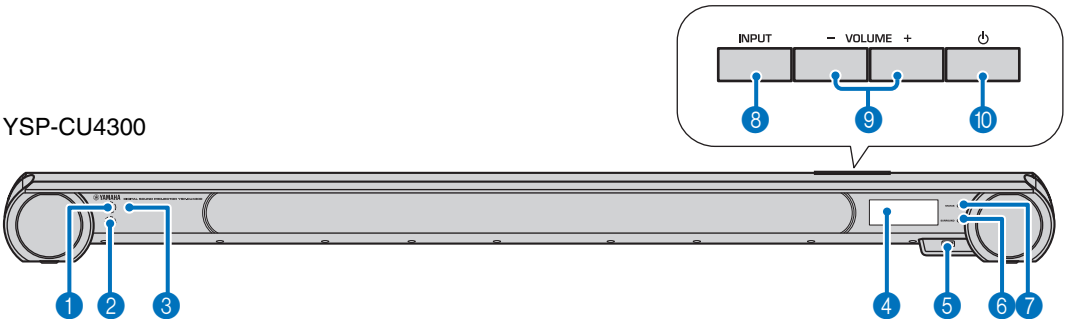
1)

付属のケーブルは、接続状況によって余る場合があります。

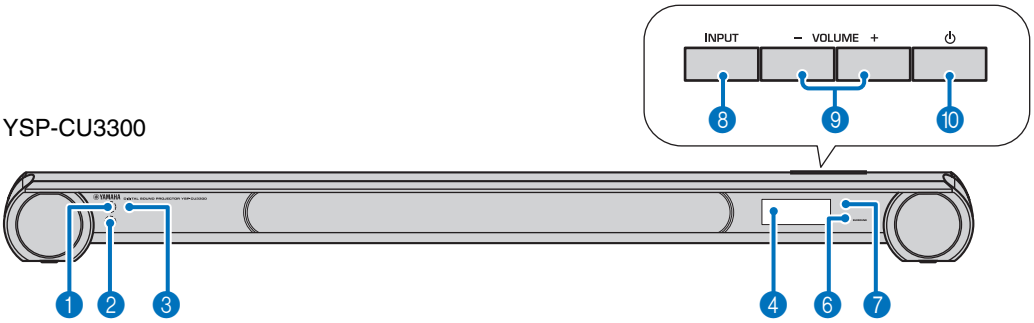
各部の名称とはたらき

センターユニットのフロントパネル（前面・上面）

YSP-CU4300



YSP-CU3300



❶ **リモコン受光部**
本機のリモコンの赤外線信号を受信します（☞10 ページ）。

❷ **テレビリモコン受光部**
TV リモートリピーター機能がオンのときに、テレビのリモコンの赤外線信号を受信します。（☞13 ページ）。

❸ **無線モジュール**
無線信号を受信／送信します。受信／送信の妨げになるので、無線モジュールの前に金属製品を置かないでください。

❹ **フロントパネルディスプレイ**
再生の状態や設定値などを表示します（☞9 ページ）。

❺ **USB 端子（YSP-4300 のみ）**
USB 機器を接続します（☞48、54 ページ）。

❻ **SURROUND（サラウンド）表示**
入力信号に合わせて点灯します。

表示の色	入力信号
青	サラウンド音声信号 （ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション、マルチチャンネルリニア PCM）1)
オレンジ	上記以外のサラウンド音声信号 1)
消灯	無信号またはステレオ／モノラル音声信号

❼ **STATUS（ステータス）表示**
本機の電源がオンのときに点灯し、スタンバイのときは消灯します。

❽ **INPUT（インプット）キー**
再生する機器を選択します（☞30 ページ）。

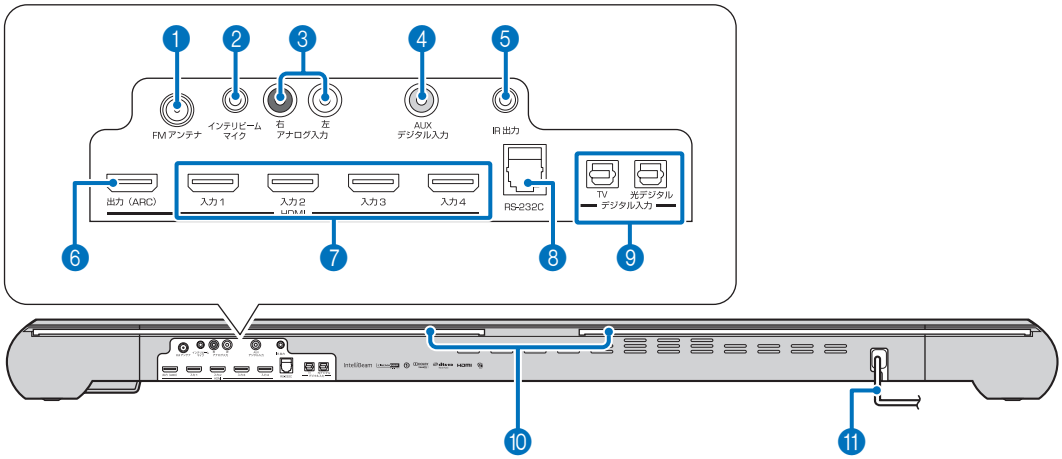
❾ **VOLUME（ボリューム）（+／–）キー**
音量を調節します（☞30 ページ）。

❿ **⏻（電源）キー**
電源のオン／スタンバイを切り替えます。

ご注意
本機はスタンバイのときも、HDMI 信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

1) 付属のサラウンド確認用 DVD を再生した場合は、ドルビーデジタル信号を入力するとオレンジで点灯し、マルチチャンネルリニア PCM を入力すると青で点灯します。

センターユニットのリアパネル（背面）



❶ **FM アンテナ端子（YSP-4300 のみ）**
FM アンテナを接続します（☞ 20 ページ）。

❷ **インテリビームマイク端子**
付属のインテリビームマイクを接続します（☞23 ページ）。

❸ **アナログ入力端子**
外部機器とアナログ接続します（☞19 ページ）。

❹ **デジタル入力 AUX 端子**
外部機器と同軸デジタル接続します（☞19 ページ）。

❺ **IR 出力端子**
メンテナンスやサービスに使います。通常は使いません。

❻ **HDMI 出力（ARC）端子**
テレビやモニターと HDMI 接続します（☞18 ページ）。

❼ **HDMI 入力端子**
ブルーレイディスクレコーダー（BD レコーダー）や CATV、CS 放送チューナー、ゲーム機などと HDMI 接続します（☞18、19 ページ）。

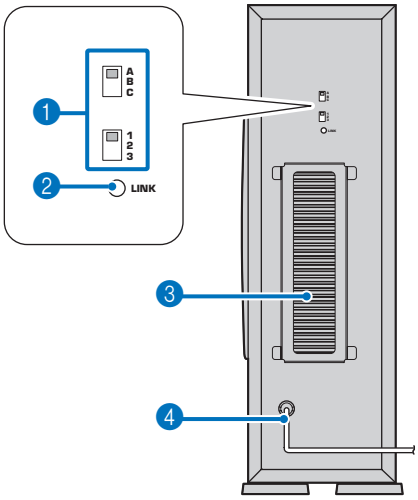
❽ **RS-232C 端子**
メンテナンスやサービスに使います。通常は使いません。

❾ **デジタル入力 TV、光デジタル端子**
外部機器と光デジタル接続します（☞18、19 ページ）。

❿ **テレビリモコンリピーター**
センターユニットがテレビのリモコン受光部を隠してしまう場合は、センターユニット前面でテレビのリモコン信号を受信し、テレビリモコンリピーターを使ってテレビに伝達します（☞13 ページ）。

⓫ **電源コード**
AC コンセントに接続します（☞18 ページ）。

サブウーファーのリアパネル（背面）



❶ **グループ ID スイッチ**

センターユニットとサブウーファーが無線で接続されると、サブウーファーから音が出ます（AirWired）。無線で接続するには、センターユニット、および付属のトランスミッター（YIT-W12TX）と同じグループ ID にします（☞20 ページ）。

❷ **LINK（リンク）表示**

無線接続の状態を示します（☞20 ページ）。

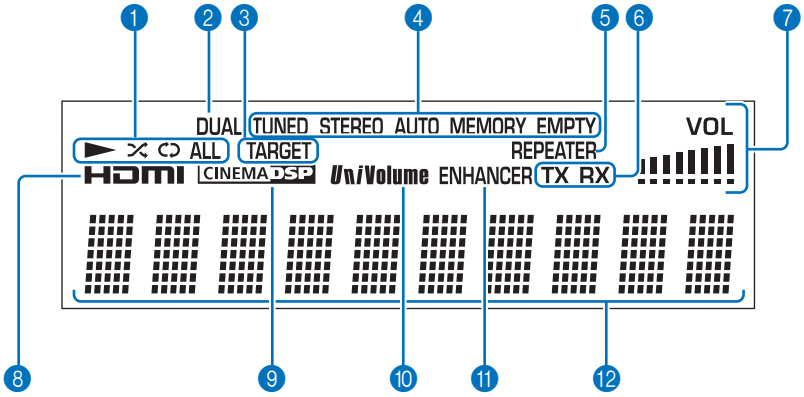
❸ **放熱部**

サブウーファー内部に生じた熱を放出します。布などで放熱部を覆わないように注意してください。

❹ **電源コード**

AC コンセントに接続します（☞20 ページ）。

フロントパネルディスプレイ [1)]



❶ **再生インジケーター（YSP-4300 のみ）**
USB 端子に接続した iPod や USB 機器の曲を再生しているときに点灯します（☞48、54 ページ）。

❷ **DUAL（デュアル）インジケーター**
BS ／ CS ／地上デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します（☞38 ページ）。

❸ **TARGET（ターゲット）インジケーター**
ターゲット再生のときに点灯します（☞37 ページ）。

❹ **チューナーインジケーター（YSP-4300 のみ）**
FM 放送を受信しているときに点灯します（☞42 ページ）。

❺ **REPEATER（リピーター）インジケーター**
テレビリモコンリピーター機能がオンのときに点灯します（☞11 ページ）。

❻ **ワイヤレスインジケーター**
TX　付属のサブウーファーとの通信が確立しているときに点灯します（☞20 ページ）。
RX　付属のトランスミッターとの通信が確立しているときに点灯します（☞46 ページ）。

❼ **VOL インジケーター**
現在の音量を表示します（☞30 ページ）。

❽ **HDMI インジケーター**
HDMI 信号を入力しているときに点灯します。

❾ **CINEMA（シネマ） DSP インジケーター**
シネマ DSP 音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（☞32 ページ）。

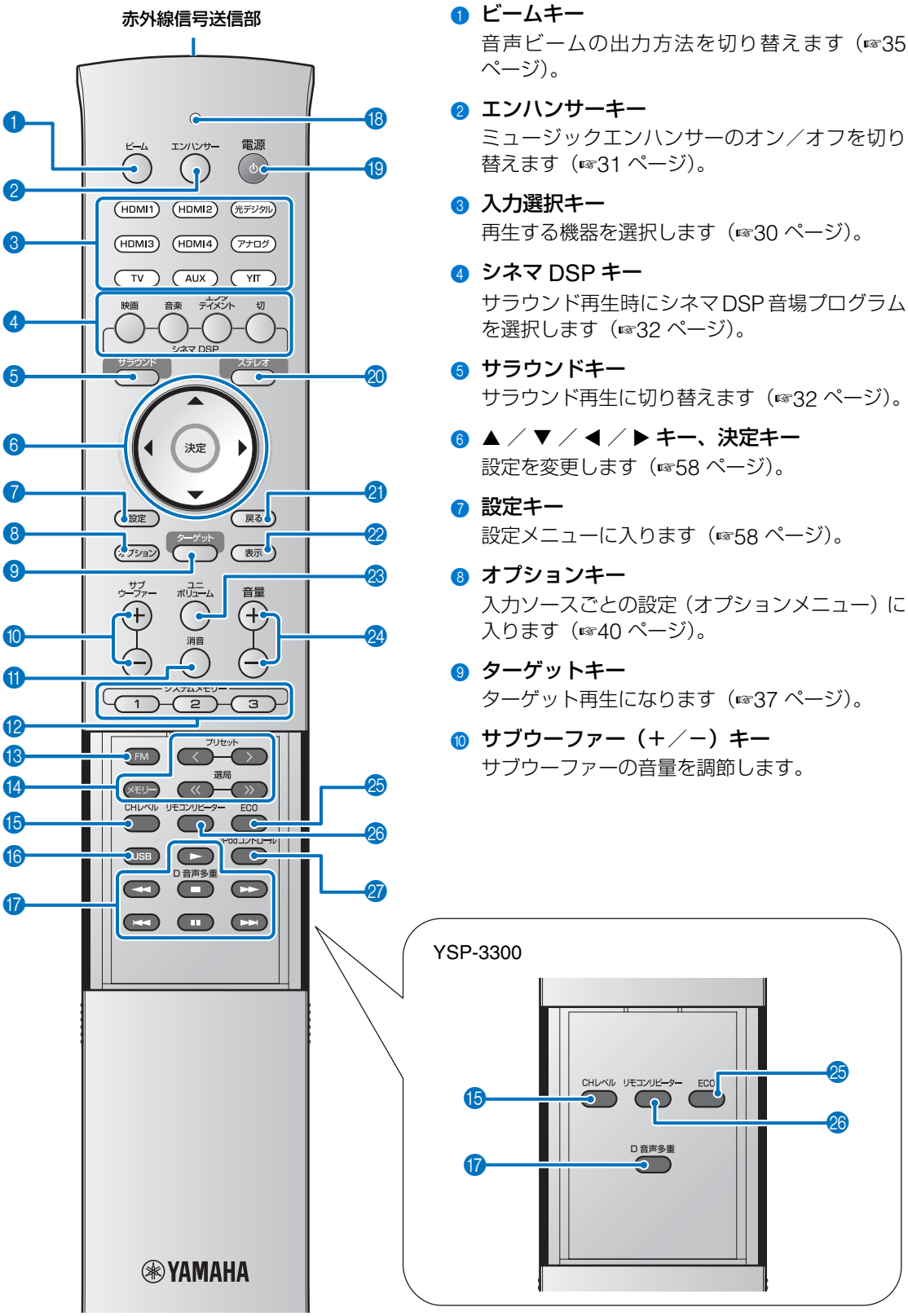
❿ **UNIVOLUME（ユニボリューム）インジケーター**
ユニボリュームがオンのときに点灯します（☞38 ページ）。

⓫ **ENHANCER（エンハンサー）インジケーター**
ミュージックエンハンサーがオンのときに点灯します（☞31 ページ）。

⓬ **マルチインフォメーションディスプレイ**
再生する機器の入力名やサラウンドなどの設定を表示します（☞39 ページ）。また、設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。

1) エコ機能がオンになっていると、フロントパネルディスプレイは消灯し、操作したときだけ点灯します。

リモコン



❶ **ビームキー**
音声ビームの出力方法を切り替えます（☞35 ページ）。

❷ **エンハンサーキー**
ミュージックエンハンサーのオン／オフを切り替えます（☞31 ページ）。

❸ **入力選択キー**
再生する機器を選択します（☞30 ページ）。

❹ **シネマ DSP キー**
サラウンド再生時にシネマDSP 音場プログラムを選択します（☞32 ページ）。

❺ **サラウンドキー**
サラウンド再生に切り替えます（☞32 ページ）。

❻ **▲／▼／◀／▶ キー、決定キー**
設定を変更します（☞58 ページ）。

❼ **設定キー**
設定メニューに入ります（☞58 ページ）。

❽ **オプションキー**
入力ソースごとの設定（オプションメニュー）に入ります（☞40 ページ）。

❾ **ターゲットキー**
ターゲット再生になります（☞37 ページ）。

❿ **サブウーファー（＋／－）キー**
サブウーファーの音量を調節します。

⓫ **消音キー**
一時的に消音します（☞30 ページ）。

⓬ **システムメモリーキー**
インテリビームの測定結果やスピーカーレベルなどの設定を保存します（☞27 ページ）。

⓭ **FM キー（YSP-4300 のみ）**
本機の入力をFMにします。

⓮ **チューナー操作キー（YSP-4300 のみ）**
FM放送局を選ぶときや、登録するときに操作します（☞42 ページ）。

⓯ **CH レベルキー**
再生中に音量バランスを調節します（☞31 ページ）。

⓰ **USB キー（YSP-4300 のみ）**
本機の入力をUSBにします（☞48 ページ）。

⓱ **再生操作キー**
- YSP-4300 のみ：iPod や USB 機器の曲を操作します（☞46 ページ）。
- D 音声多重キー：デジタル音声多重の設定を切り替えます（☞38 ページ）。

⓲ **トランスミッションインジケーター**
リモコンを操作したときに点灯します。

⓳ **電源（⏻）キー**
電源のオン／スタンバイを切り替えます（☞30 ページ）。

⓴ **ステレオキー**
ステレオ再生に切り替えます（☞31 ページ）。

㉑ **戻るキー**
ひとつ手前のメニュー表示に戻します。

㉒ **表示キー**
フロントパネルディスプレイに表示する情報を以下のように切り替えます。
- Input：入力名
- Beam：音声ビームの設定（ステレオ、ビームステレオ、ターゲットまたはサラウンド再生）
- Decoder：使用中の音声信号デコーダー
- DSP Program：シネマ DSP の音場プログラム（サラウンド再生時のみ）

表示される内容は、入力によって異なります（☞39、51、53、56 ページ）。

㉓ **ユニボリュームキー**
ユニボリューム機能のオン／オフを切り替えます（☞38 ページ）。

㉔ **音量（＋／－）キー**
音量を調節します（☞30 ページ）。

㉕ **ECO キー**
エコ機能のオン／オフを切り替えます（☞39 ページ）。

㉖ **テレビリモコンリピーターキー**
テレビリモコンリピーター機能のオン／オフを切り替えます（☞13 ページ）。

㉗ **iPod コントロール（YSP-4300 のみ）**
テレビにiPodのブラウズ画面／再生画面を表示させるときに押します（☞51 ページ）。

デモ機能

1チャンネルにダウンミックスした音声をビーム化し、左右に水平移動させながら出力します。本機からビームがどのように出力されているか体感できます。

デモ機能を動作させるには、以下のように操作します。

1 リモコンの**ターゲット**キーを押す。
2 シネマDSPの**切**キーを押す。

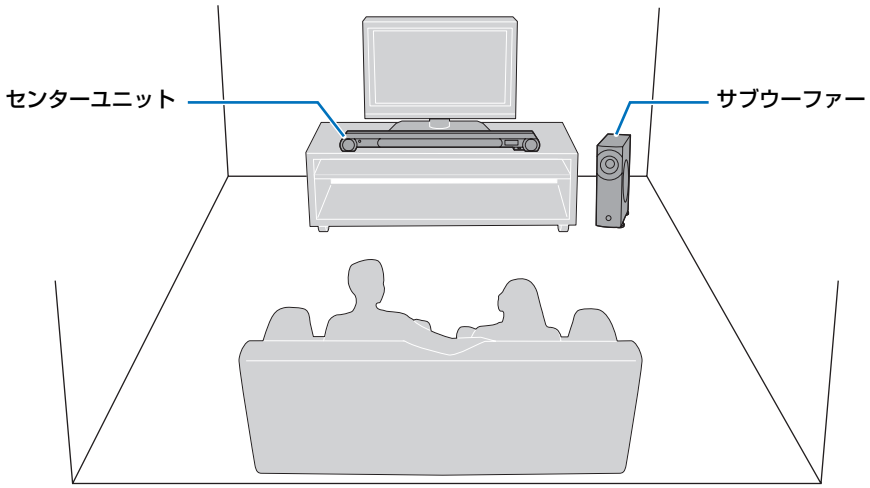
フロントパネルディスプレイに「AUTO DEMO」と表示されデモが始まります。
デモを終了するには、もう一度シネマDSPの**切**キーを押します。ターゲット再生に戻ります。

設置

十分なサラウンド効果を得るため、家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください（☞14 ページ）。設置場所によっては、先に外部機器（テレビなど）と接続したほうがよい場合があります。「接続」（☞17 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。
  －センターユニットの上部と後部に 5cm 以上、左右に 1cm 以上
  －サブウーファーの上部、後部および左右に 20cm 以上
  また、サブウーファーの放熱部（背面）を布なので覆わないでください。
- 地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。
- ブラウン管式テレビなど、熱を出すものの上へは直接設置しないでください。
- 万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。



テレビの前面に人感センサーなど各種のセンサーや、3D グラス用の発信部がついていることがあります。センターユニットがそのセンサーや発信部を隠すことがありますが、その場合はテレビとセンターユニットの距離を離してください。

推奨する設置

センターユニット

- 左右の壁の中央に設置してください。
- テレビの前にテレビのスタンドをまたぐように設置してください。
  テレビのリモコン受光部を隠してしまう場合は、「テレビリモコンリピーター機能」を使います（☞13 ページ）。
  テレビのスタンドが高くてまたげない場合は、センターユニットの高さを上げます（☞13 ページ）
- 視聴位置となるソファーなどが本機の正面になるように設置してください。
- センターユニットと視聴位置の間は 1.8m 以上離してください。

サブウーファー

- 壁の反射を防ぐために、サブウーファーの正面を少し内側に向けてください。
- ラックに設置する場合は、十分な放熱スペースと強度のあるものをお使いください。
- 本機のセンターユニットとサブウーファーは無線で通信します。センターユニットとサブウーファーのあいだに金属板があったり、金属製のラックにサブウーファーを置いたりするとサブウーファーの性能が十分に発揮されないことがあります。
- 横置きにもできます（☞14 ページ）。

音声ビームでサラウンドを視聴するのが難しい部屋の条件

本機は音声ビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

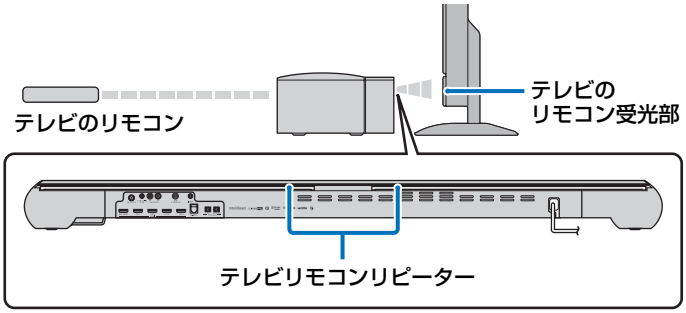
- ビーム経路上に壁がない部屋
- 壁の材質が吸音素材でできている部屋
- 部屋の大きさが幅 3m ～ 7m、奥行き 3m ～ 7m、高さ 2m ～ 3.5m にあてはまらない部屋
- 本機から視聴位置までの距離が 1.8m 未満の場合
- ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋
- 壁に近いところに視聴位置がある場合
- 視聴位置が本機の正面にない場合

部屋の条件を問わずにサラウンドを楽しむ（マイサラウンド機能）

サラウンドで視聴するのが難しい部屋（☞12 ページ）でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「サラウンドの音声出力方法を切り替える」（☞34、35 ページ）をご覧ください。

センターユニットの設置によりテレビのリモコンが効かないとき（テレビリモコンリピーター機能）

センターユニットでテレビのリモコン受光部が隠れてしまうと、テレビのリモコンで操作できないことがあります。このような場合は、本機のリモコンの**リモコンリピーター**キーを3秒以上押して、テレビリモコンリピーター機能をオンにします。フロントパネルディスプレイのREPEATERインジケーターが点灯します。
テレビのリモコンをセンターユニットのリモコン受光部に向けて操作すると、受信した信号を背面のテレビリモコンリピーターからテレビに転送します。
本機がスタンバイのときでも、テレビのリモコンの信号はテレビに転送されます。



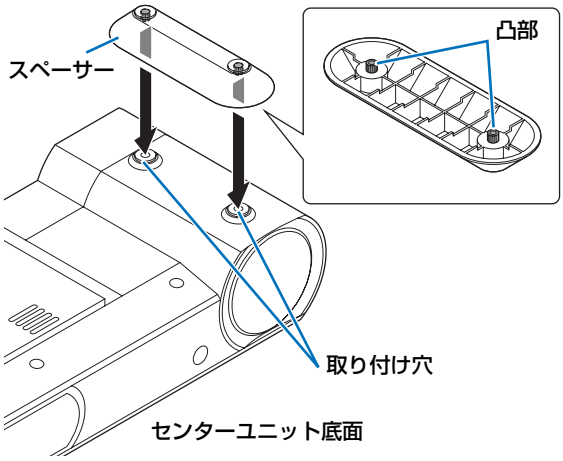
ご注意

テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ、この機能を利用できます。

センターユニットがテレビのスタンドをまたげないとき（センターユニットの高さを上げる）

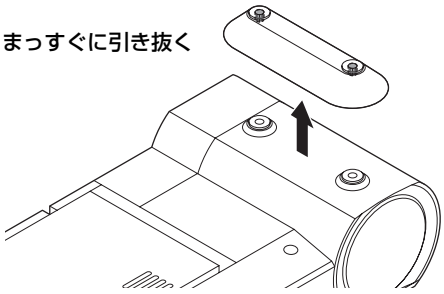
多くの場合、センターユニットはテレビのスタンドをまたいで設置できますが、センターユニットの高さが足りない場合はスペーサーを取り付けます。左右両方のスペーサーを取り付けてください。

スペーサー裏側の凸部を、センターユニット底面の取り付け穴に合わせて押し込む。



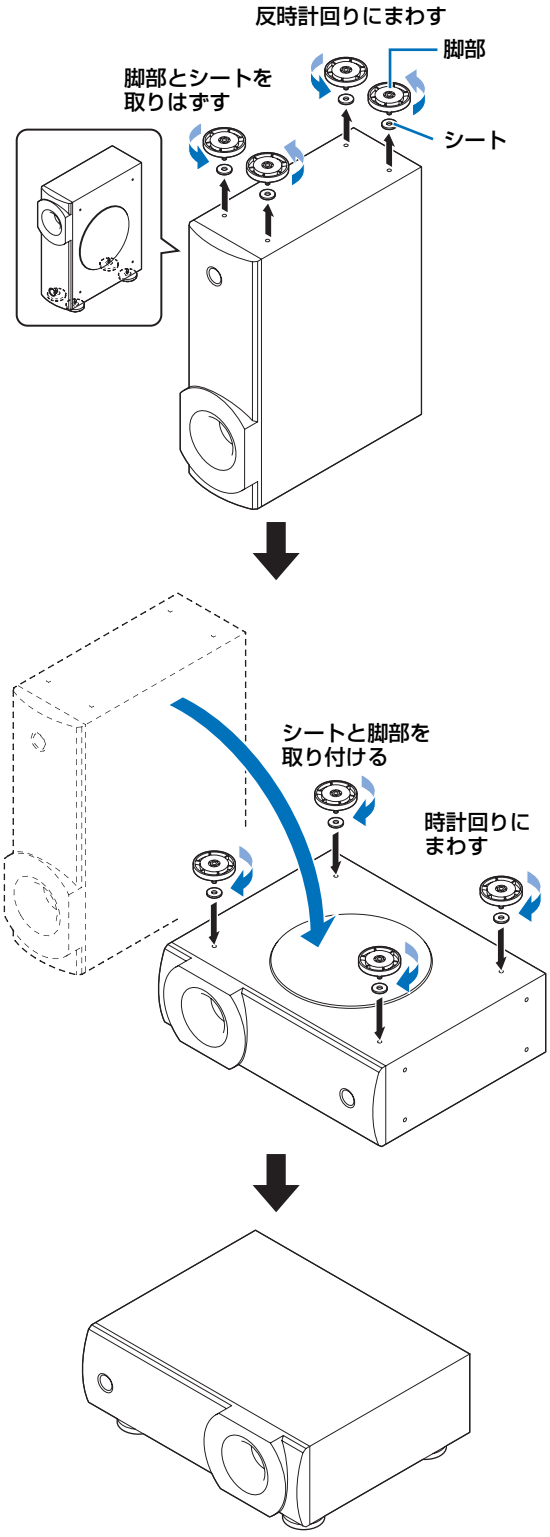
スペーサーの取りはずし方

スペーサーをまっすぐ上に引き抜きます。



サブウーファーを横置きにする

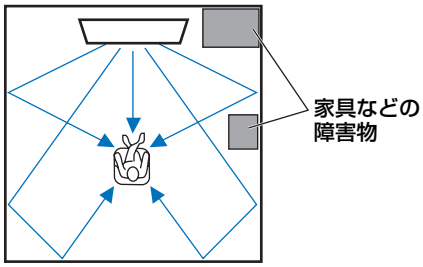
サブウーファーをラックに設置する場合など、横置きにできます。



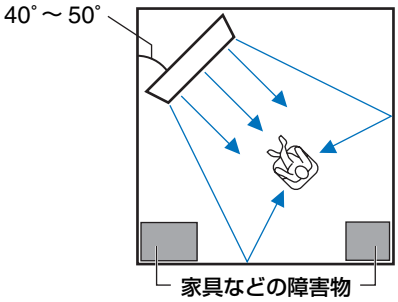
設置位置のポイント

本機は下図のように音声をビーム化して出力します。十分なサラウンド効果を得るために、下図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。
本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右どちらかの壁に近づきすぎないようにしてください。
本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が40°～50°の間におさまるように設置してください。

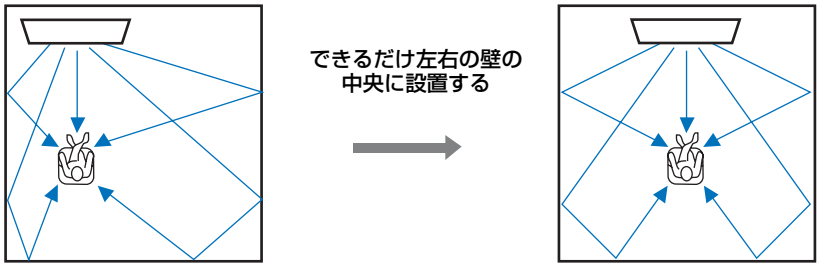
壁と平行に設置
〔5 ビームモードに設定した場合〕



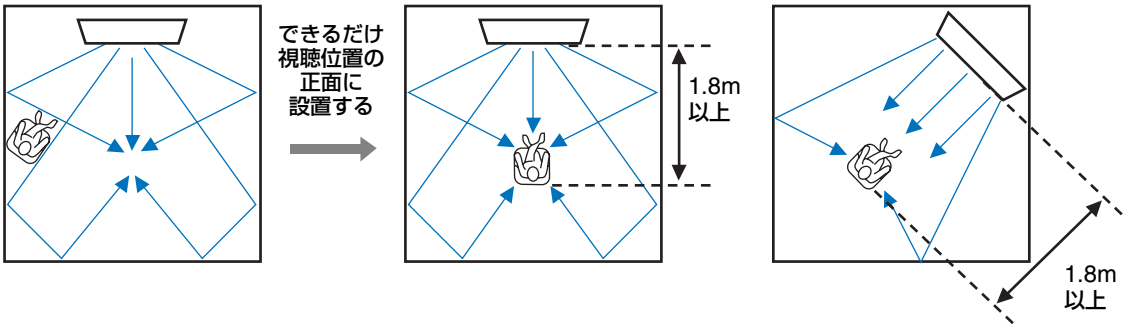
コーナーに設置
〔ST ＋ 3 ビームモードに設定した場合〕



壁と平行に設置する場合の本機の位置

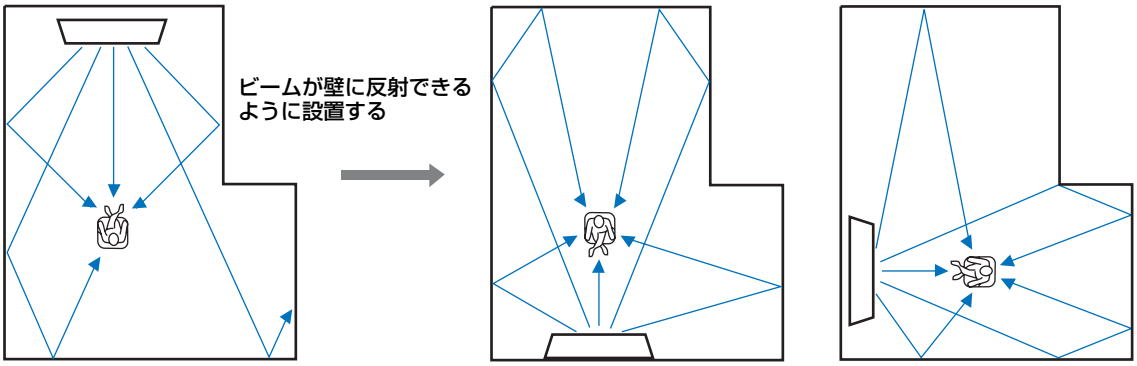


視聴位置と本機の位置

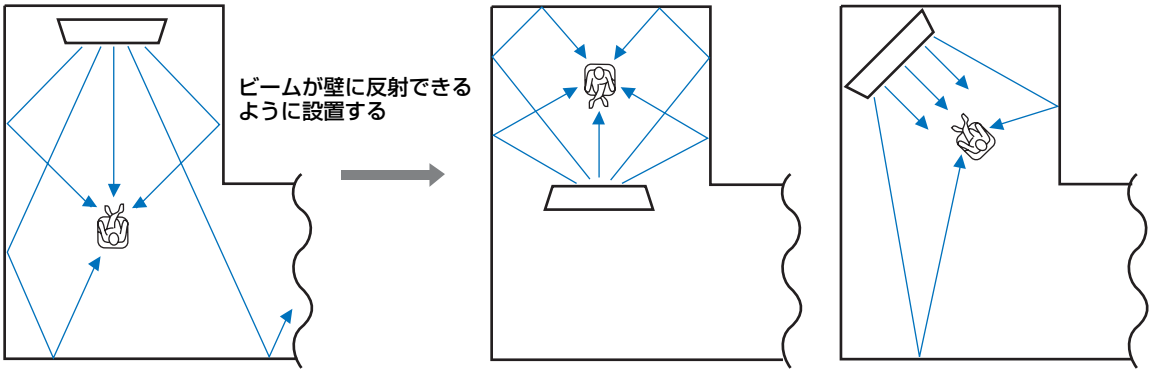


変則的な形の部屋に設置する場合

壁がある場合

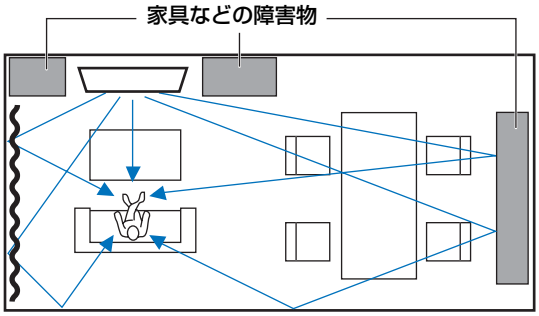


壁ではなく、長い廊下が続いている場合



リビングへの設置例

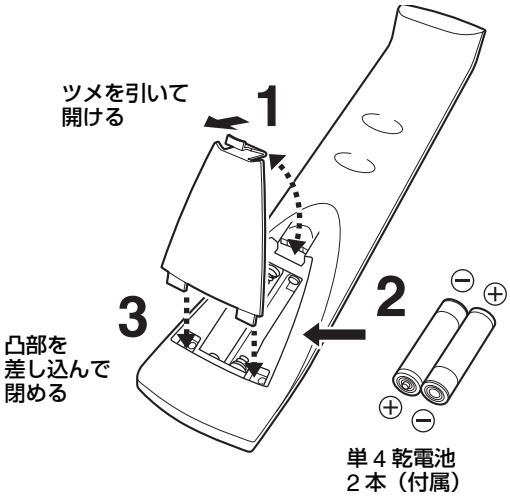
- 通常テーブルなどは音声ビームを通すため、障害にはなりません。また、壁に設置した戸棚などは音を反射します。
- 右図のような部屋の場合、自動設定（☞22 ページ）の後に右チャンネルの位置を調整することでさらに正確なサラウンド感を得ることができます。（☞61 ページ）
- カーテンは音を吸収するため、開けたときと閉めたときで音の特性が変わります。メモリー機能を使うことで、それぞれの状態に最適な設定を保存できます。（☞27 ページ）



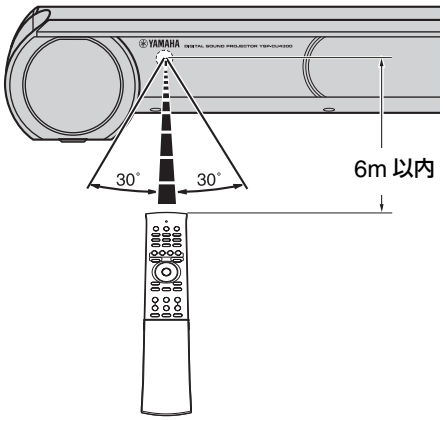
リモコンの準備

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」（☞80 ページ）および「リモコン」（☞83 ページ）をよくお読みください。

電池を入れる

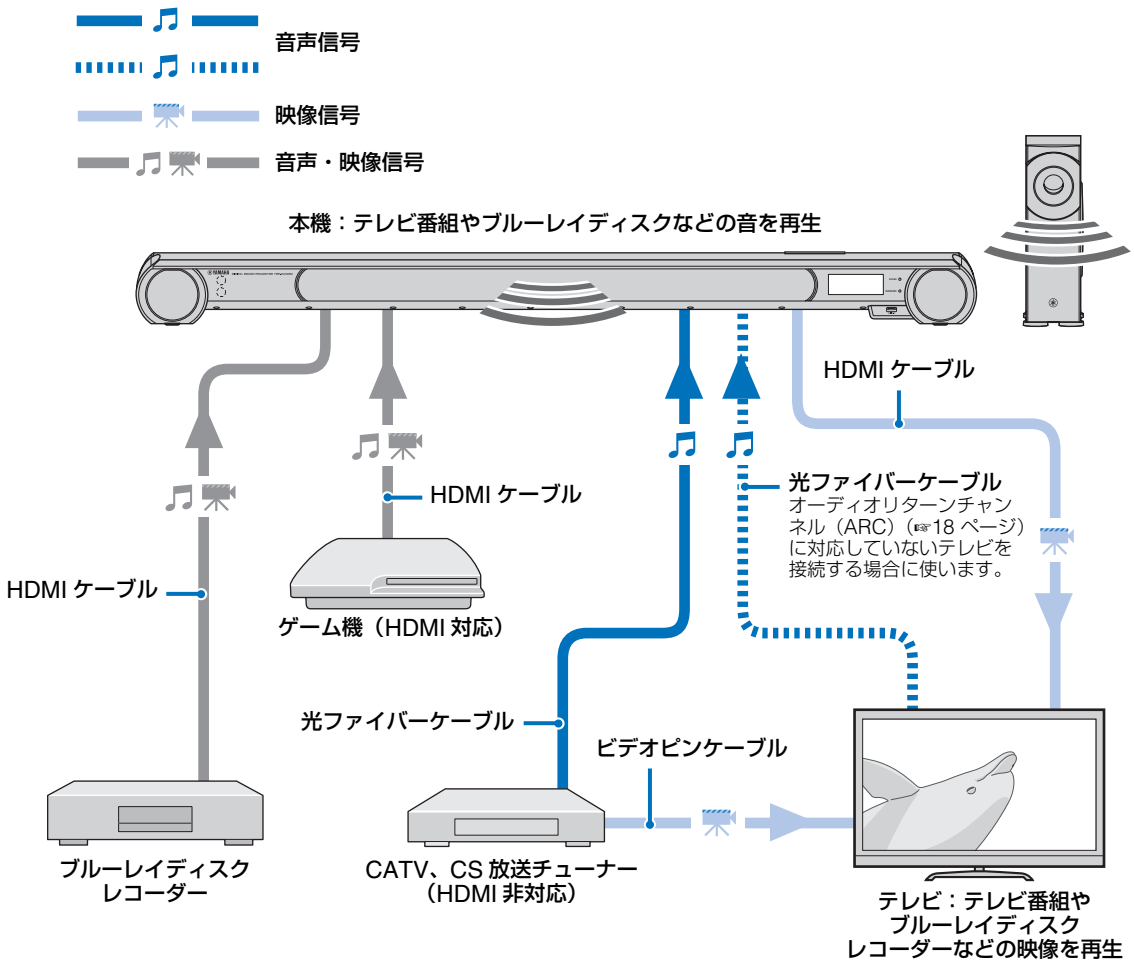


操作範囲



接続

本機にテレビとブルーディスクレコーダーやゲーム機などを接続すると、音と映像は下図のように伝達されます。



- 電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。
- ケーブルのプラグや端子が破損する原因となりますので、プラグを差し込むときに強い衝撃をあたえないようにしてください。

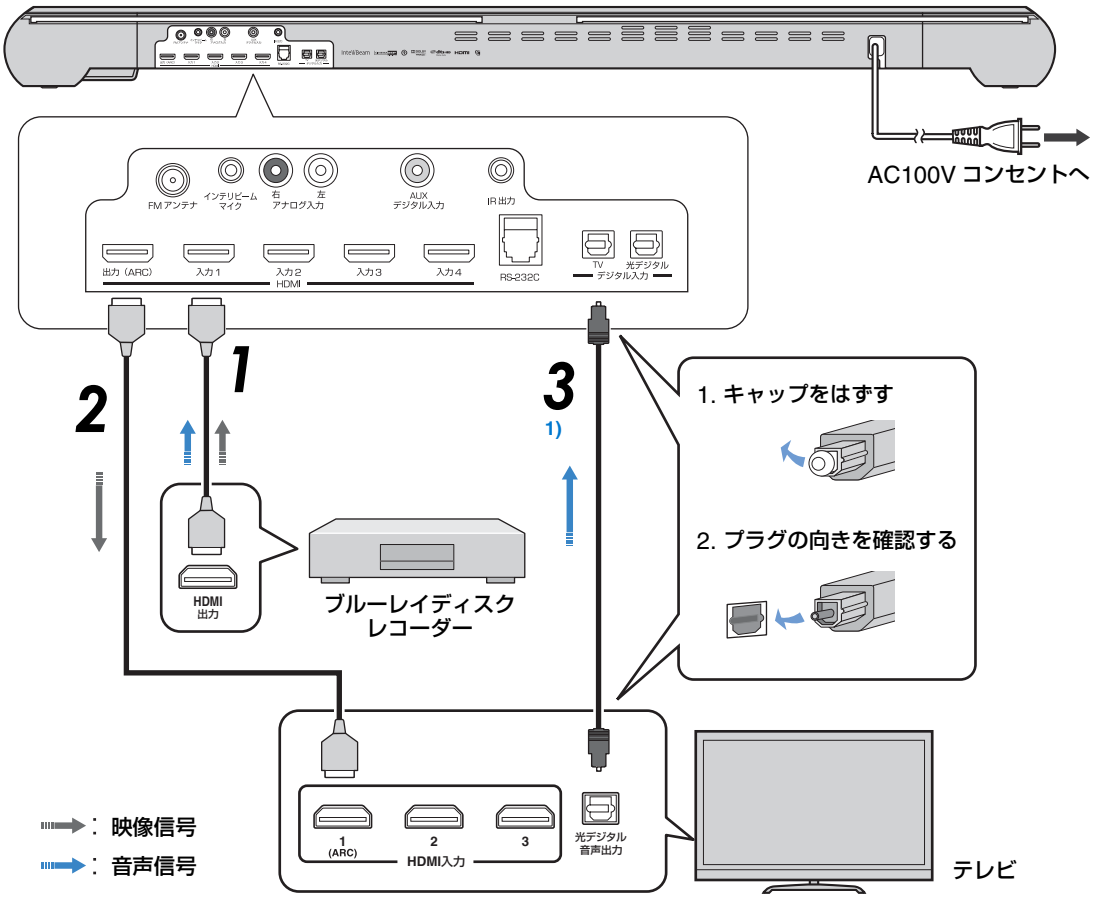
テレビ、ブルーレイディスクレコーダーを接続する

ケーブルは以下の順番で接続してください。

1 HDMI ケーブル（別売）
ブルーレイディスクのデジタル映像・音声を本機に入力します。

2 HDMI ケーブル（別売）
ブルーレイディスクのデジタル映像をテレビに映します。

3 光ファイバーケーブル（付属）
テレビのデジタル音声を本機で再生します。



1)

オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビの場合

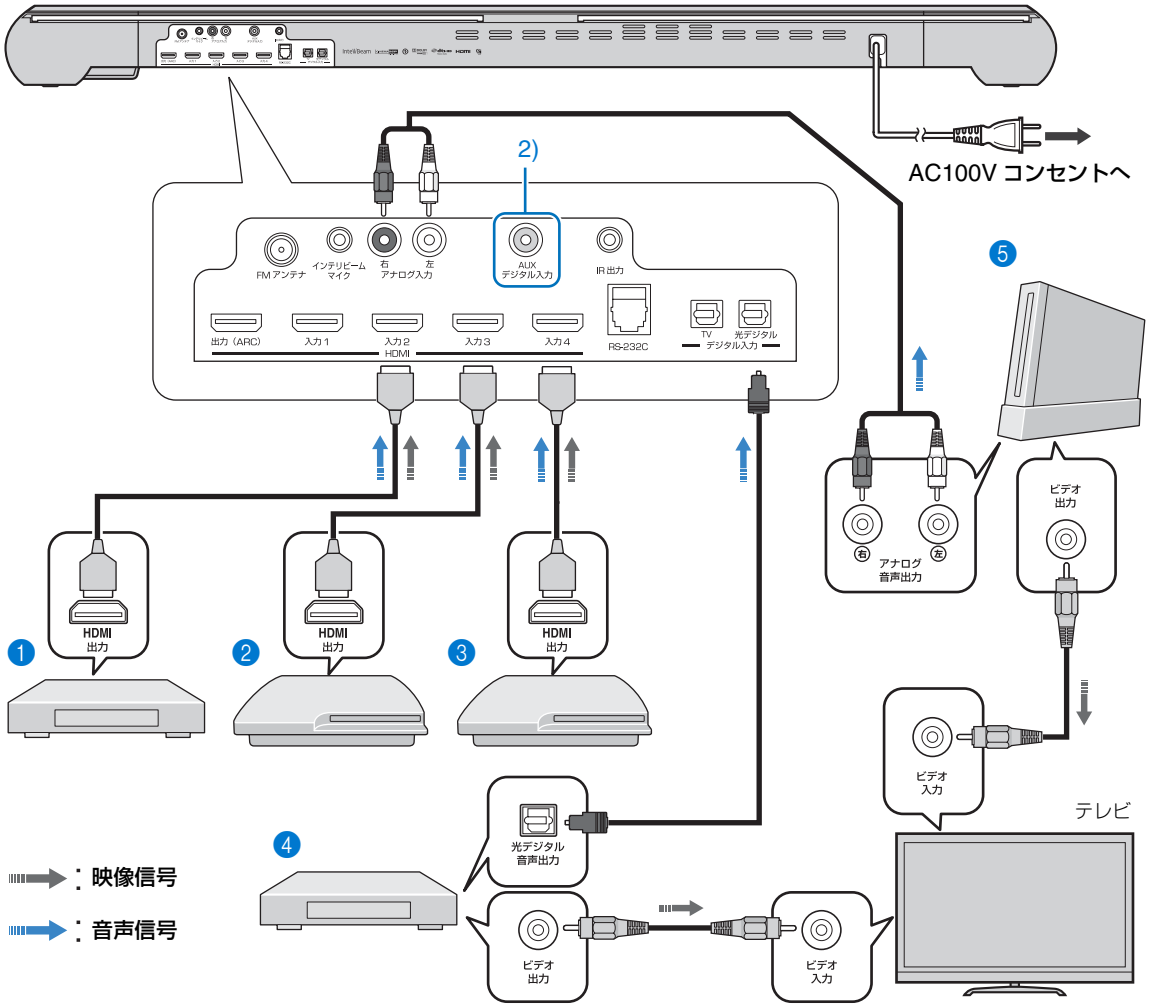
- HDMI ケーブルはテレビのオーディオリターンチャンネル対応端子（「ARC」などの表示のある端子）に接続してください。この場合、光ファイバーケーブルの接続は必要ありません。
- 本機の ARC を有効にするには、HDMI コントロール機能をオンにしてください（☞63 ページ）。

オーディオリターンチャンネル（ARC）とは？

テレビの出力するデジタルオーディオ信号を、HDMI ケーブルを通して本機へ伝送する機能です。この機能により、テレビから本機へ接続する光ファイバーケーブルを省略することができます。

ゲーム機や CATV、CS 放送チューナーなどを接続する

外部機器（例）		接続ケーブル
HDMI 対応	❶ CATV、CS 放送チューナー	HDMI ケーブル（別売）
	❷ ゲーム機	HDMI ケーブル（別売）
	❸ ゲーム機	HDMI ケーブル（別売）
HDMI 非対応	❹ CATV、CS 放送チューナー	光ファイバーケーブル（付属） ビデオピンケーブル（別売）
	❺ ゲーム機	ステレオピンケーブル（別売） ビデオピンケーブル（別売）

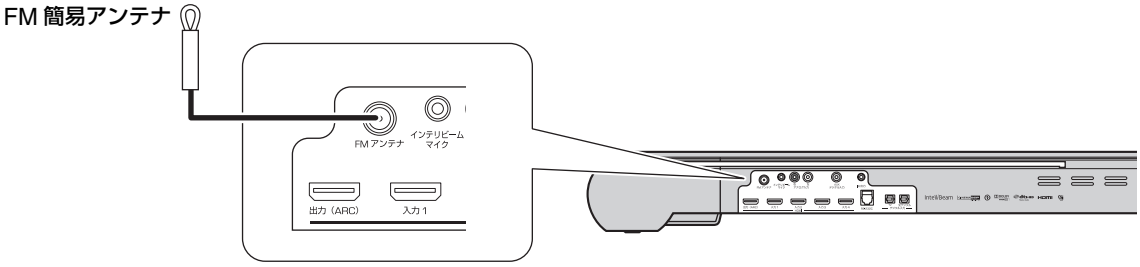


2)

同軸デジタル出力端子がある機器を追加する場合は、市販のデジタル音声ピンケーブルで本機のデジタル入力 AUX（同軸デジタル）端子と接続してください。

FM アンテナを接続する（YSP-4300 のみ）

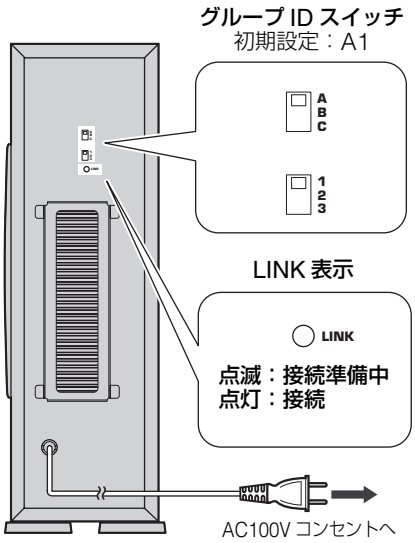
付属のFM簡易アンテナをFMアンテナ端子に接続します。



サブウーファーを無線接続する

本機のサブウーファー（NS-WSW160）はセンターユニットと無線で接続されます（AirWired）。
無線で接続するには、センターユニット、サブウーファー、および付属のトランスミッターを同じグループ ID にします。これらの機器のグループ ID はあらかじめ「A1」になっているので（初期設定）、サブウーファーの電源コードを AC コンセントに接続するだけで、センターユニットと無線で接続されます。
無線で接続されるとLINK 表示が点灯し、サブウーファーの電源がオンになります。

センターユニットの電源をスタンバイにすると、サブウーファーの電源がオフになり、LINK 表示は消灯します。



ヒント

グループ ID の詳細については、21 ページをご覧ください。

はじめて使うときの設定

無線接続のしくみ

センターユニット、サブウーファー、および付属のトランスミッターは、ヤマハ「AirWired」技術により無線接続されます。これにより、サブウーファーは配線を気にせず設置できるようになり、iPod、パソコンなどの曲をワイヤレスで簡単にお楽しみいただけるようになりました。

テレビやブルーレイディスクレコーダーなどを視聴するときは、センターユニットから音声信号を送信し、サブウーファーが受信します。トランスミッターを使ってiPodやパソコンの曲を聴くときは、トランスミッターから音声信号を送信し、センターユニットおよびサブウーファーが受信します。

機器どうしを無線で接続するには、「グループID」を一致させる必要があります。
センターユニットとサブウーファー、および付属のトランスミッターのグループIDは「A1」に初期設定されているので、グループIDを変更することなくそのままお使いいただけます。

グループ ID の種類

センターユニット、サブウーファー、およびトランスミッターのグループIDの種類には、A1～A3、B1～B3、C1～C3があります。
A1～A3およびB1～B3：音声の遅れがC1～C3より小さいです。
C1～C3：パソコンの曲を再生するときに使います（☞47 ページ）。
本機およびトランスミッターの近くにあるAirWired対応ヤマハ製機器と無線接続しない場合は、別のグループIDに設定してお使いください。

グループ ID を変更する

センターユニット

設定メニューの「グループID」で変更します（☞64 ページ）。

サブウーファー

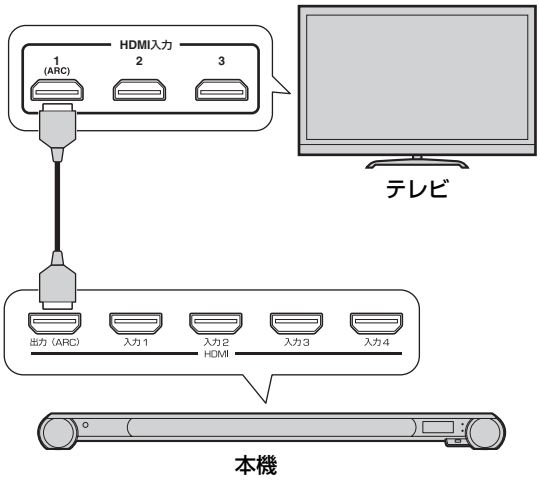
サブウーファー背面のグループIDスイッチで切り替えます（☞20 ページ）。

トランスミッター

トランスミッター側面のグループIDスイッチで切り替えます（☞47 ページ）。

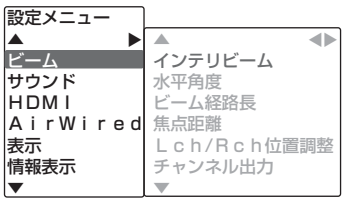
メニュー画面をテレビに表示させる

メニュー画面などをテレビに表示させることで、視覚的に操作を進められます。
テレビのリモコンの入力切り替えボタンで本機からの入力にしてください。
本機とテレビを下図のように接続したときは、入力切り替えボタンで「HDMI 1」を選びます。



メニュー表示を確認する

設定キーを押すと、設定メニューがテレビに表示されます。HDMIの入力信号があるときは、映像の上にメニューが表示されます。設定キーをもう一度押すと、設定メニューが終了します。



ご注意

設定メニュー（☞58 ページ）はテレビのみに表示されます。フロントパネルディスプレイには表示されません。

サラウンド効果を自動設定する（インテリビーム）

部屋の形状と大きさ、本機が設置されている場所などは、ご家庭によってさまざまです。本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に各チャンネルの設定を調節する必要があります。
本機には、各チャンネルの設定を自動的に調節する「インテリビーム」が搭載されています。「インテリビーム」には、「ビーム調整」および「音質調整」の2つの機能があります。
「ビーム調整」は、部屋の形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節する機能です。
「音質調整」は、部屋の音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節する機能です。
本機は、付属のインテリビームマイクを使用して、この2種類の設定を自動的に調節することができます。1)

ご注意

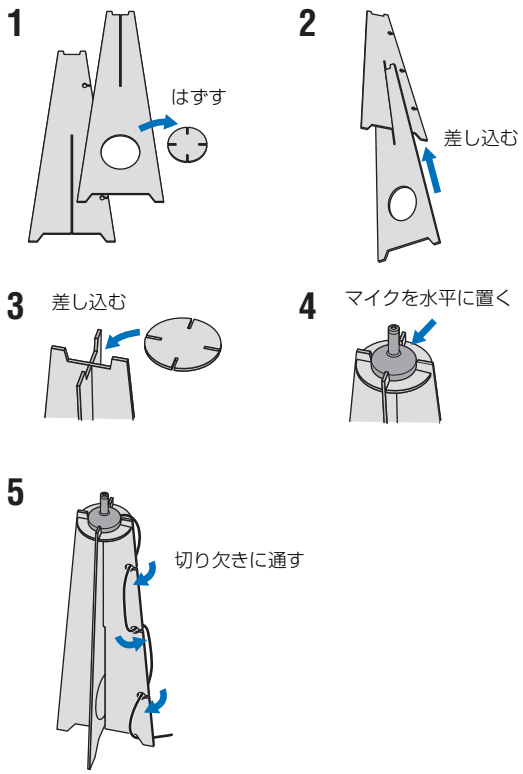
- 部屋の環境が「音声ビームでサラウンドを視聴するのが難しい部屋の条件」（☞12 ページ）に記載されている項目にあてはまる場合は、測定が正しくできないことがあります。このような部屋でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「サラウンドの音声出力方法を切り替える」（☞34、35 ページ）をご覧ください。
- インテリビームマイクは、延長ケーブルを使って接続しないでください。測定が正しく行われないことがあります。
- 自動設定が終わったら、インテリビームマイクをインテリビームマイク端子からはずして保管してください。
- インテリビームマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や AV 機器の上など高温になる場所には置かないでください。

インテリビームマイクを設置する

インテリビームマイクを視聴位置に設置する。

- 簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、マイクをできるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
- マイクは床と水平になるように置いてください。

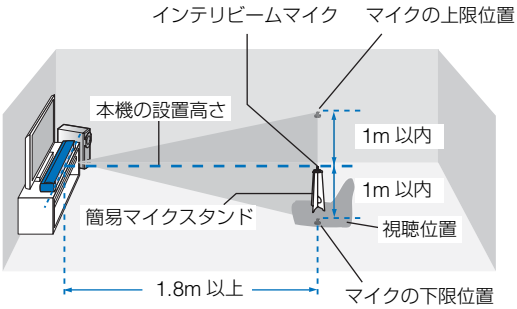
簡易マイクスタンドの組立て方法

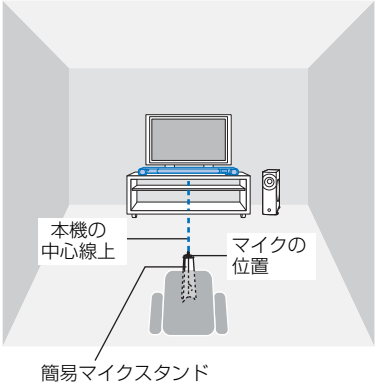


ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

1)

- 本機にインテリビームマイクを接続すると自動的に「ビーム調整＋音質調整」の測定画面が表示されます。また、設定メニューから「ビーム調整」と「音質調整」を個別に選ぶこともできます（☞25 ページ）。
- 自動設定されたデータは 3 種類までメモリーに保存することができます（☞27 ページ）。部屋の状況に合わせてデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。





測定する

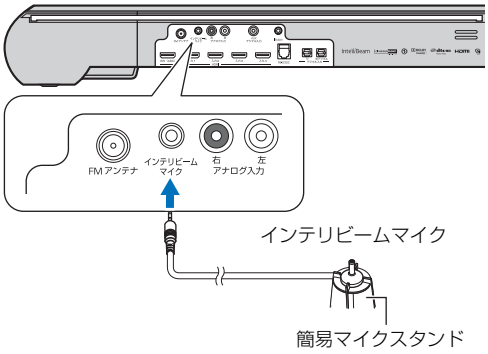
ご注意

- 測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様が部屋にいる場合や部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっている部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのような部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
  ① カーテンやブラインドを開ける　②「ビーム調整」をする（☞25 ページ）　③ カーテンやブラインドを閉める　④「音質調整」をする（☞25 ページ）
- エアコンなど動作音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

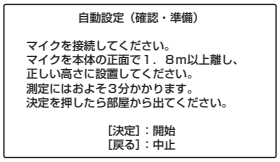
1 本機とテレビの電源をオンにする。

2 テレビの入力を本機からの映像に切り替える（☞21 ページ）。

3 インテリビームマイクを本機背面のインテリビームマイク端子に接続する。



インテリビームマイクを接続すると、以下の画面になります。2)

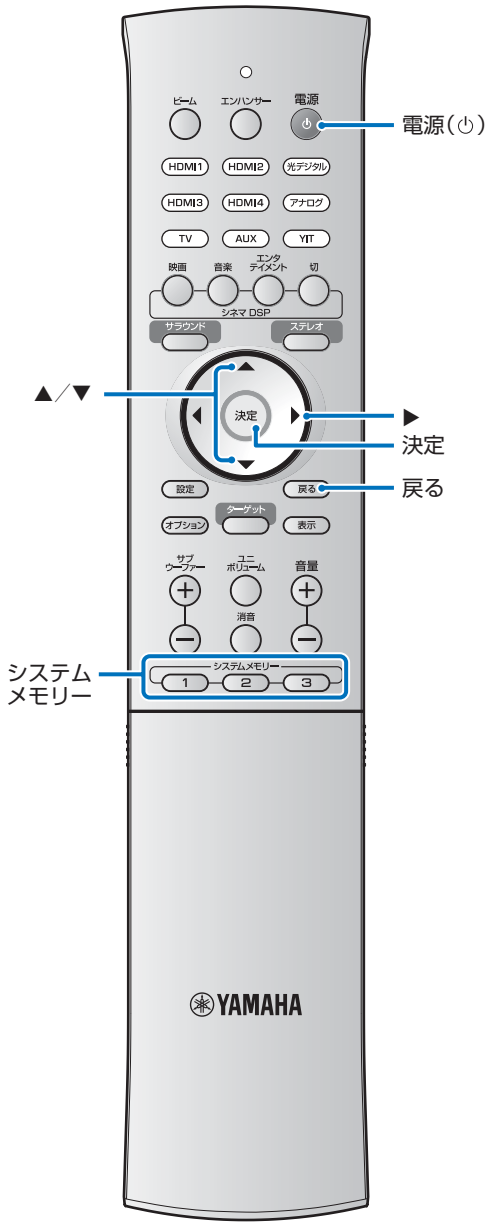


ご注意

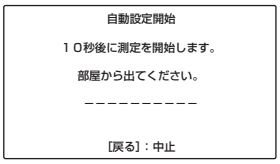
次の手順を実行したあと、部屋から出てください。部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。

2)

自動的に「ビーム調整＋音質調整」が選択されます。「ビーム調整」のみ、または「音質調整」のみを行う場合は、「設定メニューから自動設定する場合」（☞25 ページ）をご覧ください。

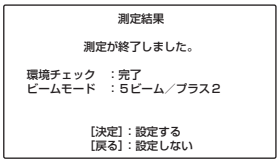


4 決定キーを押して測定を開始し、10 秒以内に部屋の外に出る。1)



（約 3 分後）

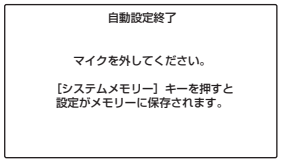
測定中の項目にしたがって、画面が自動的に切り替わります。



測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力されます。2)

5 決定キーを押す。3)

測定結果を本機に設定します。



- 設定された測定結果は、電源を切っても初期設定値には戻りません。ただし、自動設定をやり直したり、詳細設定で設定値を変更した場合は、設定結果が上書きされます。
- **システムメモリー**キーを押して、複数の測定結果を保存することもできます(☞27 ページ)。

---

1)

- 測定中は部屋の外でお待ちください。
  測定開始後に部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。
- 測定開始から終了まで、約 3 分かかります。
- 測定中に自動設定を中止したい場合は、**戻る**キーを押してください。

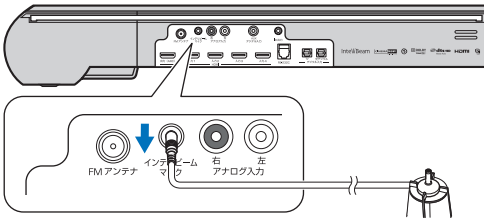
2)

エラー音（ブザー音）が鳴ったときは、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージが表示されたら」（☞25 ページ）をご覧ください。

- 「環境チェック　：エラー」と表示された場合は、正確に測定されていない可能性があります。「エラーメッセージ一覧表」（☞26 ページ）の「エラー E-1」の原因と対策を確認し、**戻る**キーを押してから、測定し直すことをおすすめします。
- 「ビームモード：5 ビーム」と表示された場合でも、部屋の状況によっては、フロントビームとサラウンドビームが同じ角度に設定されることがあります。

6 マイクをはずす。

「自動設定終了」画面が消えます。4)
マイクは大切に保管してください。



設定メニューから自動設定する場合

1 インテリビームマイクを視聴位置に置き、**設定**キーを押す。

インテリビームマイクの置きかたについては、「インテリビームマイクを設置する」（☞22 ページ）をご覧ください。

2 ▲／▼ キーで「ビーム」を選び、▶ キー5) を押す。

3 ▲／▼ キーで「インテリビーム」を選び、▶ キー 5) を押す。

4 ▲／▼キーで次の選択項目の中からいずれかを選び、▶ キー 5) を押す。

選択項目：

「ビーム調整＋音質調整」
購入後、初めて設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約3分です。

「ビーム調整」
ご利用の環境に合わせてビーム角度のみ設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約1分です。

「音質調整」
音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約2分です。
「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「ビーム調整」で調節したあとなどに使います。

5 「自動設定（確認・準備）」画面が表示されたら、インテリビームマイクを接続する。

インテリビームマイクの接続については「測定する」（☞23 ページ）をご覧ください。

6 「測定する」の手順 4、5、6 にしたがい設定をしたあと、マイクをはずす。

エラーメッセージが表示されたら

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージ一覧表」（☞26 ページ）で原因を確認し、問題を解決してから以下のように測定をやり直してください。

「エラー E-1」の場合
決定キーを押して測定をやり直してください。▶ キーを押して測定を続行することもできます。

「エラー E-7」の場合
電源（⏻）キーを押して本機をスタンバイにしたあと、再び電源を入れて測定してください。

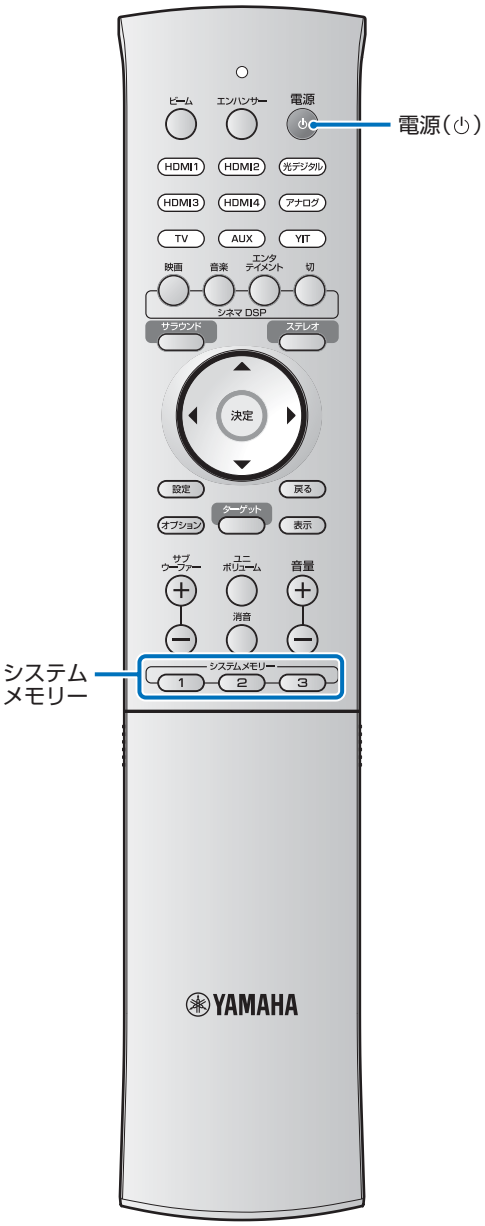
「エラー E-9」の場合
1 サブウーファーが無線接続されているかを確認する（☞20 ページ）。
2 **戻る**キーを押す。
「インテリビーム」のメニューが表示されます。
3 「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、または「音質調整」を選び、▶ キー 5) を押す。
4 手順 4、5、6 にしたがい測定をやり直す（☞24 ページ）。

「エラー E-2」から「エラー E-6」の場合
1 **戻る**キーを押す。
「インテリビーム」のメニューが表示されます。
2 「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、または「音質調整」を選び、▶ キー 5) を押す。
3 手順 4、5、6 にしたがい測定をやり直す（☞24 ページ）。

3) 測定結果を設定しない場合は**戻る**キーを押してください。

4) 設定メニューから自動設定を行った場合は、設定メニューのメニュー選択画面に戻ります。

5) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。



エラーメッセージ一覧表

エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます。	
原因	対策
雑音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど動作音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
	周囲が静かな時間帯にやり直してください。

エラー　E-2: マイクの接続をチェックしてください。再度、実行してください。	
原因	対策
インテリビームマイクが取りはずされました。	本機背面のインテリビームマイク端子にインテリビームマイクを接続し、測定をやり直してください。

エラー　E-3: 測定中に操作されました。再度、実行してください。	
原因	対策
測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。	測定中は本機を操作しないように注意し、測定をやり直してください。

エラー　E-4: マイクを本体の正面に設置してください。再度、実行してください。	
原因	対策
インテリビームマイクが本機正面に置かれていません。	インテリビームマイクを本機正面に設置し、測定をやり直してください。

エラー　E-5: マイクを本体から 1.8m 以上離して設置してください。再度、実行してください。	
原因	対策
インテリビームマイクが本機から 1.8m 未満の場所に設置されています。	インテリビームマイクを本機から 1.8m 以上離して設置し、測定をやり直してください。

エラー　E-6:　マイクから十分な入力がありません。マイクの接続・設置位置を確認してください。再度、実行してください。	
原因	対策
テスト音が取得できません。	インテリビームマイクを正しく設置し、接続を確認してから測定をやり直してください。

エラー　E-7: エラーです。パワーをオフした後、再度、実行してください。	
原因	対策
本機内部にエラーが発生しました。	**電源（⏻）**キーを押して本機をスタンバイにしたあと、再び電源を入れ、測定し直してください。

エラー　E-9：サブウーファーの接続を確認してください。	
原因	対策
サブウーファーが無線接続されていません。	サブウーファーが無線接続されているかを確認し（☞20 ページ）、測定をやり直してください。

システムメモリーに本機の設定を保存する

3種類の異なる設定を本機に保存し、使い分けることができます。以下の例を参考にして測定結果やサラウンドの設定などをシステムメモリーに保存し、状況に合わせて活用してください。

システムメモリーに保存できる設定：

- サラウンド再生（☞31 ページ）、ステレオ再生（☞31 ページ）、またはターゲット再生（☞31 ページ）
  （サラウンド再生では、音声ビームの出力方法（☞34 ページ）を含めて保存します。）
- インテリビームの測定結果（☞22 ページ）
  （設定メニュー（☞58 ページ）で「水平角度」、「ビーム経路長」、「焦点距離」、および「Lch/Rch 位置調整」を行った場合は、調整値がインテリビームの自動調整結果に上書きされます。）
- サラウンド機能：シネマ DSP（☞32 ページ）、サラウンドデコーダー （☞36 ページ）
- チャンネルの音量（☞31、62 ページ）
- トーンコントロール（☞41 ページ）

例1　異なる環境でのインテリビーム測定結果を保存する

音声ビームの経路上にカーテンなどの吸音物がある場合には、ビームの効果が減少します。そこで、カーテンを開けた状態と閉じた状態で測定し、システムメモリー 1と2にそれぞれ保存して使い分けます。

例2　使用頻度の高い設定を保存する

システムメモリー 1：　サラウンド設定
システムメモリー 2：　ターゲット再生の角度をキッチンに向けた設定
システムメモリー 3：　ターゲット再生の角度をリビングに向けた設定

例3　視聴者ごとの好みに合わせた設定を保存する

システムメモリー 1：　お父さん用
システムメモリー 2：　お母さん用
システムメモリー 3：　パーティー用

システムメモリーに保存する

1 **システムメモリー 1、2 または 3 キーを「M1 Save？」と表示されるまで押す。**

押したキーに応じて、M1、M2、またはM3と表示されます。

2 **手順 1 で押した システムメモリーキーを押す。** 1)

システムメモリー1 キーを押したときは、「M1 Saving」と表示され、設定が保存されます。

保存したメモリーを呼び出す

1 **設定を保存した システムメモリー 1、2、または 3 キーを押す。**

システムメモリー1 キーを押したときは、「M1 Load？」と表示されます。

2 **手順 1 で押した システムメモリーキーを押す。**

システムメモリー 1 キーを押したときは、「M1 Loading」と表示され、メモリーが呼び出されます。

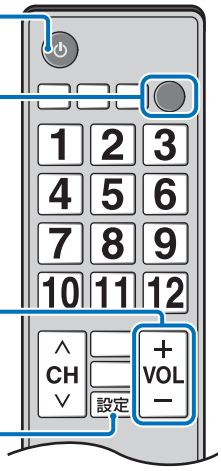
1)
- 選択したメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。
- 拡張メニュー（☞66 ページ）の「MEMORY PROTECT」が「ON」になっている場合は、システムメモリーを設定することができません。

テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）

HDMI コントロール機能とは

HDMI を使用したコントロール機能（リンク機能）に対応しているテレビ（一部を除く）と本機をHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで本機を操作できます（例：レグザリンク）。操作できる機能は主に以下の6つです。[1)]

テレビのリモコン（例）



1. **電源のオン／オフ**
   テレビと本機の電源が連動します。
2. **入力切り替え**
   - テレビの入力切り替えに連動して本機の入力も切り替わります。テレビのメニューでブルーレイディスクレコーダーなどを選択した場合も同様に切り替わります。
   - 本機の電源がスタンバイになっていても、入力の切り替えができます。
3. **音量の調整**
   「HDMI 音声出力」（☞63 ページ）が「AMP」（初期設定）のとき、本機の音量を調整できます。
4. **音声を出力する機器の切り替え（テレビ↔本機）**
5. **HDMI 信号パススルー**
   HDMI 入力信号を HDMI 出力（ARC）端子から出力します。本機の電源がスタンバイのときは、HDMI 入力映像と音声はテレビから出力されます。
6. **ARC 機能**
   テレビの HDMI（ARC）端子から出力される音声信号を本機に入力できます。

まず、テレビのリモコンで上記の操作を試してください。本機を操作できる場合は、そのままお使いください。操作できない場合は、HDMI コントロールに関する設定をしてください（☞29 ページ）。

1)

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダーなどを HDMI で接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/

2)

おまかせサラウンド機能

- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機を HDMI ケーブルで接続し、HDMI コントロール機能を有効にしてください（☞63 ページ）。
- この機能は、デジタル放送に組み込まれた番組情報のジャンル情報をもとにシネマ DSP を切り替えます。テレビ放送や、テレビの録画機能を使って録画した番組を再生するときに有効に動作します。ほかの番組に移行したり、チャンネルを切り替えたりしたときは、シネマ DSP の設定が切り替わります。
- 対応するテレビについては下記 WEB サイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/omakase_surround/

このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。
- デジタル放送のジャンル情報に合わせて最適なシネマ DSP（☞32 ページ）を自動的に選択（おまかせサラウンド機能）。[2)]
- ユニボリューム機能のオン／オフ
- デジタル音声多重の切り替え
- テレビに表示される本機のメニュー操作
- USB 端子に接続した iPod や USB 機器のブラウズ画面や再生画面の操作（YSP-4300 のみ）

HDMI コントロール機能の設定

1 **HDMI で接続しているすべての機器の電源をオンにする。**

2 **HDMI で接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**

本機側の「HDMI コントロール」が「オン」に設定されていることを確認します（☞63 ページ）。[3)] 外部機器側については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。[4)]

3 **テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする。**

HDMI 機器のテレビへの登録 [5)]

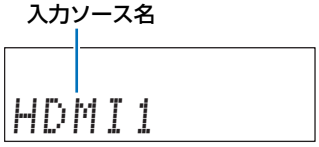
1 **テレビの入力を本機に切り替える。**

2 **本機に HDMI で接続したブルーレイディスクレコーダーなどの電源をオンにする。**

3 **本機の入力をブルーレイディスクレコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。**

ブルーレイディスクレコーダーを HDMI 入力 1 端子で接続している場合は、**HDMI1** キーを押します。

入力ソース名



4 **テレビのリモコンを使って本機の電源をオンにしたり、音量を調節したりして、本機が正しく連動しているか確認する。**

連動機能が動作しないときは

以下のように正しく接続や設定しているか、ご確認ください。
— テレビを本機の HDMI 出力（ARC）端子に接続している
—「HDMI コントロール」（☞63 ページ）が「オン」に設定されている
— テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっている（電源連動機能や優先スピーカーの設定など関連する設定も確認してください）

それでも連動機能が動作しない場合は、
— 本機およびテレビの電源を一度オフにしてからオンにしてください。
— 本機および HDMI 接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経ってから、接続し直してください。
— 光デジタル、アナログ、AUX、YIT、または USB[6)] を入力したあとは、テレビの入力と本機の入力を HDMI 接続した機器に切り替えてください。

接続方法や接続機器を変更する

接続する機器や端子を変更した場合は以下の手順で再設定してください。

1 **テレビやレコーダーの HDMI コントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。**

2 **「HDMI コントロール機能の設定」の手順 1 ～ 3 を再度操作する。**

3)
- 初期設定では「オン」に設定されています。
- **「HDMI コントロール」が「オン」に設定されているとき**
  エコ機能（☞39 ページ）がオンの場合、テレビのリモコンで、音声をテレビから出力するように設定すると、本機の電源はスタンバイになります。

4)

テレビの設定の例
- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」（例）を選択し、「HDMI 連動機能」などの項目を「連動する（使用する）」に設定してください。
- 「優先スピーカー」などの設定は「AV アンプ」にしてください。

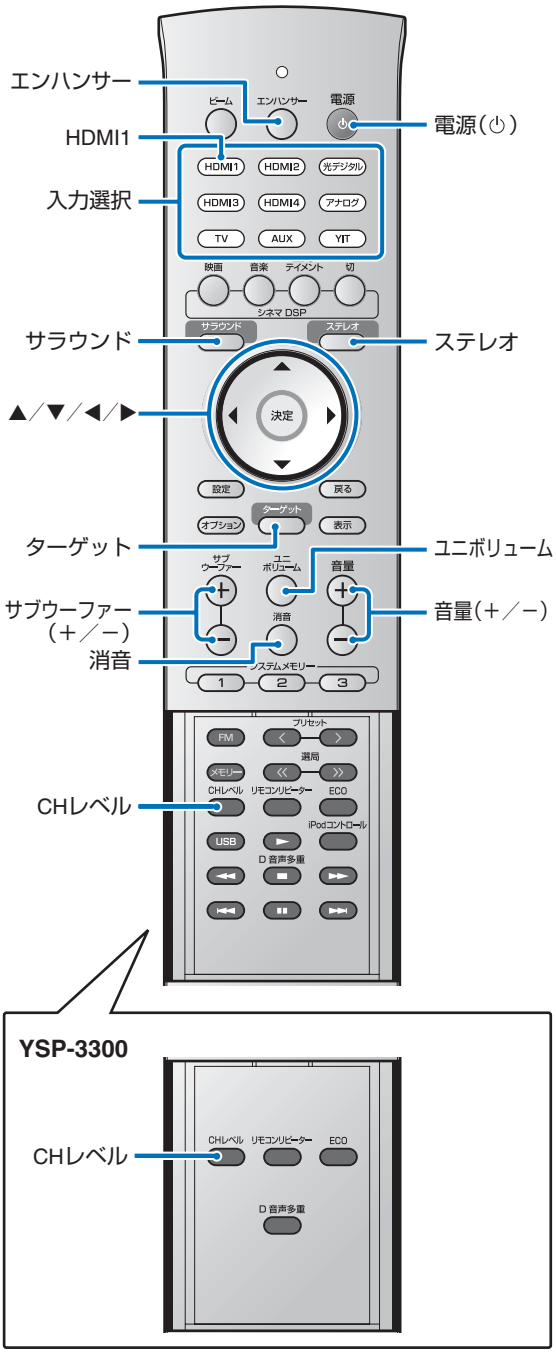
5)

HDMI コントロール機能を設定するだけで本機能を使用できる HDMI 機器もあります。この場合、HDMI 機器のテレビへの登録は必要ありません。

6)

YSP-4300 のみ

再生



再生の基本手順

1 **電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。**

2 **本機に接続した機器（テレビ、ブルーレイディスクレコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。**

3 **外部機器の接続に合わせて入力選択キーを押し、視聴する機器の入力を選ぶ。**

HDMI 入力 1 端子に接続したブルーレイディスクレコーダーを再生する場合は、**HDMI1** キーを押します。

入力ソース名

HDMI1

4 **手順 3 で選択した機器を再生する。**

5 **音量を調節するには、音量（＋／－）キーを押す。**

サブウーファーの音量を調節するには、サブウーファー（＋／－）キーを押す。 1)

- テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。
- HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンの**音量（＋／－）**キーや**消音**キーを押しても音量は変化しません。
- 一時的に消音にするには、リモコンの**消音**キーを押します。消音機能を使って再生しているときは、フロントパネルディスプレイの VOL インジケーターが点滅します。消音を解除するには再度**消音**キーを押すか**音量（＋／－）**キーを押します。

6 **サラウンド再生、ステレオ再生、ターゲット再生などを選び、お好みのサウンドに設定する（☞31 ページ）。**

使用後は、電源（⏻）キーを押し、本機の電源をスタンバイにする。

1)
- サブウーファーの音量は全体の音量と独立して設定ができます。
- 夜はサブウーファーの音量を絞るなどしてお楽しみいただくことをおすすめします。

2)
- YIT、または USB（YSP-4300 のみ）入力時はオン、YIT および USB 以外の入力時はオフに初期設定されています。
- 次のデジタル音声信号の場合、ミュージックエンハンサーは動作しません。
  －ドルビー TrueHD、DTS-HD マスターオーディオなどの信号
  －サンプリングレートが 48kHz を超える信号

お好みのサウンドを楽しむ

本機にはサウンドをより楽しめる以下のような機能があります。

- サラウンド再生／ステレオ再生／ターゲット再生の切り替え
- ミュージックエンハンサー
- 各チャンネルの音量調整
- シネマ DSP
- サラウンドの音声出力方法の切替
- サラウンドデコーダー

ステレオ再生、サラウンド再生、ターゲット再生を切り替える

ステレオ再生する場合

ステレオキーを押して、ステレオ再生に切り替える。

ステレオキーを押すたびに、ステレオ（標準）とビームステレオが切り替わります。

ステレオ　　ビームステレオ

STEREO ↔ BM STEREO

「ステレオ」では、フロントのチャンネルをメインにしてステレオ再生します。
「ビームステレオ」では、左右それぞれのチャンネルの音声をフロント左右の音声ビームで再生します。音が広がって聞こえます。

サラウンド再生する場合

サラウンドキーを押してサラウンド再生に切り替える。

音声ビームでサラウンド再生を楽しめます。音声ビームの出力方法を切り替えるには、34 ページをご覧ください。

ターゲット再生する場合

ターゲットキーを押してターゲット再生に切り替える。

「ターゲット」再生とは、すべてのチャンネルの音声を1チャンネルの音声ビームで出力し、その音声を特定の視聴者に向けて聞きやすくする再生方法です。詳しくは、37 ページをご覧ください。

MP3 や WMA などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー）

MP3 や WMA などの圧縮音声を、低音域と高音域を強調、拡張してダイナミックに再生します。

エンハンサーキーを押して、ミュージックエンハンサーをオンにする。[2)]

もう一度押すと、オフになります。

各チャンネルの音量を調整する

各チャンネルの音がバランス良く聞こえるように、再生しながらチャンネルごとの音量を調整します。[3)]

1 **CH レベル**キーを押して、以下から調節したいチャンネルを選ぶ。

FL：フロント左
FR：フロント右
C：センター
SL：サラウンド左
SR：サラウンド右
SW：サブウーファー

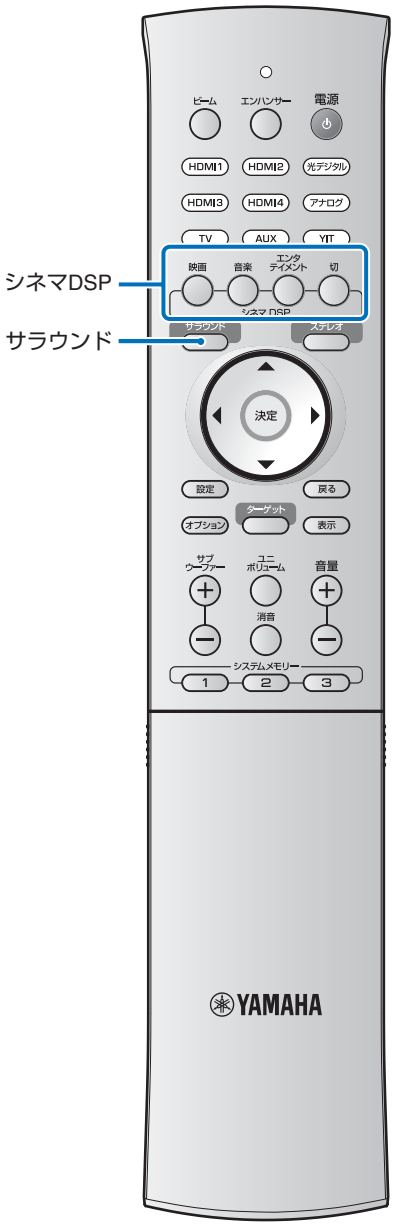
マイサラウンド（MY SUR.）を選択しているとき（☞35 ページ）
C：センター
SL／**SR**：サラウンド左右
SW：サブウーファー

2 ▲／▼ キーを押して、音量レベルを調節する。[4)]

調節範囲：－20～＋20

3) テスト音を聴きながら調節する場合は「スピーカーレベル」（☞62 ページ）をご覧ください。

4) **音量バランスの調整例**
- セリフが聞き取りにくい場合：C（センター）を選び、レベルを上げます。
  音の包囲感が少ない場合：SL (サラウンド左）と SR（サラウンド右）を選び、レベルを上げます。
- サブウーファーの音量は**サブウーファー（＋／－）**キーを使用して調整することもできます。



臨場感のあるサラウンド音声を楽しむ（シネマ DSP）

ヤマハ独自のシネマDSP技術を用いてサラウンドで再生します。1)

1 **サラウンド**キーを押して、サラウンドモードに切り替える。

2 **シネマ DSP** キー（**映画**、**音楽**または**エンタテイメント**）を繰り返し押してプログラムを選ぶ。2) 3)

選択したプログラムがフロントパネルディスプレイに表示され、CINEMA DSPインジケーター（☞9 ページ）が点灯します。

1)

シネマ DSP（デジタル・サウンドフィールド・プロセッサー）とは？

世界の著名なコンサートホールや劇場などで測定したデータに基づく音場（音の広がり）技術を応用することにより、ご家庭で映画館のような視聴体験を実現する機能です。

2)

次の場合はシネマ DSP の機能は無効です。

- サンプリング周波数が 48kHz を超える信号を再生している
- マイサラウンド機能を使用している（☞35 ページ）
- ステレオ再生している
- ターゲット再生している（☞37 ページ）

本機のシネマDSP

映画（映画キーで切り替え）

SFX

音楽および効果音が、SFの映像空間をリアルに表現します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に適しています。

Adventure（アドベンチャー）

音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感をつくりだします。

Spectacle（スペクタクル）

ワイドな空間をイメージできる臨場感をつくりだします。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

音楽（音楽キーで切り替え）

Concert（コンサート）

ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールの1階座席にいるような臨場感をつくりだします。豊麗な響きと落ち着いた雰囲気を感じることができます。

Jazz Club（ジャズクラブ）

ニューヨークにかつて存在したライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面にいるような臨場感をつくりだします。左右の幅が広く、リアルな躍動感を感じることができます。

Music Video（ミュージックビデオ）

ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像／音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。

エンタテイメント（エンタテイメントキーで切り替え）

Sports（スポーツ）

スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

Variety（バラエティー）

トークの聞き取りやすさはそのままに、客席の賑やかさが周りを包み込んで、番組の楽しさが倍増します。バラエティー番組、トークショーなどをライブ感豊かに楽しめます。

Drama（ドラマ）

セリフは明瞭さを保ちつつ質感を高め、効果音やBGMには自然な雰囲気と立体感を与えます。シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの番組に対応します。

Game（ゲーム）

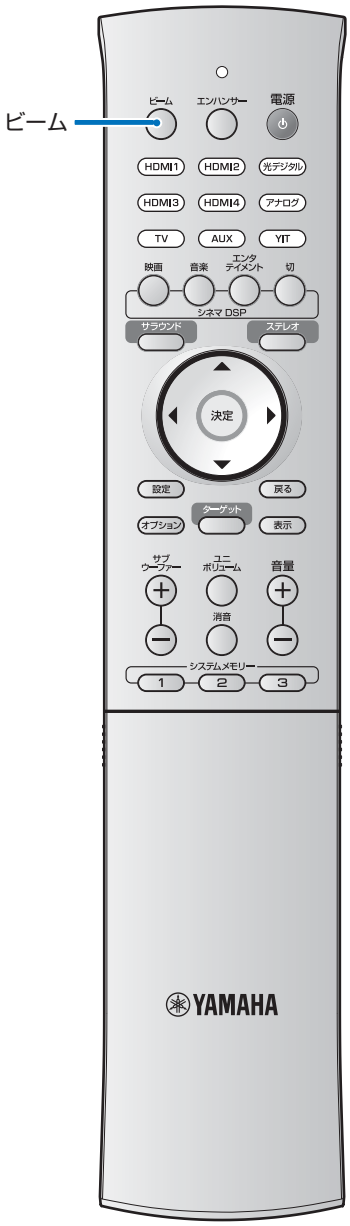
RPGや、アドベンチャーゲームなどに最適な音場です。映画用の音場効果などを用いて、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を楽しめます。

DSP Off（切キーを押す）

シネマDSPをオフにします。

3)

入力ごとに設定されたモードを記憶します。他の入力を選ぶと、自動的に前回設定されたモードになります。



サラウンドの音声出力方法を切り替える

サラウンド再生時の音声ビームの出力方法を設定します。

ビームキーを押して、音声ビームの出力方法を切り替える。

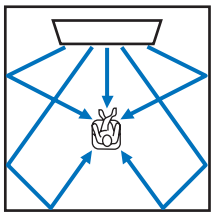
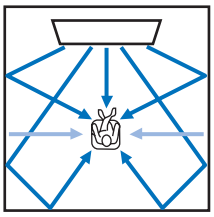
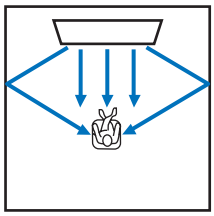
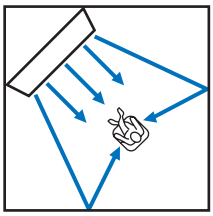
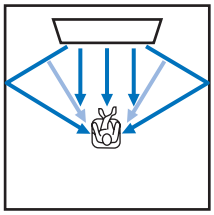
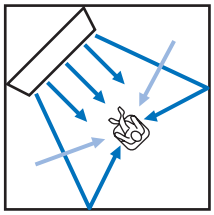
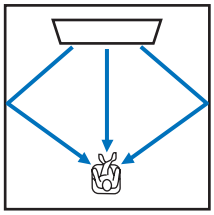
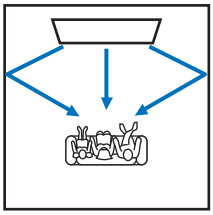
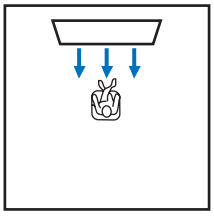
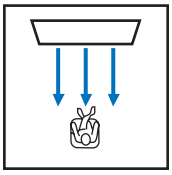
入力信号が5.1チャンネル（または2チャンネル）のとき：
音声ビームは5.1チャンネル出力になり、5BEAM（5ビーム）、ST＋3BEAM（ステレオ＋3ビーム）、3BEAM（3ビーム）、MY SUR.（マイサラウンド）から選べます。

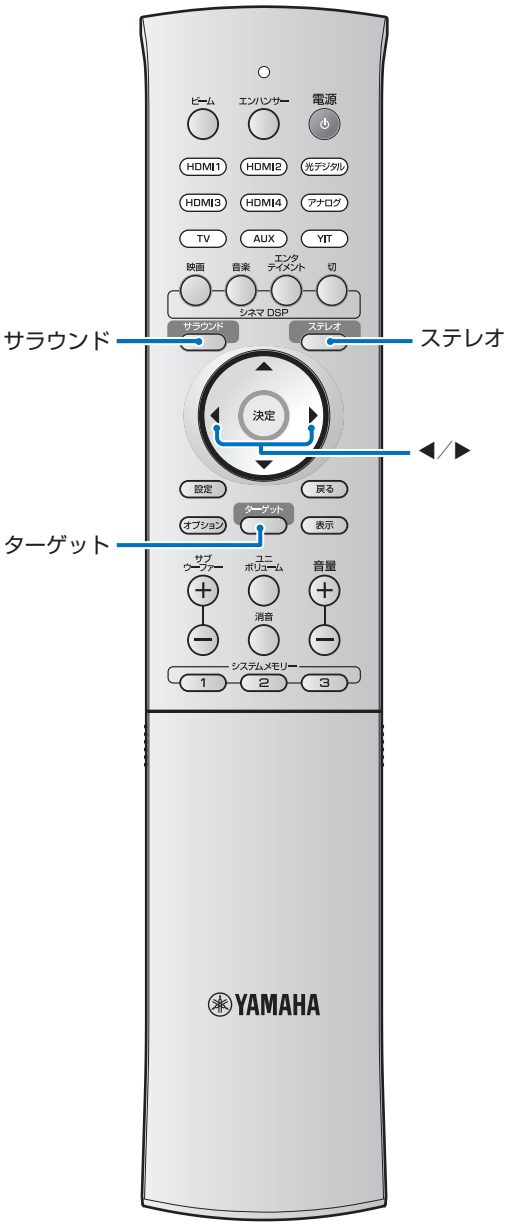
入力信号が7.1チャンネル（または6.1チャンネル）のとき：
音声ビームは7.1チャンネル出力になり、5BEAM＋2（5ビーム プラス2）、ST＋3BEAM＋2（ステレオ＋3ビーム プラス2）、3BEAM（3ビーム）、MY SUR.（マイサラウンド）から選べます。

ヒント

- 音声ビームのチャンネル出力設定は、初期設定でAUTOになっています。AUTOの設定では、入力信号により上記のように適切なチャンネル数で出力します。
  入力信号が2ch／5.1chのとき→5.1ch出力
  入力信号が6.1ch／7.1chのとき→7.1ch出力
- 設定メニューの「チャンネル出力」（☞61ページ）で、5.1chまたは7.1ch出力に固定できます。

音声ビーム出力の種類と特長

目的／想定シーン	チャンネル数	
	「5.1ch」	「7.1ch」
映画などでサラウンドの効果を存分に味わいたい場合	**5BEAM（5ビーム）**  フロント左／右、センター、サラウンド左／右の各チャンネルから音声ビームを出力します。	**5BEAM+2（5ビーム プラス2）**  フロント左／右、センター、サラウンドバック左／右の各チャンネルから音声ビームを出力します。サラウンド左チャンネルは、フロント左とサラウンドバック左チャンネルにミックスされます。音声ビームのフロント左とサラウンドバック左チャンネルからサラウンド左チャンネル（→）の音像ができます。右チャンネルも同様です。
ライブ映像などを鑑賞する場合	**St+3BEAM（ステレオ+3ビーム）**   フロント左／右のステレオ音声に加え、センター、サラウンド左／右の各チャンネルから音声ビームを出力します。	**St+3BEAM+2（ステレオ+3ビームプラス2）**   フロント左／右のステレオ音声に加え、センター、サラウンドバック左／右の各チャンネルから音声ビームを出力します。サラウンド左チャンネルは、フロント左とサラウンドバック左チャンネルにミックスされます。音声ビームのフロント左とサラウンドバック左チャンネルからサラウンド左チャンネル（→）の音像ができます。右チャンネルも同様です。
数人で映画を見るときや、後方の壁に近い位置で鑑賞する場合	**3BEAM（3ビーム）** フロント左／右、センターの各チャンネルから音声ビームを出力します。その他のチャンネルはフロント左／右にミックスされます。  	
視聴位置が本機から近い場合や、部屋の都合でサラウンド効果が十分に得られない場合	**My SUR.（マイサラウンド）** 視聴位置が本機正面の場合に効果を発揮します。他のサラウンド出力方法の設定ではサラウンド効果が十分に得られない環境でもサラウンド感溢れる音声を楽しむことができます。  	



サラウンドデコーダーを設定する

2チャンネルや5.1チャンネルのソースをサラウンドモードで再生する場合、本機のサラウンドデコーダーを使うと最大7.1チャンネルで再生できます。[1)] サラウンドデコーダーはそれぞれ特長があるため、使用するデコーダーを切り替えることによってサラウンド効果を調整することができます。[2)]
サラウンドデコーダーを使って再生するときは、**サラウンド**キーを押して「DSP Off」にしてください。

設定メニュー→「サウンド」→「マトリックスデコーダー」から使用するデコーダーを選ぶ。

設定メニューの操作は、「設定メニュー」の「操作手順」（☞58 ページ）をご覧ください。

選択できるデコーダーとおすすめのソース

2ch→5ch

デコーダー		おすすめのソース
PLII （ドルビープロロジック II）	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム
Neo:6 （DTS Neo:6）	Cinema Music	映画 音楽

2ch→7ch

デコーダー		おすすめのソース
PLIIx （ドルビープロロジック IIx）	Movie Music[3)] Game	映画 音楽 ゲーム
Neo:6 （DTS Neo:6）	Cinema Music	映画 音楽

1)

5.1 チャンネルのソースを再生するときのサラウンドデコーダーについて

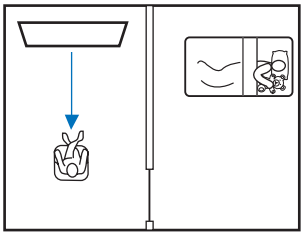
「Ch Out」（チャンネル出力）を「7.1ch」に設定した場合、5.1 チャンネルソースを最大 7.1 チャンネルで再生できます（☞34 ページ）。入力信号に応じて、以下のデコーダーが自動的に選択されます。

5.1ch 入力ソース	デコーダー
PCM、AAC、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルサラウンド EX、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス	ドルビープロロジック IIx Movie ／ Music
DTS デジタル、DTS-ES matrix、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション	DTS-ES matrix
DTS-ES discrete	DTS-ES discrete

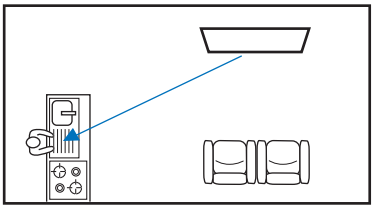
特定の位置に音声を届ける（ターゲット再生）

音声ビームを1チャンネルで出力して、特定の位置いる視聴者が最適に視聴できるようにします。
以下のような場合を参考にしてターゲット再生をお楽しみください。

周囲に音を響かせたくないとき



キッチンなど離れた位置からセリフなどをはっきりと聞き取りたいとき



再生しながらビーム角度を調節します。

1 **ターゲット**キーを押す。

2 ◀／▶キーで左右のビーム角度を調節する。

- ◀キーを押すたびに左方向の角度が大きくなり、▶キーを押すたびに右方向の角度が大きくなります。左右 90 度まで調節できます。
- USB 端子に接続した iPod や USB 機器を再生しているときは、「TARGET」と表示されているあいだに◀／▶キーを押してください（YSP-4300 のみ）。

左 16 度に調節したとき

ターゲット再生をオフにする

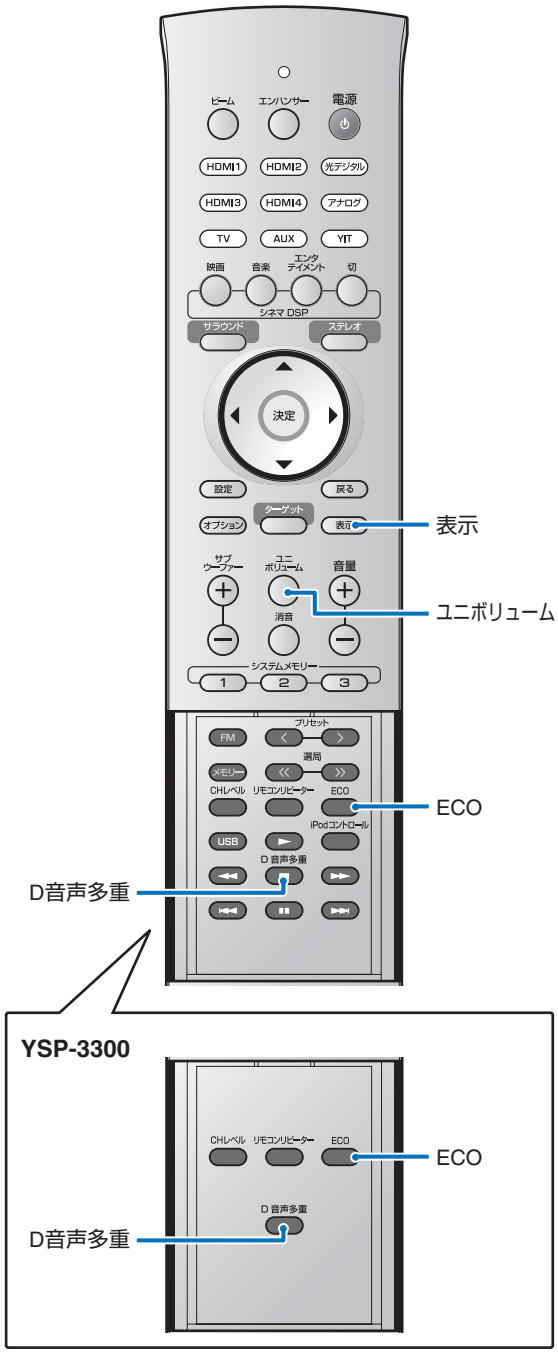
サラウンドキーまたは**ステレオ**キーを押します。

ヒント

ターゲット再生中は、サラウンドデコーダー、およびシネマ DSP は無効です。

2)
- 音声ビームのチャンネル出力の設定（☞35 ページ）により、選択できるデコーダーは異なります。
- ステレオ再生（☞31 ページ）やマイサラウンド機能を使用している場合（☞34、35 ページ）、またはターゲット再生のとき（☞37 ページ）は無効です。

3)
ドルビープロロジック IIx Music のパラメーター（センターの広がり、パノラマ、ディメンジョン）を設定メニューで変更できます（☞63 ページ）。



便利な機能を使う

音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）

テレビを視聴中、以下のような場合に、過大な音量の差を自動的に補正して聞きやすくします。

- チャンネルを切り替えた
- 番組から CM へ変わった
- 番組が終わって次の番組が始まった

ユニボリュームキーを押して、ユニボリュームをオンにする。1)

もう一度押すと、オフになります。

二カ国語放送の音声を切り替える

BS／地上デジタル放送の AAC やドルビーデジタルの音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。2)

D 音声多重キーを繰り返し押す。

再生する音声の設定が切り替わります。3)

選択項目：MAIN、SUB、MAIN＋SUB

MAIN（初期設定）：主音声を出力します。
SUB：副音声を出力します。
MAIN＋SUB：主音声と副音声の両方を出力します。

1)

- 初期設定はオフです。
- 音楽ソースを再生するときは、オフにすることをおすすめします。

2)

この設定は DUAL インジケーターが点灯しているときに有効です。

3)

ソースに副音声が収録されていない場合、音声は切り替わりません。

エコ機能で節電する

以下のような場合に、本機を自動的にスタンバイにします。

- 最後の操作から 3 時間経過したとき 4)
- 信号が入力されずに 30 分経過したとき
- トランスミッターにセットしたiPodの再生を停止してから 2 分経過したとき
- トランスミッターにセットしたiPodの電源をオフにしたとき
- トランスミッターにセットしたiPodがスリープ状態になったとき
- iPod をトランスミッターから取りはずしたとき
- パソコンからトランスミッターを取りはずしたとき

ECO キーを押す。

以下のように表示したあと、フロントパネルディスプレイが消灯します。

ECO ON

STATUS 表示とSURROUND 表示の明るさは最小になります。

ヒント

エコ機能がオンのときは、次のような制限があります。

- トランスミッターにセットした iPod を再生しても、本機の電源はオンになりません（☞46 ページ）。
- HDMI コントロール機能を使って、音声をテレビから出力するように設定してある場合は（☞29 ページ）、本機の電源がスタンバイになります。

エコ機能をオフにする

ECO キーを押します。
「ECO OFF」がフロントパネルディスプレイに表示されます。

フロントパネルディスプレイの情報表示を切り替える

入力名とサラウンドに関する情報を表示します。

表示キーを押す。

表示キーを押すたびに、以下のように切り替わります。表示される情報は入力によって異なります。

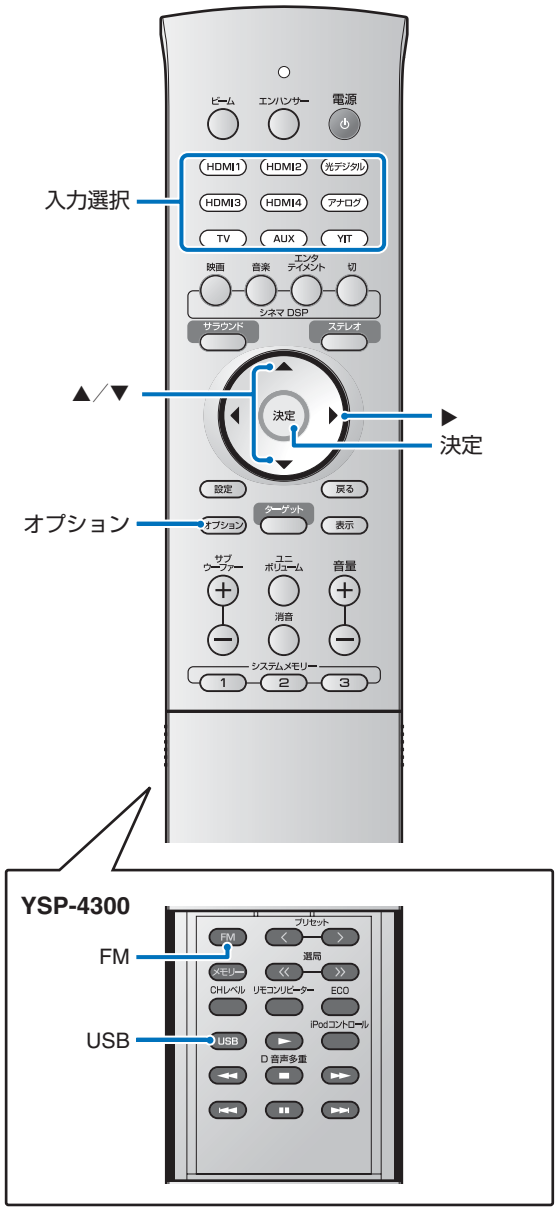
入力がHDMI1～4、YIT、TV、光デジタル、アナログ、FM5)のとき

Input： 入力名
（FMは周波数表示）
↓
Beam：音声ビームの設定（☞34 ページ）
↓
Decoder： 動作しているデコーダー
（☞36 ページ）
↓
Cinema DSP： シネマDSP プログラム
（☞32 ページ）
↓

入力がUSB5)のときの表示切り替えについては、53、56ページをご覧ください。

4)
エコ機能がオフのときでも、最後の操作から 12 時間経過すると本機の電源はスタンバイになります。

5)
YSP-4300 のみ



入力ごとの設定（オプションメニュー）

入力（HDMI1～4／TV／光デジタル／AUX／アナログ／YIT／FM[1]／USB[1]）ごとに設定します。設定できる項目は入力によって異なります。

1 **入力選択**キーを押して、入力を選ぶ。

2 **オプション**キーを押す。

オプションメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます（テレビには表示されません）。

TREBLE

3 ▲／▼キーで項目を選択し、▶キー[2]を押す。

4 ▲／▼キーを押して、設定値を変更する。

5 **オプション**キーを押して、オプションメニューを終了する。

1) YSP-4300 のみ

2) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。

オプションメニュー項目一覧

各入力には、以下のようなメニュー項目があります。

入力ソース	メニュー項目
HDMI1 ～ 4	TREBLE、BASS、VOLUME TRIM、AUDIO DELAY、AUDIO ASSIGN
TV	TREBLE、BASS、VOLUME TRIM、AUDIO DELAY
光デジタル（OPTICAL）	
AUX	
アナログ（ANALOG）	
YIT	TREBLE、BASS、VOLUME TRIM
FM（YSP-4300 のみ）	TREBLE、BASS、VOLUME TRIM、AUTO PRESET[3)]、CLEAR PRESET[3)]、FM MODE[3)]
USB（YSP-4300 のみ）	TREBLE、BASS、VOLUME TRIM、REPEAT[4)]、SHUFFLE[4)]

オプションメニュー項目の内容は以下のとおりです。現在選択している入力に設定が反映されます。「＊」は初期設定を表しています。

音色を調整する（TREBLE、BASS）

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

調整範囲：－12～0*～＋12

各端子の入力レベルを設定する（VOLUME TRIM）

端子ごとに入力レベルを設定して、入力機器ごとの異なる音量のばらつきを調節します。

調整範囲：－12～0*～＋12

映像と音声のタイミングを調整する（AUDIO DELAY）

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて表示されることがあります。このタイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

調整範囲

HDMI1～4：AUTO*、0ms～500ms

TV、光デジタル、AUX、アナログ：0ms*～500ms

「AUTO」にすると、出力タイミングが自動的に調節されます。HDMI で接続されたテレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応しているときのみ有効です。

HDMI の音声を他の入力端子に割り当てる（AUDIO ASSGIN）

HDMI1～4を入力するとき、HDMI からの音声ではなくデジタル入力 光デジタル端子またはデジタル入力AUX（同軸デジタル）端子からの音声を割り当てることができます。

選択項目：HDMI*、OPTICAL、AUX

ヒント

AUX の初期設定はデジタル入力 AUX（同軸デジタル）端子ですが、設定メニューの「TV インプット」（☞63 ページ）の設定により、以下のように音声が割り当てられます。

「TV インプット」で「オプティカル」（初期設定）を割り当てているとき：

「AUX」に設定すると、デジタル入力 AUX（同軸デジタル）端子の音声が割り当てられます。

「TV インプット」で「コアキシャル」を割り当てているとき：

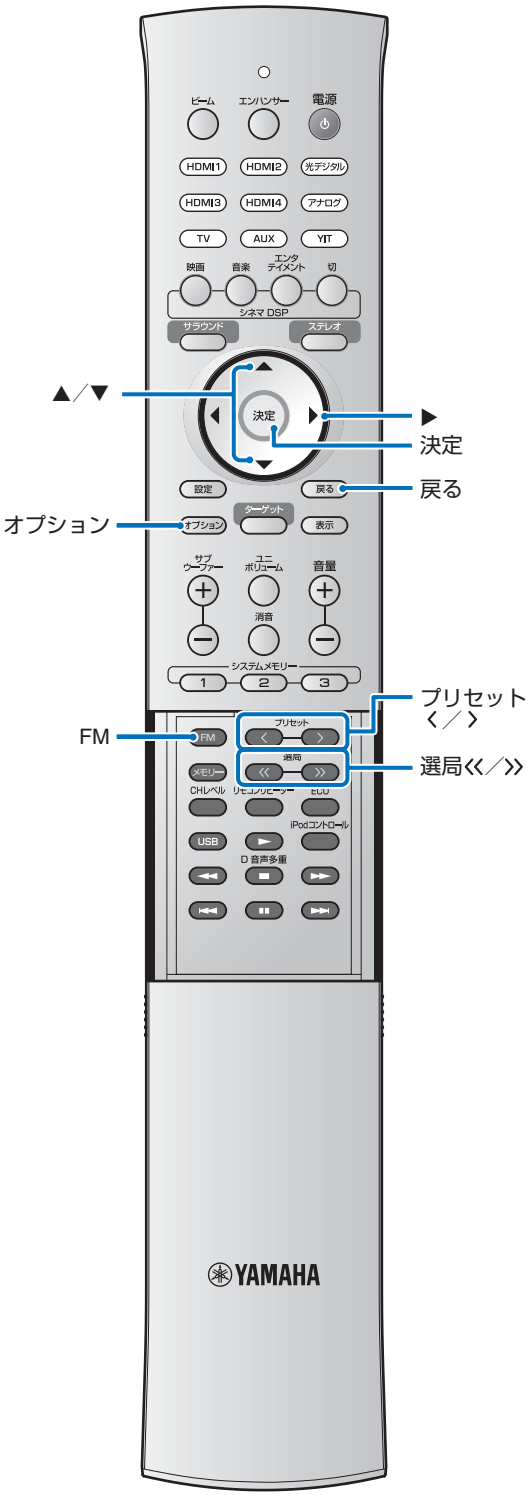
「AUX」に設定すると、TV（光）端子の音声が割り当てられます。

3)

「FM 放送を聴く （YSP-4300 のみ）」（☞42 ページ）をご覧ください。

4)

- 「USB 機器を接続する」（☞54 ページ）をご覧ください。
- iPod に付属の USB ケーブルで接続している場合は、REPEAT と SHUFFLE を設定できます（☞51 ページ）。
- USB 機器を接続している場合は、REPEAT を設定できます（☞57 ページ）。



FM 放送を聴く（YSP-4300 のみ）

以下の２種類の方法でFM放送を受信します。

ノーマルチューニングモード

放送局をサーチして受信します。

プリセットチューニングモード

最大で40局まで放送局をプリセット（登録）し、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

ヒント

受信感度が最良になるように、FM アンテナの向きや位置を調節してください。

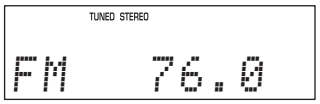
放送局を受信する（ノーマルチューニング）

1 **FM** キーを押す。

2 **選局《／》キーを押す。**

キーを１秒以上押し続ける（自動選局）
受信可能な放送局を自動的にサーチします。サーチが始まったらキーから手を離してください。

キーを押してすぐに放す（手動選局）
キーを押すたびに、周波数を0.1MHz ずつ増減します。



放送局を受信するとTUNED インジケーターが点灯します。
ステレオで受信するとSTEREO インジケーターも点灯します。

電波の弱い放送局を受信する

受信状態が悪く聴きにくいときは、ステレオ受信をモノラル受信に切り替えると良好な受信状態になります。

1 **オプション**キーを押す。

オプションメニュー（☞40 ページ）が表示されます。

2 ▲／▼ キーを押して「FM MODE」を選び、▶ キーを押す 1)。

FM MODE

3 ▲／▼ キーを押して「MONO」を選ぶ。

MONO

4 **オプション**キーを押してオプションメニューを終了する。

放送局を登録して受信する（プリセットチューニング）

放送局は 40 局まで登録できます。「オートプリセット」または「マニュアルプリセット」のいずれかの方法で放送局を登録してください。

オートプリセットで登録する

電波の強い放送局を自動的にサーチし、登録します。

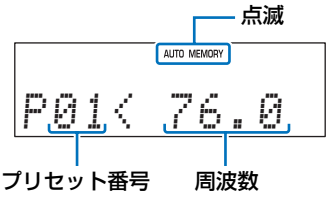
1 **FM** キーを押す。

2 **オプション**キーを押す。

オプションメニュー（☞40 ページ）が表示されます。

3 ▲／▼ キーで「AUTO PRESET」を選び、▶ キーを押す 1)2)。

AUTO PRESE

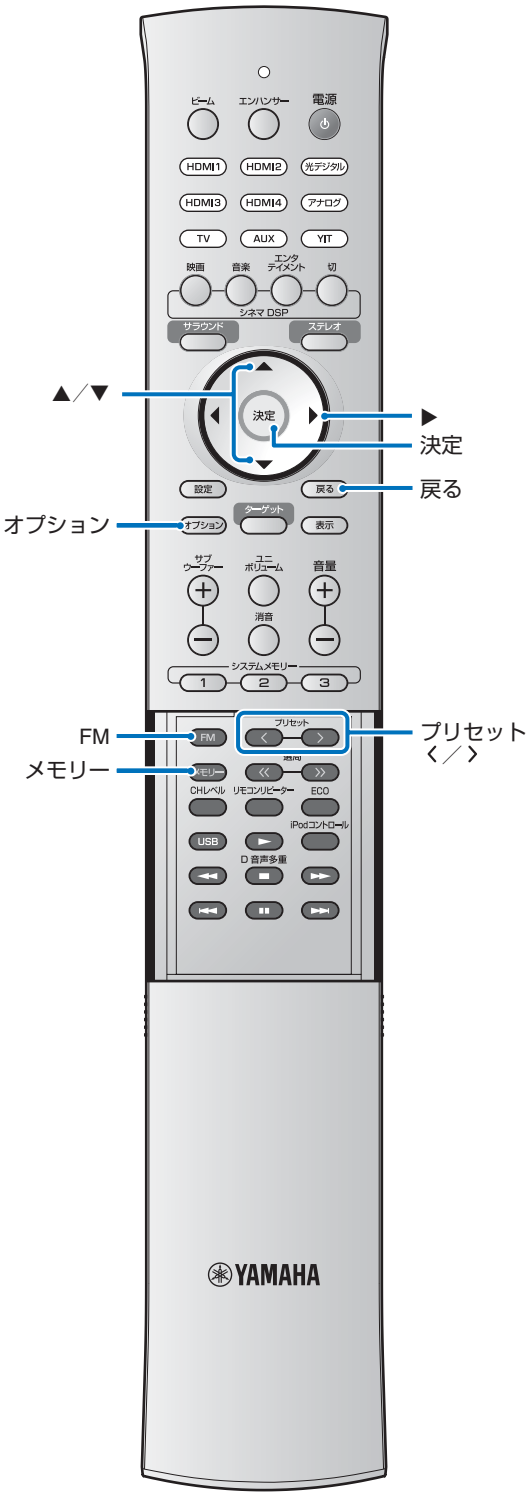


- **決定**キーを押すか、5 秒経過すると放送局の登録が始まります。
- 登録が完了すると、「Complete」と表示されます。
- 放送局をもう一度サーチするには、**決定**キーを押します。

4 **オプション**キーを押して、オプションメニューを終了する。

1) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。

2)
- 手順 3 で ▶ キーを押した後、▲／▼ または**プリセット**〈／〉キーを押してオートプリセットを開始するプリセット番号を選べます。
- 登録を中止するときは、**戻る**キーを押してください。



マニュアルプリセットで登録する

放送局を手動で登録します。

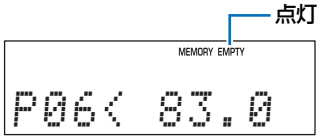
1 **放送局を受信する（☞42 ページ）。**

2 **メモリーキーを押す。**

登録先となるプリセット番号が表示されます。

表示されたプリセット番号に登録する場合は、手順 4 に進んでください。

3 **プリセット〈／〉キーを押して、登録先のプリセット番号を選ぶ。**



空のプリセット番号を選択すると EMPTY インジケーターが点灯します。

4 **メモリーキーを押す。**

放送局が登録され、元の表示に戻ります。

ヒント

- 手順 2 で**メモリー**キーを 2 秒以上押し続けると、手順 3 ～ 4 を省略して、前回登録したプリセット番号の次に空いている番号に放送局を登録します。
- 手順 3 で**戻る**キーを押す（または約 30 秒間操作をしない）と、登録を中止できます。

登録した放送局を呼び出す

プリセットした放送局を呼び出します。

1 **FM** キーを押す。

2 **プリセット**〈／〉キーを押して、プリセット番号を選ぶ。

ヒント

- 登録されていないプリセット番号はスキップされます。
- 放送局がひとつも登録されていないときは、「No Presets」と表示されます。

プリセット放送局の登録を解除する

プリセットした放送局の登録を解除します。

1 **FM** キーを押す。

2 **オプション**キーを押す。

オプションメニュー（☞40 ページ）が表示されます。

3 ▲／▼ キーで「CLEAR PRESET」を選び、▶ キー 1) を押す。

プリセットした放送局が表示されます。

C01: 83.0

ヒント

登録の解除を中止したい場合は、**戻る**キーを押してください。

4 **プリセット**〈／〉キー 2) で、登録を解除する放送局を選び、**決定**キーを押す。

- 放送局の登録が解除され、次のプリセット番号が表示されます。
  複数のプリセット放送局の登録を解除するには、手順 4 を繰り返し操作してください。
- すべてのプリセット放送局の登録を削除したとき、または何も登録されていないときは、「No Presets」と表示されます。

5 **オプション**キーを押して、オプションメニューを終了する。

1) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。

2) **プリセット**〈／〉キーのかわりに ▲／▼ キーを押すこともできます。

iPod やパソコンの曲をワイヤレスで再生する

付属のトランスミッター（YIT-W12TX）を使って本機に無線接続し、iPod[1] やパソコンの曲を本機で再生します。

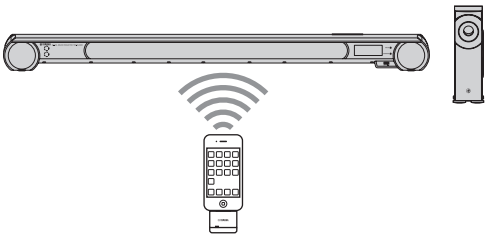
※ 対応 iPod と対応 OS については、77 ページをご覧ください。

トランスミッターを使って iPod の曲を再生する

1 トランスミッターに iPod を接続する。

本機と無線で接続されます。

2 iPod で曲の再生を始める。



本機の入力がトランスミッター（YIT）に切り替わり、iPod の音声が出力されます。

本機と iPod の連動

設定メニューの「インターロック」（☞64 ページ）を「オン」に設定すると、iPod の操作で本機が以下のように連動します。

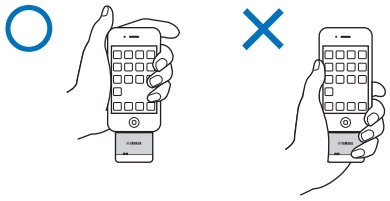
- iPod で再生を始めると、本機の電源がオンになり、入力が YIT になる。[2]

また、以下のような場合は、本機の電源がスタンバイになります。

- iPod の再生を停止してから 2 分経過したとき（トランスミッターとの無線接続が自動的に切れます。）
- iPod をトランスミッターから取りはずしたとき
- トランスミッターにセットしたiPodの電源をオフにしたとき
- トランスミッターにセットしたiPodがスリープ状態になったとき

ご注意

- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。
- iPod を操作するときは、以下のようにトランスミッターではなく iPod を持ってください。トランスミッターの下部左隅にある内蔵ワイヤレスアンテナがふさがれると、通信が切れやすくなります。



- iPod をトランスミッターにセットしたり取り外したりするときは、本機の音量を最小にしてください。
- iPod をトランスミッターから取りはずすときは、無理な力を入れずに上方に引き抜いてください。

ヒント

- iPod で音量調節ができます。
- iPod の最大音量よりもさらに大きな音量で再生する場合は、本機のリモコンで音量を上げてください。
- ビデオの映像は iPod の画面でお楽しみください。
- iPod の充電については、「iPod を充電する」（☞53 ページ）をご覧ください。

1) iPodに付属のUSBケーブルを使って本機に接続し、iPodの曲を本機で再生することもできます（YSP-4300 のみ）（☞48 ページ）。

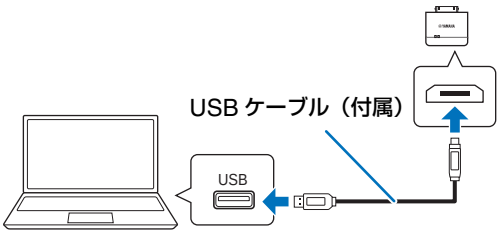
2) この機能はアプリケーションの音声や着信音でも機能します。iPod をサイレントモードに設定すれば、着信音などで本機の電源と連動しません。

トランスミッターを使ってパソコンの曲を再生する

1 センターユニット（☞64 ページ）、サブウーファー（☞20 ページ）、およびトランスミッター（☞47 ページ）のグループ ID を C1、C2 または C3 にする。

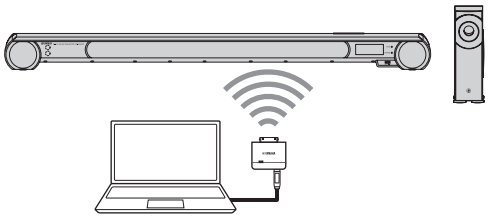
2 付属の USB ケーブルでトランスミッターとパソコンを接続する 3)。

小さいUSBプラグをトランスミッター、大きいUSBプラグをパソコンに接続します。

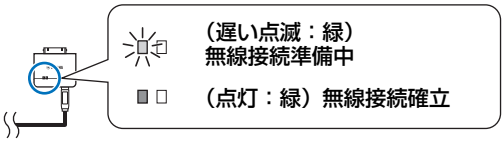


USBドライバーがパソコンに自動的にインストールされます。

3 パソコンで曲の再生を始める。



本機と無線で接続されます。



本機の入力がトランスミッター（YIT）に切り替わり、パソコンの音声が出力されます 4)。

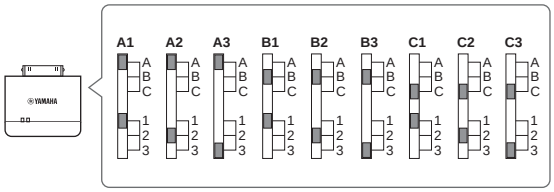
ご注意

- 以下のような場合、トランスミッターは動作を停止します。
  －本機の入力を YIT 以外にしたとき
  －本機の電源をスタンバイにしたとき
  もう一度トランスミッターを使ってパソコンの曲を再生するには、パソコンからトランスミッターを取りはずし、接続し直してください。
- トランスミッターを使ってパソコンの曲を再生するときは、トランスミッターから iPod を取りはずしてください。

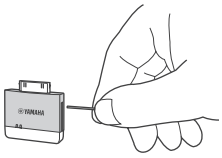
トランスミッターのグループ ID について

センターユニット、サブウーファー、およびトランスミッターのグループ IDは「A1」に初期設定されているので、グループ IDを変更することなくそのままお使いいただけます。
センターユニット、サブウーファー、およびトランスミッターのグループ IDの種類には、A1～A3、B1～B3、C1～C3があります。
A1～A3およびB1～B3：音声の遅れがC1～C3より小さいです。
C1～C3：パソコンの曲を再生するときに使います。
「無線接続のしくみ」（☞21 ページ）もご覧ください。

グループ ID スイッチ（トランスミッター側面）



グループ ID を変更するときは、直径 1mm 程度の先端がとがっていない金属の棒でスイッチを動かしてください。スイッチを動かすときに、けがをしないように注意してください。

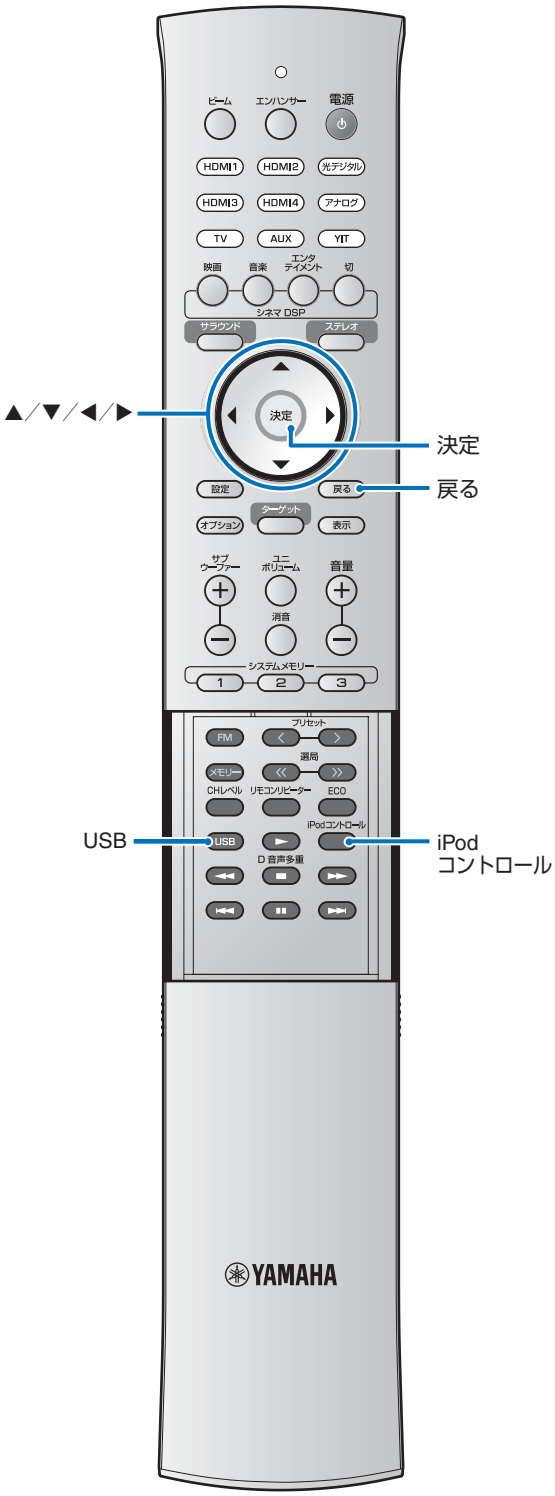


ご注意

無線接続する機器によっては、再生を始めても入力がトランスミッターに切り替わらないことがあります。このような場合は、手動で入力を選んでください。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

3)
USB ハブ経由で接続しないでください。

4)
- パソコンの音声が本機から出力されない場合、パソコンの音声出力デバイスとしてトランスミッターが選択されていない可能性があります。パソコンの音声出力設定をご確認ください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- ビデオの映像はパソコンの画面でお楽しみください。
- パソコンの再生を停止すると、本機の電源が自動的にスタンバイになります（トランスミッターとの無線接続が自動的に切れます）。



iPod や USB 機器を USB 接続して再生する（YSP-4300 のみ）

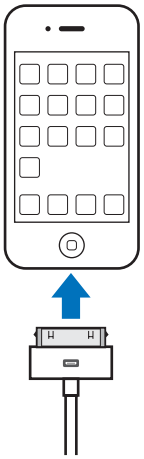
本機の USB 端子に iPod や USB 機器（☞54 ページ）を接続して、iPod や USB 機器の曲を再生できます。

iPod を接続する

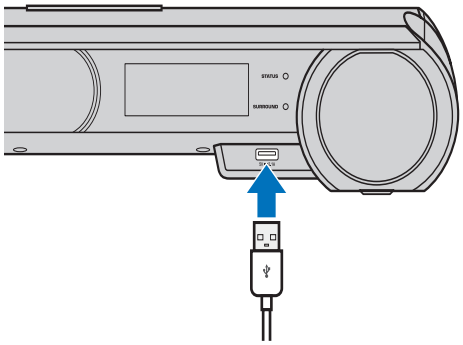
iPod に付属の USB ケーブルを使って、iPod を本機に接続します。
USBケーブルで接続すると、以下の操作ができます。

- 本機のリモコンで iPod を操作できます。
- テレビ画面にiPodのコンテンツ一覧や曲の再生情報を表示できます。

1 iPod に付属の USB ケーブルを iPod に接続する。



2 USB ケーブルを前面の USB 端子に接続する。



「Plugged」と表示されます。

3 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

4 iPod のコンテンツを選び、再生を始める 1)。

- テレビ画面を見ながら操作するときは、**iPod コントロール**キーを押します。
- iPod 本体で操作するときは（☞52 ページ）、テレビ画面の表示を消します。

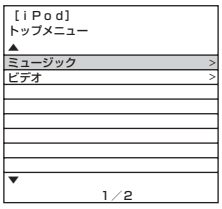
テレビ画面を見ながら iPod を操作する

iPod に付属の USB ケーブルを使って接続している場合は、テレビ画面を見ながらiPodを操作できます。

- テレビにiPodの操作用画面を表示させるには、「メニュー画面をテレビに表示させる」（☞21 ページ）をご覧ください。
- トランスミッターを使ってiPodを無線接続している場合、テレビ画面を見ながらの操作はできません。iPod 本体を直接操作してください。

1 USB キーを押して、入力を「USB」に切り替える。

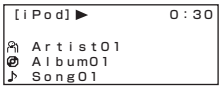
画面は「USB」に切り替えた場合の例です。このような画面が表示されないときは、**iPod コントロール**キーを押してください。



テレビ画面に「機器が接続されていません」2) と表示される場合は、iPod がUSB 端子に正しく接続されているか確認してください。

2 ▲／▼／◀／▶キーでコンテンツを選び、決定キーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



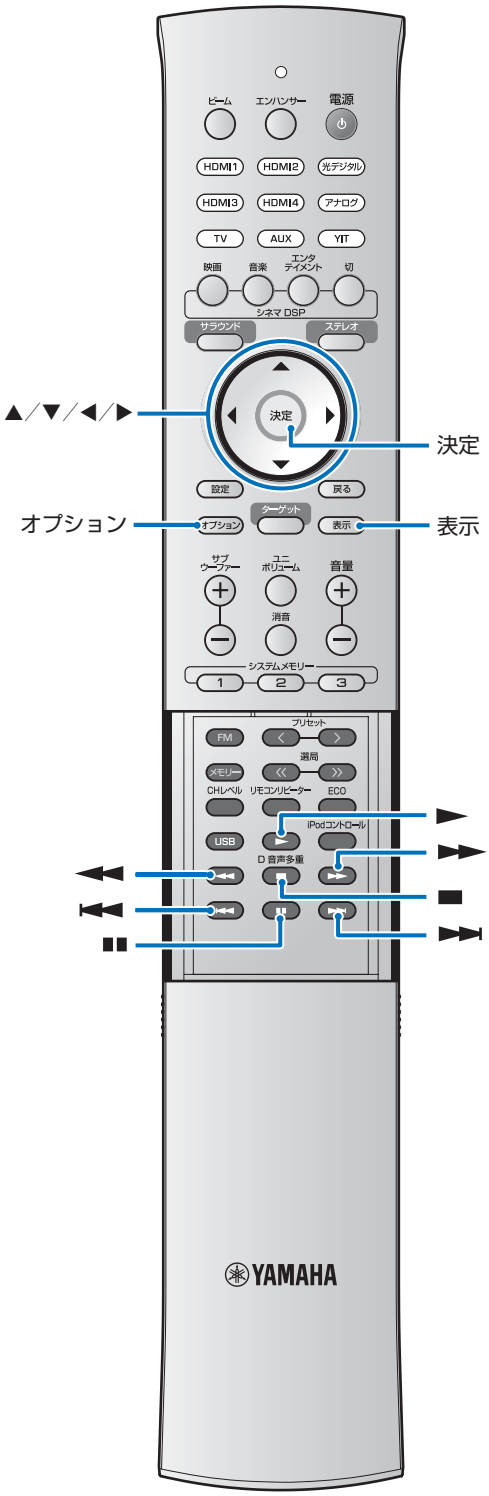
ヒント

- 1 つ上の階層に戻るには、◀ キー 3) を押します。
- 一時停止やスキップなどは、本機のリモコンで操作します（☞51 ページ）。

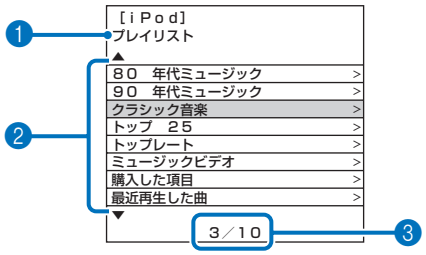
1)
ビデオの映像は iPod の画面でお楽しみください。

2)
フロントパネルディスプレイには、「No Device」と表示されます。

3)
◀ キーのかわりに**戻る**キーを押すこともできます。



ブラウズ画面



❶ **リスト名**

❷ **コンテンツリスト**

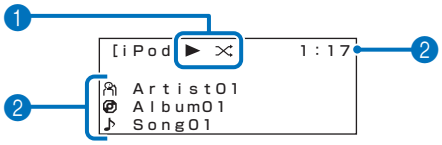
▲／▼キーでコンテンツを選び、▶キーを押すと曲のリストが表示されます。曲を選んで**決定**キーを押すと再生が始まります。

❸ **コンテンツ番号／総数**

▲／▼／◀／▶キーで以下の操作ができます。

1ページ上へ	▲キーを押し続けると、1ページ上のリストに切り替えます。
1ページ下へ	▼キーを押し続けると、1ページ下のリストに切り替えます。
再生画面へ	再生中の曲を選んで▶キーを押すと、再生画面に切り替わります。

再生画面



❶ **再生アイコン**

シャッフル再生／リピート再生の設定（☞51ページ）、および再生状態（再生／一時停止／早送り／巻戻し）が表示されます。

❷ **曲情報**

アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。

再生中の曲情報を表示する

再生中の曲情報をフロントパネルディスプレイに表示します。

表示キーを押す。

表示キーを押すたびに、以下のように切り替わります。

SONG：曲名
↓
PLAY TIME：再生時間
↓
REM. TIME：再生の残り時間
↓
ARTIST：アーティスト名
↓
ALBUM：アルバム名
↓
Beam：音声ビームの設定（☞34 ページ）
↓
Decoder：動作しているデコーダー（☞36 ページ）
↓
Cinema DSP：シネマ DSP プログラム（☞32 ページ）
↓

ブラウズ画面（曲を再生していないとき）では、現在の階層名→Beam→Decorder→Cinema DSP→現在の階層名の順に表示します。

リモコンで操作する

本機のリモコンを使って iPod を操作します。

本機のリモコンキー	説明
▶	選択中の曲を再生します。
❚❚	再生を一時停止します。
■	再生を停止します。
◀◀	押し続けている間、曲を巻き戻しします。
▶▶	押し続けている間、曲を早送りします。
⏮	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
⏭	次の曲にスキップします。

シャッフル再生／リピート再生

iPod のシャッフル再生およびリピート再生をオプションメニューで設定します。オプションメニューはフロントパネルディスプレイのみに表示されます。

1 **入力に「USB」が選ばれている状態で、オプションキーを押す。**

2 **▲／▼キーを押して「REPEAT」（リピート）または「SHUFFLE」（シャッフル）を選ぶ。**

REPEAT

3 **▶ キー 1) を押す。**

OFF

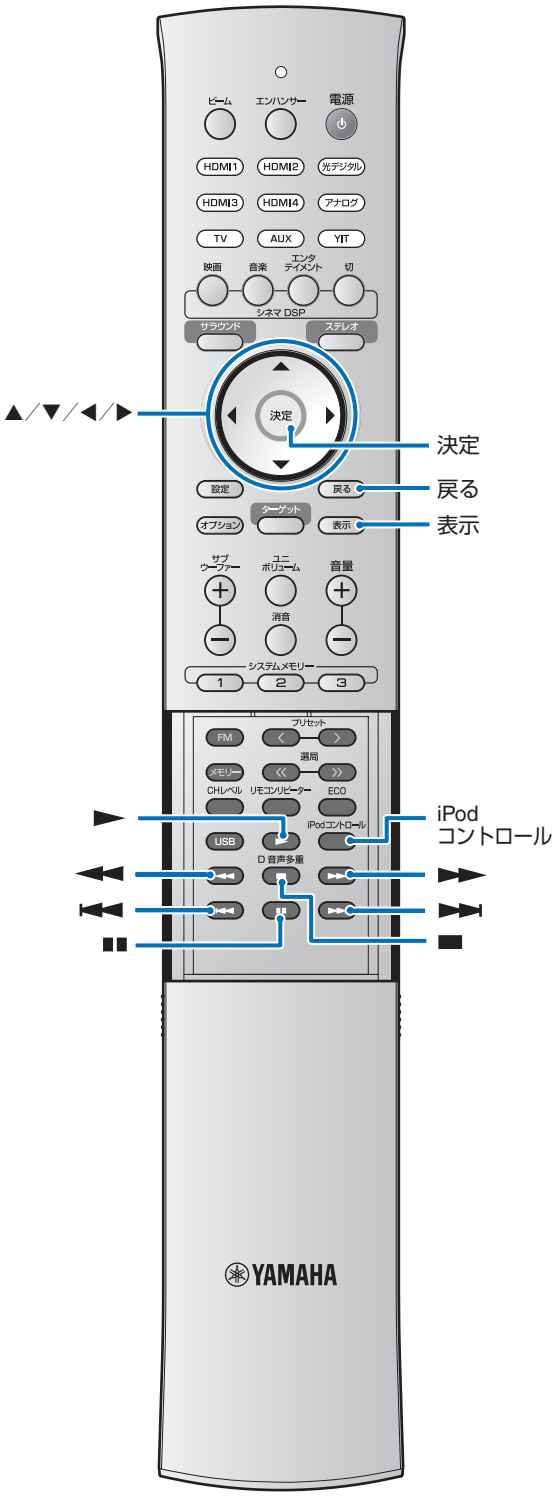
4 **▲／▼ キーで設定値を選ぶ。**

ONE

項目	設定値	説明
SHUFFLE（シャッフル）	OFF（オフ）	シャッフル再生を無効にする。
	SONGS（曲）	曲をランダムに再生する。再生画面（☞50 ページ）にシャッフルアイコンが表示されます。
	ALBUMS（アルバム）	アルバム単位でランダムに再生する。再生画面（☞50 ページ）にシャッフルアイコンが表示されます。
REPEAT（リピート）	OFF（オフ）	リピート再生を無効にする。
	ONE（1 曲）	現在の曲を繰り返し再生する。再生画面（☞50 ページ）にリピート（1 曲）アイコンが表示されます。
	ALL（すべて）	選んだアルバム内の曲を繰り返し再生する。再生画面（☞50 ページ）にリピート（すべて）アイコンが表示されます。

5 **オプションキーを押して、オプションメニューを終了する。**

1) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。



iPod 本体で操作する

iPod本体を操作してコンテンツを再生します。

1 **iPod コントロール**キーを押す。

テレビの表示が消えて、iPodで操作できます。テレビの表示（ブラウズ画面）に戻すには、もう一度 **iPod コントロール**キーを押します。

2 iPodでコンテンツを選び、再生を始める。

iPodの操作方法については、お使いのiPodの操作説明書をご覧ください。

リモコンで操作する

本機のリモコンを使ってiPodを操作できます。

本機のリモコンキー	説明
▶	選択中の曲を再生または一時停止します。
❚❚	
■	再生を停止します。
◀◀	押し続けている間、曲を巻き戻しします。
▶▶	押し続けている間、曲を早送りします。
❙◀◀	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
▶▶❙	次の曲にスキップします。

フロントパネルディスプレイの情報表示を切り替える

入力名とサラウンドに関する情報を表示します。

表示キーを押す。

表示キーを押すたびに、以下のように切り替わります。

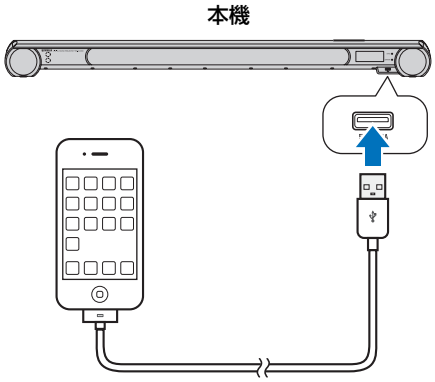
USB（入力名）
↓
Beam：音声ビームの設定（☞34 ページ）
↓
Decoder： 動作しているデコーダー（☞36 ページ）
↓
Cinema DSP： シネマ DSP プログラム（☞32 ページ）
↓

iPod を充電する

iPod は以下の方法で充電できます。

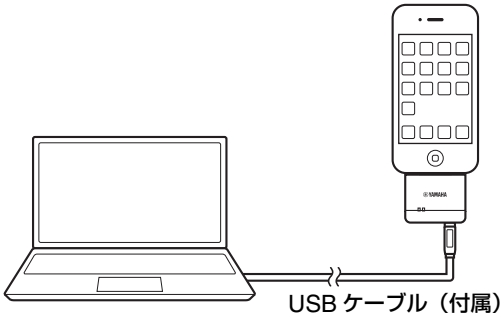
iPod に付属の USB ケーブルを使って本機に接続する

本機の電源がオンのときに接続します[1]。本機の電源がスタンバイになっても充電を継続します。



本機に付属の USB ケーブルを使ってパソコンに接続する

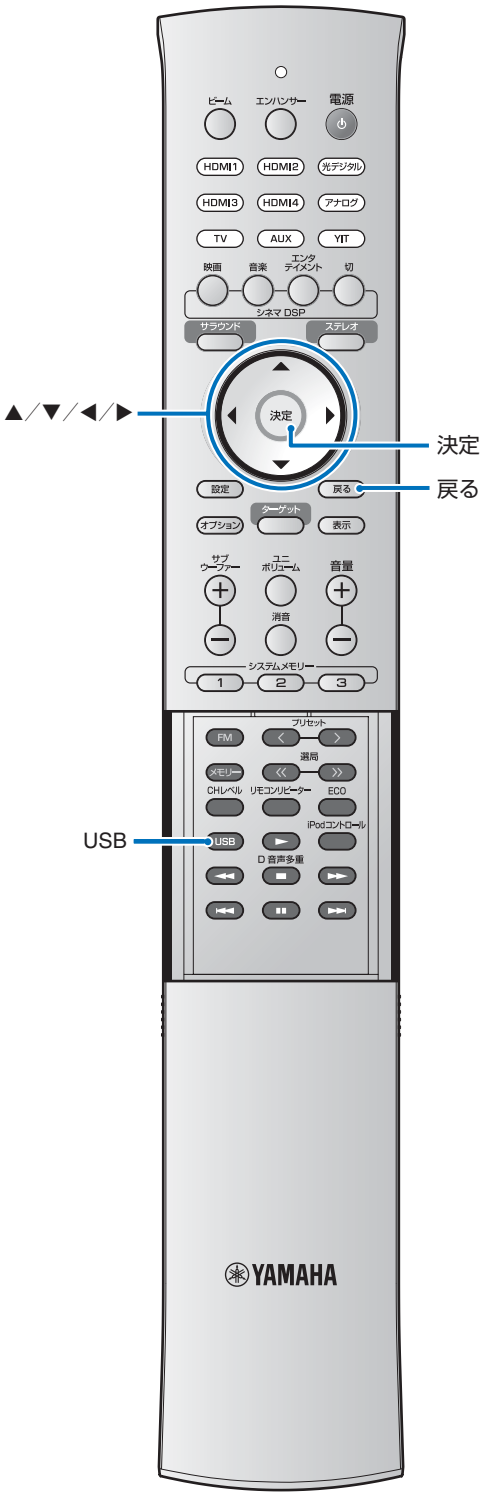
付属の USB ケーブルを使って、トランスミッターをパソコンに接続すると iPod を充電できます。



- パソコンの USB 端子の電源供給能力によっては、充電できない場合があります。
- パソコンに接続しているとき、通常は iPod の音声を本機で再生できません[2]。
- パソコンと iPod は同期状態になります。

1) 本機の電源がスタンバイのときに接続すると、充電できません。

2) パソコンと iPod の組み合わせによっては、再生できることもあります。



USB 機器を接続する

本機にUSB機器を接続すると、機器内の音声ファイル（WAV、MP3、WMA、MPEG4-AAC）を再生できます。

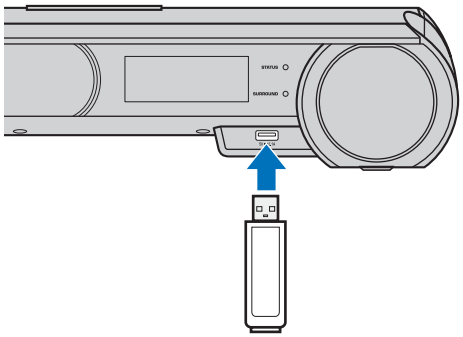
本機のUSB機器再生は、48kHz以下のサンプリング周波数に対応しています。

本機は、USBハードディスクドライブを除くFAT16/FAT32フォーマットのUSBマスストレージクラスのUSB機器に対応しています。お使いのUSB機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

USB機器の再生では、以下の操作ができます。

- 本機のリモコンで曲の再生を操作できます。
- テレビ画面にUSB機器のコンテンツ一覧や曲の再生情報を表示できます。

USB 機器を前面の USB 端子に接続する。



「Plugged」と表示されます。

ご注意

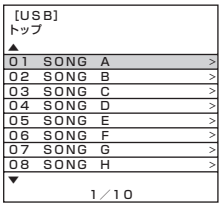
- USB 機器を差し込むときは、正しい向きになっていることを確認してください。
- ファイル数が多い USB 機器を接続した場合は、読み込みに時間がかかることがあります。読み込み中はフロントパネルディスプレイとテレビ画面に「Loading...」（読み込んでいます ...）と表示されます。

テレビ画面を見ながら操作する

テレビ画面を見ながら曲を選んで再生します。
テレビにUSB機器の操作用画面を表示させるには、「メニュー画面をテレビに表示させる」（☞21 ページ）をご覧ください。

1 USB キーを押して、入力を「USB」に切り替える。

画面は「USB」に切り替えた場合の例です。



テレビ画面に「機器が接続されていません」と表示される場合は、USB機器がUSB端子に正しく接続されているか確認してください。

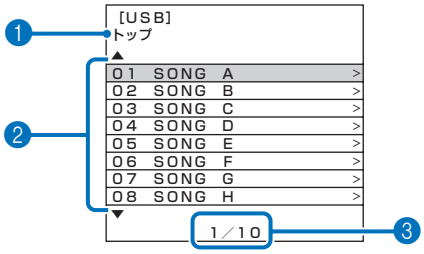
2 ▲／▼／◀／▶キーでフォルダー（ディレクトリー）または曲を選び、決定キーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。

ヒント

- 1つ上の階層に戻るには、◀キー 1) を押します。
- 一時停止やスキップなどは、本機のリモコンで操作します（☞57 ページ）。
- 本機が対応していない形式の音声ファイルは表示されません。

ブラウズ画面



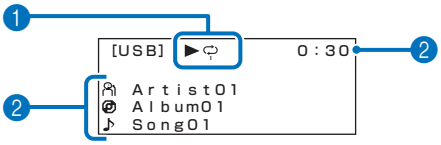
❶ **リスト名**

❷ **曲のリスト**
USB機器の曲やフォルダー一覧が表示されます（15文字まで）。
▲／▼キーで曲を選び、**決定**キーを押すと再生が始まります。

❸ **コンテンツ番号／総数**
▲／▼／◀／▶キーで以下の操作ができます。

1ページ上へ	▲キーを押し続けると、1ページ上のリストに切り替えます。
1ページ下へ	▼キーを押し続けると、1ページ下のリストに切り替えます。
再生画面へ	再生中の曲を選んで▶キーを押すと、再生画面に切り替わります。

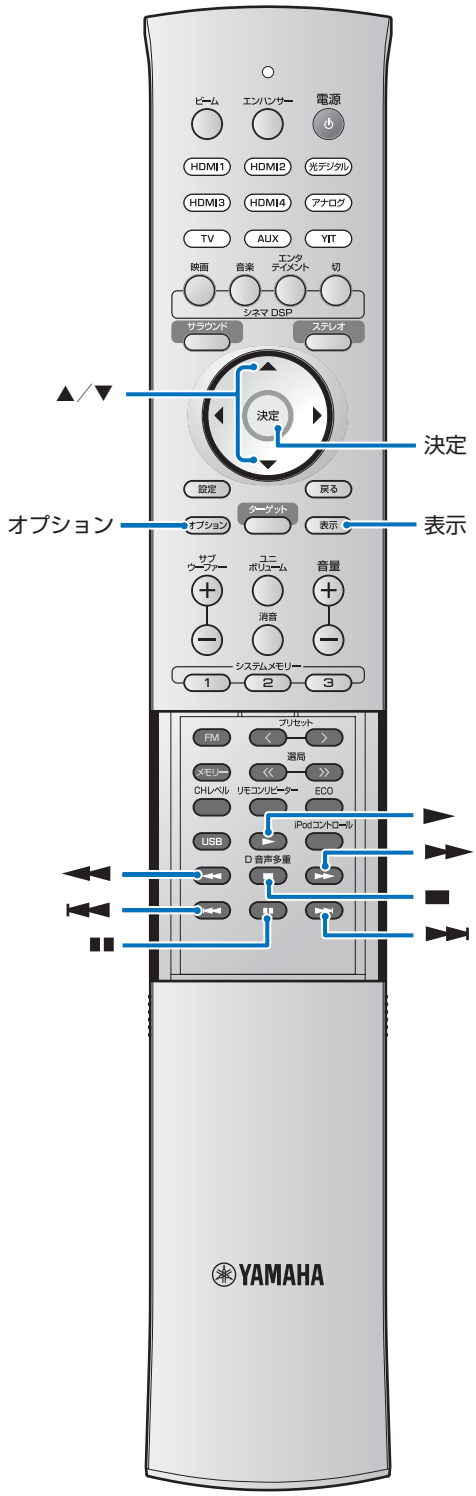
再生画面



❶ **再生アイコン**
リピート再生の設定（☞57 ページ）、および再生状態（再生／一時停止／早送り／巻戻し）が表示されます。

❷ **曲情報**
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。

1) ◀キーのかわりに**戻る**キーを押すこともできます。



再生中の曲情報を表示する

再生中の曲情報をフロントパネルディスプレイに表示します 1)。

表示キーを押す。

表示キーを押すたびに、以下のように切り替わります。

FILE：ファイル名
↓
PLAY TIME：再生時間
↓
REM. TIME：再生の残り時間
↓
SONG：曲名
↓
ARTIST：アーティスト名
↓
ALBUM：アルバム名
↓
Beam：音声ビームの設定（☞34 ページ）
↓
Decoder： 動作しているデコーダー（☞36 ページ）
↓
Cinema DSP： シネマ DSP プログラム（☞32 ページ）
↓

ブラウズ画面（曲を再生していないとき）では、現在の階層名→Beam→Decoder→Cinema DSP→現在の階層名の順に表示します。

1) 英数字のみで表示されます。表示できない文字は“_”になります。

リモコンで操作する

本機のリモコンを使ってUSB機器の曲を操作します。

本機のリモコンキー	説明
▶	選択中の曲を再生します。
❚❚	再生を一時停止します。
■	再生を停止します。
◀◀	押し続けている間、曲を巻き戻しします。
▶▶	押し続けている間、曲を早送りします。
⏮	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
⏭	次の曲にスキップします。

リピート再生

USB機器に保存されている曲のリピート再生をオプションメニューで設定します。オプションメニューはフロントパネルディスプレイのみに表示されます。

1 入力に「USB」が選ばれている状態で、**オプション**キーを押す。

2 ▲／▼キーを押して「REPEAT」（リピート）を選ぶ。

REPEAT

3 ▶ キー 2) を押す。

OFF

4 ▲／▼ キーで設定値を選ぶ。

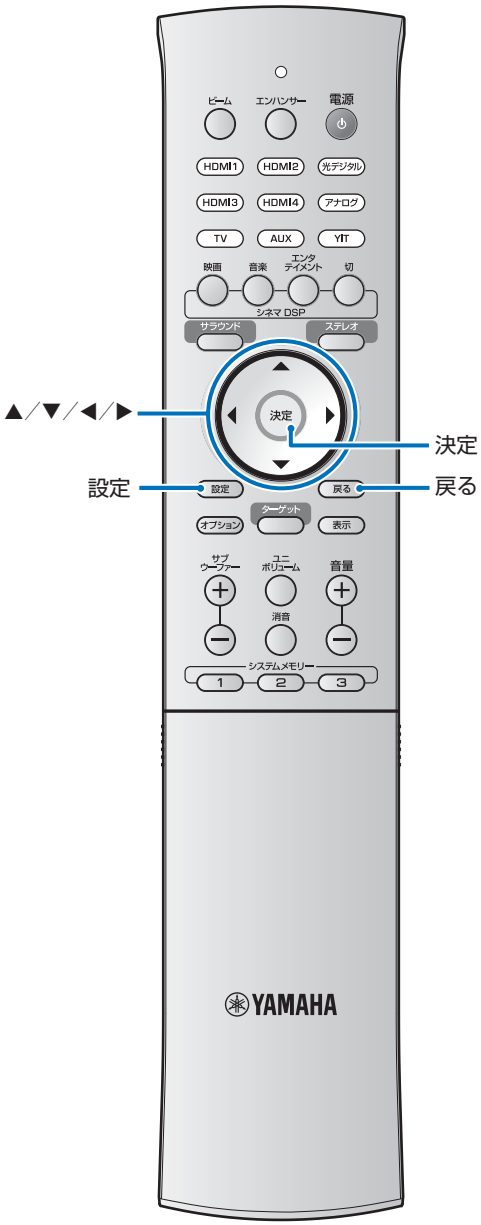
ONE

項目	設定値	説明
REPEAT（リピート）	OFF（オフ）	リピート再生を無効にする。
	ONE（1曲）	現在の曲を繰り返し再生する。再生画面（☞55 ページ）にリピート（1曲）アイコンが表示されます。
	FOLDER（フォルダー）	現在のフォルダー内の曲を繰り返し再生する。再生画面（☞55 ページ）にリピートアイコンが表示されます。
	ALL（すべて）	USB機器内の曲を繰り返し再生する。再生画面（☞55 ページ）にリピート（すべて）アイコンが表示されます。
	RANDOM（ランダム）	曲をランダムに再生する。再生画面（☞55 ページ）にランダムとリピートアイコンが表示されます。

5 **オプション**キーを押して、オプションメニューを終了する。

2) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。

設定メニュー

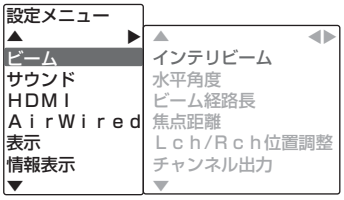


設定メニューには、良好なサラウンド効果を得るための音声ビームの調整、スピーカーレベルなどの音の調節、HDMIの設定など、本機を使いこなすためのいろいろな設定があります。

- 設定メニューはテレビ画面を見ながら設定します（フロントパネルディスプレイには表示されません）。テレビにメニューを表示させる方法については、「メニュー画面をテレビに表示させる」（☞21ページ）をご覧ください。

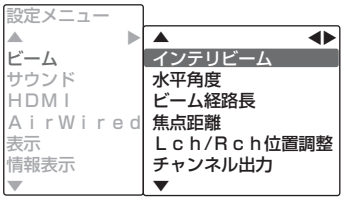
操作手順

1 **設定**キーを押す。1)



2 ▲／▼ キーを押してメニューを選び、▶ キー 2) を押す。

設定したいメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。



3 ▲／▼ キーを押して、各メニューを設定する。3)

4 **設定**キーを押して、設定メニューを終了する。

◀キー4)を押すと、ひとつ前のメニュー表示に戻ります。

1) **ご注意**
長押しすると、言語選択の画面になります（☞65ページ）。

2) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。

3) 「＊」のついた数値や選択項目は初期設定です。

4) ◀ キーのかわりに**戻る**キーを押すこともできます。

設定メニューリスト

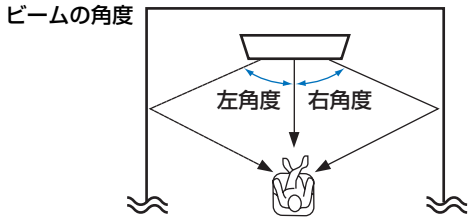
カテゴリー	メニュー	サブメニュー	内容	ページ
ビーム	インテリビーム	ビーム調整＋音質調整	ビームと音質を自動的に設定します。	☞25 ページ
		ビーム調整	ビームを自動的に設定します。	☞25 ページ
		音質調整	音質を自動的に設定します。	☞25 ページ
	水平角度	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右	音声ビームの水平方向の角度を調節します。	☞60 ページ
	ビーム経路長	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー	音声ビームの距離を調節します。	☞60 ページ
	焦点距離	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右	音声ビームの焦点距離を調節します。	☞60 ページ
	Lch/Rch 位置調整	調整、左、右	左右の音のバランスを調節します。	☞61 ページ
	チャンネル出力	――――	サラウンド音声のチャンネル出力を設定します。	☞61 ページ
サウンド	スピーカーレベル	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー	各チャンネルの音量を調節します。	☞62 ページ
	アダプティブ DRC	――――	本機の音量に連動してダイナミックレンジを調節するかどうかを設定します。	☞62 ページ
	ダイナミックレンジ	――――	ダイナミックレンジを設定します。	☞63 ページ
	マトリックスデコーダー	――――	サラウンドデコーダーを設定します。	☞36 ページ
	Dolby PL IIx パラメーター	センターの広がり、パノラマ、ディメンジョン	ドルビープロロジック IIx のパラメーターを設定します。	☞63 ページ
HDMI	HDMI コントロール	――――	HDMI コントロール機能のオン／オフを切り替えます。	☞63 ページ
	HDMI 音声出力	――――	HDMI 入力した音声を、本機またはテレビのどちらで再生するかを設定します。	☞63 ページ
	TV インプット	――――	TV 入力の端子を光デジタルからデジタル入力 AUX（同軸デジタル）に変更します。	☞63 ページ
AirWired	インターロック	――――	トランスミッターと本機が無線接続されているとき、iPod の操作による本機の電源連動をオン／オフします。	☞64 ページ
	グループ ID	――――	本機のグループ ID を設定します。	☞64 ページ
表示	ディマー	――――	フロントパネルディスプレイの明るさを調節します。	☞65 ページ
	メニュー言語	――――	メニュー画面の表示言語を設定します。	☞65 ページ
	距離単位	――――	メニューなどに表示される長さや距離の単位を設定します。	☞65 ページ
情報表示	音声	――――	入力している音声信号の情報を表示します。	☞65 ページ
	映像	――――	入力している映像信号の情報を表示します。	☞65 ページ
	システム	――――	本機のファームウェアのバージョンを表示します。	☞65 ページ

ビームの設定

インテリビームの「自動設定」（☞23 ページ）により、「水平角度」、「ビーム経路長」、「焦点距離」（「センター」を除く）および「Lch/Rch 位置調整」は適切な値に設定されていますが、お好みにより微調整できます。
また、「ビーム」の設定では、サラウンド音声のチャンネル出力を変更できます。

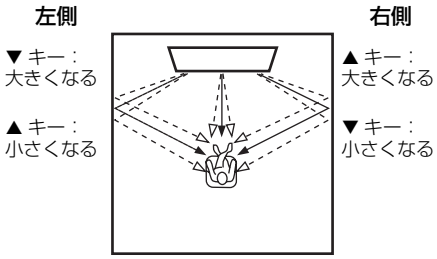
水平角度

テスト音を聴きながら、音声ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。
左方向に調節すると音声出力は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。



サブメニュー表示 1)：フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲：左 90°～右 90°



ビーム経路長 2)

音声のビームが出力されてから壁にはね返って視聴位置に到達するまでの距離をチャンネルごとに設定します。音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

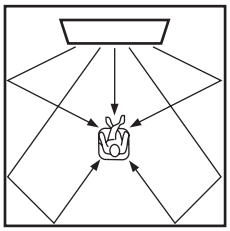
サブメニュー表示 1)：フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲：0.3m～24.0m

サブメニュー表示：サブウーファー

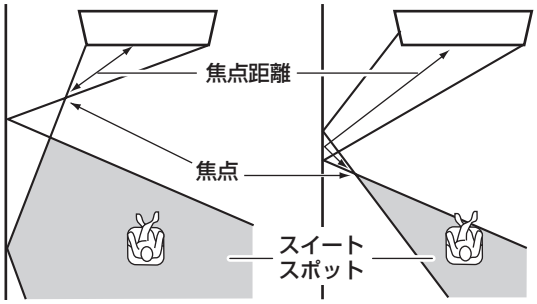
調整範囲：0.3m～2.5m*～15.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。



焦点距離 3)

音がよく聞こえる範囲（スイートスポット）の広さを調節します。
下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。数値を小さく（－（マイナス）方向に）設定するほどスイートスポットは広くなり、数値を大きく（＋（プラス）方向に）設定するほどスイートスポットは狭くなります。



センターチャンネルについては、初期設定（－0.5m）での使用をおすすめします。

サブメニュー表示 1)：フロント左、フロント右、サラウンド左、サラウンド右

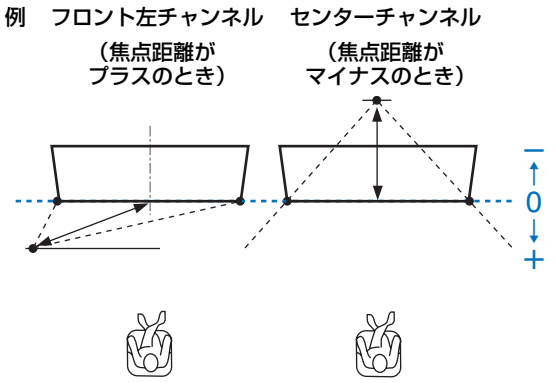
調整範囲：－1.0m～＋13.0m

サブメニュー表示：センター

調整範囲：－1.0m～－0.5m*～＋13.0m

1)
「サラウンドの音声出力方法を切り替える」（☞34 ページ）の設定により、設定できないチャンネルはグレーの文字で表示され、選べません。

2) **ご注意**
「ビーム経路長」は「水平角度」を調節した場合にのみ設定してください。



Lch/Rch 位置調整

左右の音が不自然に聞こえたら、まず各チャンネルの音量を調節します（☞31、62 ページ）。
調節しても改善されない場合は、左右チャンネルの位置調整をします。
フロント左／右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。
左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合に調節してください。
「サラウンドの音声出力方法を切り替える」（☞34 ページ）を「5ビーム プラス2」または「5ビーム」、「3ビーム」に設定しているときに調節できます。

サブメニュー表示：調整

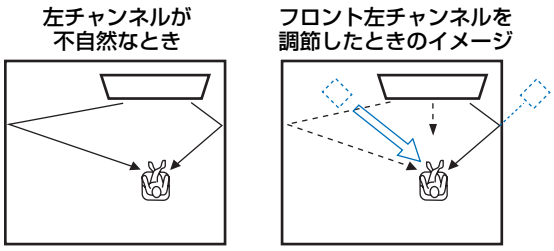
「オン」を選択すると、音の方向を調節できます。

選択項目：オフ*、オン

1 「左」を設定する。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

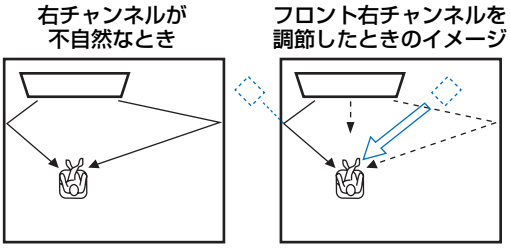
調整範囲：0%*～95%



2 「右」を設定する。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

調整範囲：0%*～95%



チャンネル出力

サブメニュー表示：5.1ch、7.1ch、AUTO*

音声ビームの出力チャンネル（5.1ch、7.1ch、AUTO）を設定します。
「AUTO」の設定では、入力信号にしたがって以下のように適切なチャンネル数で出力します。
　一入力信号が2ch／5.1chのとき→5.1ch出力
　一入力信号が6.1ch／7.1chのとき→7.1ch出力
「チャンネル出力」の設定により、音声ビーム出力方法の種類が異なります（☞34 ページ）。

3)
「自動設定」（☞23 ページ）では、スイートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

サウンドの設定

スピーカーレベル

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、各チャンネルの音がバランス良く聞こえるように、チャンネルごとの音量を調節します。1)

サブメニュー表示：

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

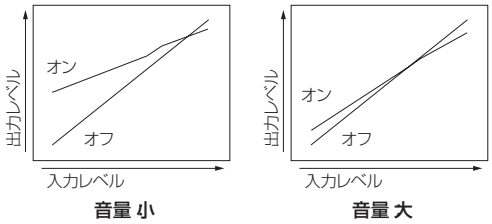
調整範囲：－20～＋20

アダプティブ DRC 2)

本機の音量とダイナミックレンジ3)を連動して調節します。「オン」に設定すると、ダイナミックレンジは次のように調節されるので、夜間などに小音量で聴く際にも聴きやすくなります。

音量を小さくしたとき：
ダイナミックレンジが狭くなります。大きな音は音量を小さめに、聞き取りにくい小さな音は大きめに再生します。

音量を大きくしたとき：
ダイナミックレンジが広くなります。小さな音から大きな音まで、ソースの持つ音量のまま再生します。



選択項目：オン*、オフ

「オン」：ダイナミックレンジを自動調節します。
「オフ」：ダイナミックレンジを自動調節しません。

1) **ビーム**キーで音声ビームの出力を「マイサラウンド」に設定した場合は、以下の項目を設定することができます。
サブメニュー表示：センター、サラウンド左右、サブウーファー

2)
- 「オン」に設定すると、「ダイナミックレンジ」が自動的に「最大」に設定されます。
- ユニボリュームをオンにすると、本設定は無効になります。

3) 最大音量から最小音量までの差をダイナミックレンジといいます。

ダイナミックレンジ 3)

ダイナミックレンジを設定します。

選択項目：最大*、標準、最小/自動

最大：入力された信号を補正せず、そのまま再生します。4)

標準：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

最小/自動：

(最小) 夜間に小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。

(自動)入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。

Dolby PL IIx パラメーター

サラウンドデコーダー「ドルビープロロジック IIx ミュージック」のパラメーターを調節できます。

サブメニュー表示：センターの広がり

値を大きくするとセンターチャンネルの音声が左右に広がり、小さくすると中央に近づきます。

調整範囲：0～3*～7

サブメニュー表示：パノラマ

「オン」に設定すると、フロント左右チャンネルの音声が左右に回り込み、サラウンドチャンネルの音声とつながるような広がりが得られます。

選択項目：オフ*、オン

サブメニュー表示：ディメンジョン

フロントとサラウンドチャンネルのレベル差を調節します。値を大きくするとフロントの音声が強くなり、小さくするとサラウンドチャンネルの音声が強くなります。

調整範囲：－3～0*～＋3

HDMI の設定

HDMI 信号や HDMI コントロール機能に関する設定をします。

HDMI コントロール

HDMI コントロール機能（☞28 ページ）のオン／オフを切り替えます。

選択項目：オフ、オン*

「オフ」：コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。

「オン」：コントロール機能を有効にします。

HDMI 音声出力

HDMI 入力音声信号を再生する機器を設定します。「HDMI コントロール」が「オフ」のときに機能が有効になります。5)

選択項目：AMP*、TV

「AMP」：入力した音声信号を本機で再生します。

「TV」：HDMI 出力（ARC）端子に接続したテレビで音声を再生します。

TV インプット

テレビに ARC 機能がない場合（または ARC 機能をオフにしている場合）、テレビの音声はデジタル入力 TV 端子（オプティカル）に割り当てられています（初期設定）。この割り当てをデジタル入力 AUX 端子（コアキシャル）と入れ替えることができます。6)

選択項目：オプティカル*、コアキシャル

4)

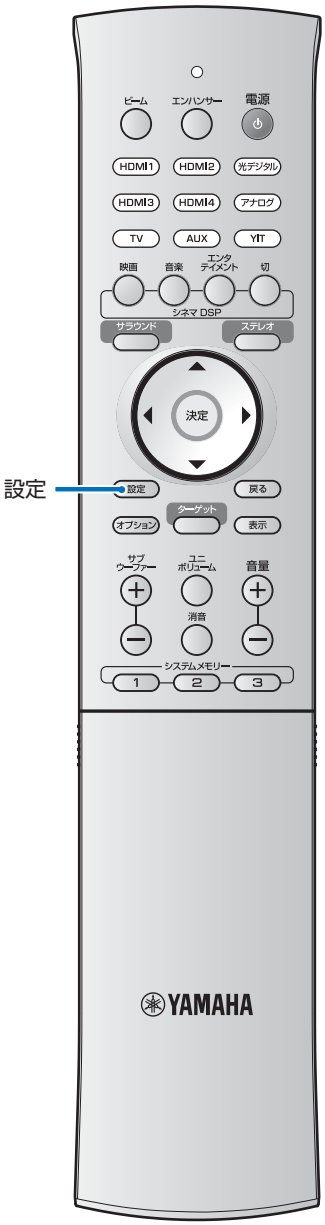
「最大」以外に設定すると、「アダプティブ DRC」が自動的に「オフ」に設定されます。

5)

本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力（ARC）端子へ出力されます。

6)

「コアキシャル」に割り当てを変更した場合、**TV** キーを押すとデジタル入力 AUX 端子に接続した機器（テレビ）の音声を入力します。**AUX** キーを押すと TV 端子に接続した機器の音声を入力します。



AirWired の設定

ヤマハ「AirWired」技術による無線機能を設定します。

インターロック

「オン」に設定すると、トランスミッターと本機が無線接続している場合に、iPodの再生開始に連動して本機の電源がオンになるなどの機能が動作します。詳しくは、「本機とiPodの連動」（☞46 ページ）をご覧ください。

選択項目：オフ、オン*

グループ ID

センターユニットのグループIDを変更します。

選択項目：A1*～A2、B1～B3、C1～C3

表示の設定

ディマー

フロントパネルディスプレイの明るさを調節します。数値が小さくなるほど暗くなります。
エコ機能がオンのときは、設定値を数秒間表示するときだけ設定した明るさになります。
選択項目：－4～－1、0*（最も明るい）

メニュー言語 1)

テレビに表示されるメニュー画面の表示言語を設定します。
選択項目：日本語*、ENGLISH、DEUTSCH、FRANÇAS、ESPAÑOL、ITALIANO、NEDERLAND、PYCCKИЙ、SVENSKA
「日本語」：日本語で表示します。
「ENGLISH」：英語で表示します。
「DEUTSCH」：ドイツ語で表示します。
「FRANÇAS」：フランス語で表示します。
「ESPAÑOL」：スペイン語で表示します。
「ITALIANO」：イタリア語で表示します。
「NEDERLAND」：オランダ語で表示します。
「PYCCKИЙ」：ロシア語で表示します。
「SVENSKA」：スウェーデン語で表示します。

距離単位

メニューなどに表示される長さや距離の単位を設定します。
選択項目：メートル*、フィート
メートルとフィートを切り替えてしまうと、設定内容は変更した単位に反映されません。切り替えたときは設定をやり直してください。

情報表示

本機に入力している音声・映像信号の情報を表示します。

音声

現在入力している音声信号について、以下の情報を表示します。

フォーマット	デジタル音声のフォーマット
チャンネル数	入力信号に含まれているチャンネル数（フロント／サラウンド／LFE（低域効果音））表示例：「3／2／0.1」→入力信号にフロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE あり フロント、サラウンド、LFE 以外のチャンネルが含まれていると、「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。
サンプリング周波数	デジタル入力信号のサンプリング周波数
ビットレート 2)	入力信号の 1 秒あたりのビットレート

映像

現在入力している映像信号について、以下の情報を表示します。

種類	HDMI または DVI
解像度	映像信号の解像度

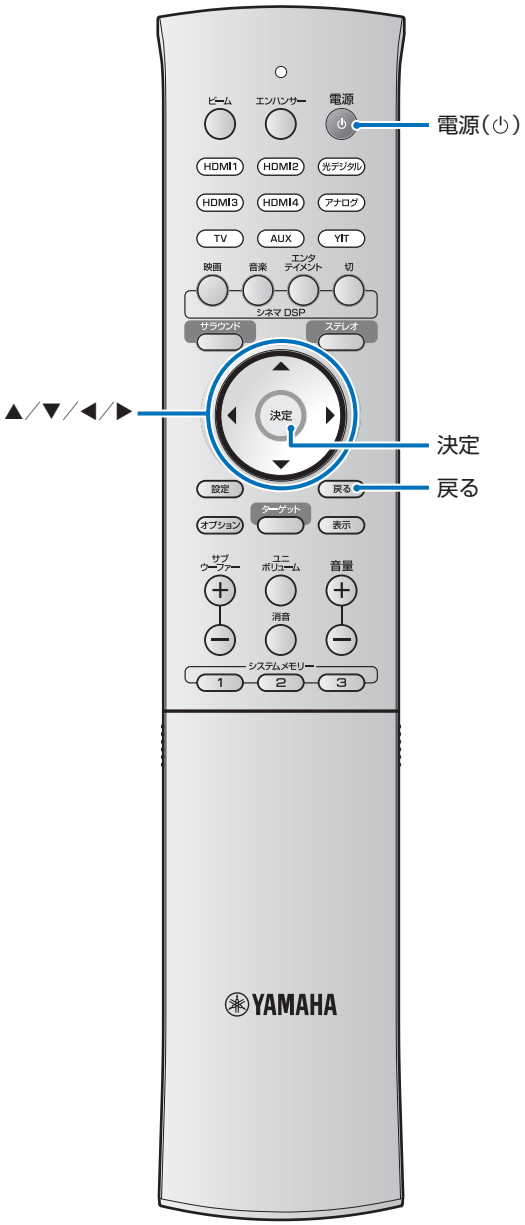
システム

本機のファームウェアのバージョンを表示します。

1)
- **設定**キーを長押しすると、「メニュー言語」を直接表示することができます。
- HDMI コントロール対応のテレビをご使用の場合、設定が自動的に変更されることがあります。
- 表示言語を設定できるのは、テレビ画面に表示されるメニューだけです。フロントパネルディスプレイは常に英数字で表示します。

2)
入力信号によっては表示されない場合があります。

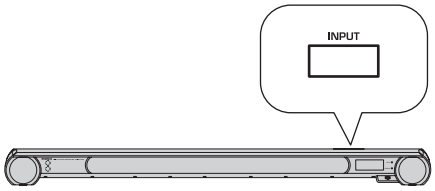
拡張メニュー



「拡張メニュー」は、最大音量の制限や、センターユニットのINPUTキーを無効にするなど、本機の機能をより詳細に設定します。通常は使用しません。

1 **電源（⏻）キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。**

2 **センターユニットの INPUT キーを押しながら、リモコンの電源（⏻）キーを押して電源をオンにする。**



フロントパネルディスプレイに「ADVANCED」と表示されます。拡張メニューはテレビには表示されません。

3 **センターユニットの INPUT キーをはなす。**

4 **▲／▼ キーで、設定したいメニューをフロントパネルディスプレイに表示させ、▶ キー 1) を押す。2)**

5 **▲／▼ キーを押して、設定を変更する。3)**

6 **電源（⏻）キーを押して、電源をスタンバイにする。**

再度**電源（⏻）**キーを押して電源を入れると、設定されます。

---

1) ▶ キーのかわりに**決定**キーを押すこともできます。

2) ひとつ前の表示に戻るには、◀ または**戻る**キーを押してください。

3) 設定値の「*」は初期設定を表しています。

設定項目	内容	選択項目／調整範囲
TURN ON VOLUME	起動時の音量	OFF*（設定しない）、1 ～ 70
MAX VOLUME	音量最大値の制限	1 ～ 99、MAX*（最大）
INPUT LOCK	本体 INPUT キーの有効／無効	ON（無効） OFF*（有効）
PANEL LOCK	本体操作キーの有効／無効	ON（無効） OFF*（有効）
R.INPUT POWER	スタンバイ状態からリモコンの入力選択キーで起動する	ON（起動する） OFF*（起動しない）
AC ON STANDBY	本機への電源供給が回復したときの状態	ON（スタンバイ状態） OFF*（電源遮断前の状態）
MEMORY PROTECT	システムメモリー 1 ／ 2 ／ 3（☞27 ページ）を保護	ON（保護する） OFF*（保護しない）
YRB FL[4]	反射板 YRB-100 をフロント左に使用する	YES（反射板を使用する） NO*（反射板を使用しない）
YRB FR[4]	反射板 YRB-100 をフロント右に使用する	YES（反射板を使用する） NO*（反射板を使用しない）
YRB SL[4]	反射板 YRB-100 をサラウンド左に使用する	YES（反射板を使用する） NO*（反射板を使用しない）
YRB SR[4]	反射板 YRB-100 をサラウンド右に使用する	YES（反射板を使用する） NO*（反射板を使用しない）
FW UPDATE	本機のファームウェアのバージョン確認と、ファームウェアのアップデート	02.00.04*（ファームウェアのバージョン表示）[5] START OK?（ファームウェアのアップデート）
INITIALIZE[6]	設定の初期化	OK（初期化する） CANCEL*（初期化しない）

4)

YRB の設定を選ぶと、テレビに反射板設置補助のための画面が表示されます。YRB-100 の取扱説明書をご覧のうえ、YRB-100 を設置してください。

5)

「02.00.04」は表示例です。

6)

本機の操作ができなくなったときなどに、初期化することで問題が解決する場合があります。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	TX ／ RX インジケーターが両方点滅しているときは、本機内部の無線通信機能に不具合が生じている。	センターユニットおよびサブウーファーの電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。	—
電源（⏻）キーを押しても電源が入らない／すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	18
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待ち（約 1 時間程度）、本機の周囲に十分なスペースがあること、本機を布などで覆っていないことを確認して電源を入れなおしてください。	12
	エコ機能が作動した。	電源を入れてソースを再生し直してください。	39
	付属のトランスミッターを使用中、「インターロック」が「オン」に設定されている状態で、無線が切断されてしばらく経過したために電源が切れた。	無線接続を再開するか、iPod の音声を検知させて、本機の電源をオンにしてください。	—
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	18、19
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	30
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	30
	消音されている。	消音キーまたは音量（＋／－）キーを押して消音を解除してください。	30
	本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	79
	「HDMI 音声出力」を「TV」に設定している。	「AMP」に設定してください。	63
	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、「HDMI コントロール」を「オン」に設定してください。	63
		「HDMI コントロール」を「オフ」にしたまま使うには、本機のデジタル入力 TV 端子（光）とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	19
	HDMI コントロール機能を使用しているテレビの音声出力先が、テレビの内蔵スピーカーになっている。	テレビの HDMI に関する設定で、音声出力先をテレビの内蔵スピーカー以外に切り替えてください。	—
有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—
特定のチャンネル音声が出ない／はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	31、62
	音声ビームが正しく設定されていない。	音声ビームを調節してください。	34
	ステレオ再生している。	サラウンド再生してください。	32
	音声出力方法により、出力されないチャンネルがあります。	音声出力方法を変更してください。	34

症状	原因	対策	参照ページ
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている	再生機器側の音声出力設定を変更してください。	—
	部屋が特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置が部屋の左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	14
	音声ビーム経路上に壁がない。	音声ビーム経路上に反射板を設置してください。	—
	マイサラウンドモードを選択し、本体中央正面以外の場所で視聴している。	本体中央正面で視聴してください。	35
サブウーファーから音声が出ない	サブウーファーが無線接続されていない。	サブウーファー背面の LINK 表示が点灯しているか確認してください。 点灯していない場合は、サブウーファー、センターユニットおよびトランスミッターが、同じグループ ID になっているかを確認してください。	20 21
	サブウーファーの音量が低い。	サブウーファー（+）キーを押して音量を上げてください。	30
サブウーファーの低音が小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が多く含まれているソースを再生して確認してください。	—
	――――――	サブウーファーの設置場所や向きを変更してください。	12
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	18、19
本機のメニュー画面が表示されない	入力が USB で、iPod 操作中に iPod コントロール キーを押した。	iPod コントロール キーをもう一度押すと、テレビに再生画面またはブラウズ画面が表示されます。	49
	テレビの入力切り替えが正しく設定されていない。	テレビの入力を本機にしてください。	21
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
設定した内容が変わってしまう	「HDMI コントロール」が「オン」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される。	「HDMI コントロール」を「オフ」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	63
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	63
	テレビのコントロール機能設定が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
「AUDIO DELAY」を「AUTO」に設定しても効果が感じられない	テレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応していない。	「AUDIO DELAY」の遅延時間を手動で設定してください。	41
キー操作時に「Disable」と表示される	操作したキーは現在の状態では機能しません。	――――――	—

FM 放送（YSP-4300 のみ）

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聴きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	20
		アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		モノラルで受信してください。	43
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		手動選局で選局してください。	42
プリセット放送局が選局できない	本機の電源がコンセントから長期間取り外されていた。	再度プリセットしてください。	43

iPod ／パソコン（トランスミッター使用時）

症状	原因	対策	参照ページ
無線接続ができない（トランスミッターの緑色ランプが消灯している）	iPod がトランスミッターにしっかりと接続されていない。	iPod をトランスミッターに接続し直してください。	46
	トランスミッターに接続している iPod のバッテリー残量がなくなった、または極端に少ない。	iPod を充電してください。	53
	付属の USB ケーブルがトランスミッター（またはパソコン）にしっかりと接続されていない。	USB ケーブルを接続し直してください。	47
	非対応のパソコン（オペレーティングシステム）を使用しているため、USB ドライバーが正しくインストールされていない。	対応パソコン（オペレーティングシステム）を使用してください。	77
無線接続ができない（トランスミッターの緑色ランプが点滅している）	トランスミッターと本機のグループ ID が異なっている。	同じグループ ID に設定してください。	47
	非対応の iPod を使用しているため、認証されなかった。（この場合、iPod をトランスミッターにセットして 30 秒経過すると、トランスミッターの赤色ランプが点滅します。）	対応 iPod を使ってください。 対応 iPod を使っているのに認証されない場合は、iPod をトランスミッターに接続し直してください。頻繁に発生する場合は、iPod をトランスミッターから取りはずし、iPod の電源を入れ直してから再度接続してください。	77
	iPod とトランスミッター間に通信エラーが発生している。 （この場合、iPod をトランスミッターにセットして 30 秒経過すると、トランスミッターの赤色ランプが点滅します。）	iPod をトランスミッターに接続し直してください。頻繁に発生する場合は、iPod をトランスミッターから取りはずし、iPod の電源を入れ直してから再度接続してください。	46
	周囲に 2.4GHz 帯を使用している機器がある（電子レンジ、コードレス電話、Wi-Fi 機器など）。	該当機器をトランスミッターおよび本機から離すか、無線機器の電源を切ってください。無線ルーターをお使いの場合は、ルーターのチャンネルを端のチャンネル（1ch、13ch など）に設定してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
無線接続が確立されているのに、本機から音が出ない	本機の音量が小さい。	音量を調節してください。	30
	本機で消音されている。	消音を解除してください。	30
	本機の入力がトランスミッター（YIT）になっていない。	入力をトランスミッター（YIT）に切り替えてください。	46
	iPod にヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを iPod から取り外してください。	—
	パソコンの音声出力デバイスとしてトランスミッターが選ばれていない。	パソコンの音声出力設定を確認し、パソコンの音声出力デバイスとしてトランスミッターを選んでください。（トランスミッターの表示名はオペレーティングシステムにより異なります。）	47
音が途切れる（トランスミッターの緑色ランプが点滅している）	トランスミッターが本機から離れすぎている。	トランスミッターを本機に近づけてください。	—
	トランスミッターの電波が人体や金属、壁などで遮られている。	電波が遮られないように、トランスミッターの位置を調整してください。	—
	周囲に 2.4GHz 帯を使用している機器がある（電子レンジ、コードレス電話、Wi-Fi 機器など）。	該当機器をトランスミッターおよび本機から離してください。	—
パソコンからの音が出ない	グループ ID が A1 ～ A3 または B1 ～ B3 になっている。	グループ ID を C1 ～ C3 にしてください。	47
iPhone の着信音が本機から出力される	iPhone がトランスミッターに接続されているときに着信があった。	着信音を出力したくない場合は、iPhone をマナーモードに設定してください。	—
Wi-Fi 機器の通信が不安定になる	トランスミッターの電波が Wi-Fi 通信に干渉している。	トランスミッターを Wi-Fi 機器から離してください。頻繁に発生する場合は、iPod（またはパソコンと接続した USB ケーブル）をトランスミッターから取り外し、しばらく待ってから接続し直してください。	—

USB 機器（YSP-4300 のみ）

症状	原因	対策	参照ページ
USB 機器が認識されない	USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続しなおしてください。	54
	FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。	FAT16/32 フォーマットの USB 機器 (USB ハードディスクを除く) を使用してください。	—
USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない	本機が認識できないファイル構成が適用されている。	本機が認識できるフォルダー階層は最大 8 階層、ファイル数は 1 階層あたり最大 65000 個です。必要に応じて USB 機器のフォルダー構成を変更してください。	—
	暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。	暗号化機能のない USB 機器を使用してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30° 以内の範囲で操作してください。	16
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください。	16
テレビリモコンリピーター機能を使ってテレビを操作できない	テレビリモコンリピーター機能が無効になっている。	テレビリモコンリピーター機能を有効にしてください。	13
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合はテレビリモコンリピーター機能を利用できません。テレビのリモコン受光部が隠れないようにセンターユニットを移動し、テレビリモコンでテレビを直接操作してください。	—
	センターユニットとテレビの距離が遠すぎる、または近すぎる。	センターユニットを移動して、テレビリモコンリピーターとテレビ（リモコン受光部）の距離を調節してください。 必要に応じて、センターユニットのスペーサーの取り付け、取りはずしを行ってください	13
	センターユニットの電源コードが抜けている。	電源コードをコンセントに接続してください。	18
	センターユニットとテレビの間にコードなどの障害物がある。	障害物を取り除いてください。	—

メッセージリスト

iPod（USB 端子接続時）／USB 機器（YSP-4300 のみ）

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機に対応した iPod を接続してください。	77
Comm.Err	USB 機器にアクセスできません。 iPod にアクセスできません。	本機の電源をスタンバイにして、USB 機器を接続しなおしてください。それでもエラーが表示される場合は別の USB 機器に音楽ファイルを移動してください。	54
		iPod の電源を入れなおしてください。	—
No Content	選択した USB 機器のフォルダーには、本機が再生可能なファイルが含まれていません。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。	54
File Corrupted	USB 機器の曲を再生できません。 iPod の曲を再生できません。	再生可能なファイルか確認してください。ほかの機器でも再生できない場合は、曲のデータが破損している可能性があります。	54
		再生可能なファイルか確認してください。iPod 本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。	—
No Device	USB 機器または iPod が接続されていません。	USB 機器または iPod を正しく接続してください。	48、54
	USB 機器または iPod に不具合があるため、接続の確認ができません。	ほかの USB 機器または iPod を接続してください。	—
Loading…	ファイルやコンテンツの読み込みなど、USB 機器または iPod を接続したときに時間がかかる処理を実行しています。処理が終わるとメッセージは消えます。	――――――――	—
Unplugged	USB 機器または iPod が取り外されました。約 3 秒経過するとメッセージは消えます。	――――――――	—
Root	再生を停止したため、一番上の階層に戻っています。	再生を始めるとメッセージは消えます。	48

技術／用語解説

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2／MPEG-4 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS ／地上デジタル放送で採用されています。最大で5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

Deep Color

本機のHDMI端子が伝送可能な映像信号です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の8ビットに対して10／12／16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

DTS

DTS社が開発したデジタル･サラウンド･フォーマット（音声圧縮技術）で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できます。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクなどの光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

DTS-HD マスターオーディオ

ブルーレイディスクなどの光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、１本のケーブルで伝送できます。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化（コード化）します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

x.v.Color

本機のHDMI端子が伝送可能な映像信号です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCG で高い効果が得られます。

音声ビーム

デジタルサウンドプロジェクターには小口径のスピーカーが均等に配列されています。適切に信号処理を施した音声信号を各スピーカーに個別に出力させることで 音に強い指向性を持たせることができます。これを音声ビームと言います。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

チャンネル（ch）

音域の範囲や他の性質の違いによって分類されたオーディオの種類です。
例：7.1 チャンネル

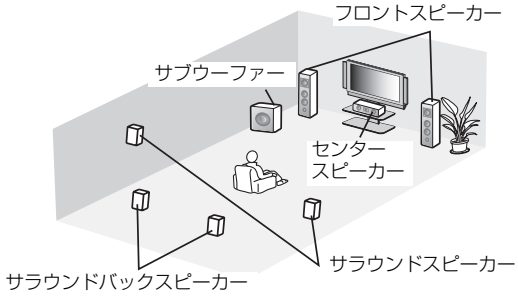
- フロントスピーカー用、左（1ch）、右（1ch）
- センタースピーカー用（1ch）
- サラウンドスピーカー用、左（1ch）、右（1ch）
- サラウンドバックスピーカー用、左（1ch）、右（1ch）
- サブウーファー用（1ch × 0.1* ＝ 0.1ch）

* さらに超低音を出すためのチャンネルです。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

デジタルサウンドプロジェクター

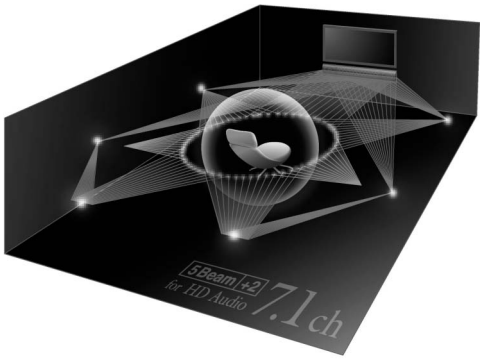
フロントサラウンド型のスピーカーシステムながら、リアルサラウンドが実現できるという画期的なシステムです。
デジタルサウンドプロジェクターでは音声ビームを最大5チャンネル分合成し、フロント、センターおよびサラウンドの各チャンネルの信号をセンターユニットから出力させます。
フロントとリア成分は部屋の壁に反射させ、戻ってきた音を利用することでリアルなサラウンド再生が可能になります。フロントとサラウンド信号の組み合わせで7ch再生も楽しめます。
本機ではサブウーファーも組み合わせて使用し、0.1ch分の対応としています。
これを標準的なスピーカーで実現させるには、7.1ch再生を行うためにはアンプに加えスピーカー7本（フロント2本、センター1本、サラウンド2本、およびサラウンドバック2本にサブウーファー1本）を設置する必要があります。

標準的な 7.1 チャンネルスピーカーシステム



本機は音声をビーム化し壁面に反射させることでリアルサラウンドを実現しています。

本機のサウンドイメージ



ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクなどの光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz／24bit時には最大8chのディスクリート音声信号を、最大転送レート18Mbpsで収録可能です。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3 チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1 チャンネルで構成されます。サラウンド2 チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクなどの光ディスクや、デジタルテレビ向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート6Mbpsで収録可能です。

ドルビープロロジック IIx

ドルビープロロジックIIの上位規格で、ステレオ信号やマルチチャンネル信号を7.1chで再生するための技術です。ドルビープロロジックIIの5.1chに対し、サラウンドバックの2chが追加されています。再生するソースに合わせて、映画用のMovieモード（2ch信号入力時のみ）と音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードの3つが用意されています。

主な仕様

YSP-CU4300

アンプ部

- 定格出力
  ウーファー（100Hz、1% THD、4Ω）.....124W
  ツイーター (1kHz、1% THD、4Ω).....37.4W
- 実用最大出力
  ウーファー（100Hz、10% THD、4Ω）.....150W
  ツイーター (1kHz、10% THD、4Ω).....44W

スピーカー部

- スピーカー形式.....密閉型／非防磁型
- ユニット
  ツイーター.....2.8cm コーン× 22
  ウーファー.....6.5cm コーン× 2
- インピーダンス.....4Ω

入力端子

- オーディオ入力
  光デジタル.....2（TV、光デジタル）
  同軸デジタル.....1（AUX）
  アナログ.....1 組
- HDMI 入力.....4（HDMI 入力 1 ～ 4）

出力端子

- HDMI 出力（ARC）.....1

その他の端子

- インテリビームマイク.....1
- USB.....1
- RS-232C.....1（工場サービス用）
- IR 出力.....1（工場サービス用）

ＦＭチューナー部

- 受信周波数範囲.....76.0MHz ～ 90.0MHz

ワイヤレス接続

- 周波数帯域.....2.4GHz
- 通信距離.....約 20m（妨害のないとき）

総合

- 電源電圧.....AC100V、50 ／ 60Hz
- 消費電力.....60W
- 待機消費電力
  HDMI コントロール　オン、インターロック　オン時
  .....2.5W 以下
  HDMI コントロール　オフ、インターロック　オフ時
  .....0.5W 以下
- 寸法（幅×高さ×奥行き）
  （付属のスペーサー除く）.....1102 × 86 × 161mm
  （付属のスペーサー含む）.....1102 × 99.5 × 161mm
- 質量.....6.9kg

YSP-CU4300 ＋ NS-WSW160

- 再生周波数帯域（－10dB、ステレオ再生）.....30Hz ～ 22kHz
- クロスオーバー周波数.....160Hz（ステレオ再生）
  160Hz、500Hz（サラウンド再生）

ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW160）の主な仕様については、ワイヤレスサブウーファーに付属している取扱説明書をご覧ください。

YSP-CU3300

アンプ部

- 定格出力
  ウーファー（100Hz、1% THD、6Ω）.....90W
  ツイーター (1kHz、1% THD、4Ω).....27.2W
- 実用最大出力
  ウーファー（100Hz、10% THD、6Ω）.....100W
  ツイーター (1kHz、10% THD、4Ω).....32W

スピーカー部

- スピーカー形式.....密閉型／非防磁型
- ユニット
  ツイーター.....2.8cm コーン× 16
  ウーファー.....6.5cm コーン× 2
- インピーダンス.....6Ω（ウーファー）、4Ω（ツイーター）

入力端子

- オーディオ入力
  光デジタル.....2（TV、光デジタル）
  同軸デジタル.....1（AUX）
  アナログ.....1 組
- HDMI 入力.....4（HDMI 入力 1 ～ 4）

出力端子

- HDMI 出力（ARC）.....1

その他の端子

- インテリビームマイク.....1
- RS-232C.....1（工場サービス用）
- IR 出力.....1（工場サービス用）

ワイヤレス接続

- 周波数帯域.....2.4GHz
- 通信距離.....約 20m（妨害のないとき）

総合

- 電源電圧.....AC100V、50 ／ 60Hz
- 消費電力.....40W
- 待機消費電力
  HDMI コントロール　オン、インターロック　オン時
  .....2.5W 以下
  HDMI コントロール　オフ、インターロック　オフ時
  .....0.5W 以下
- 寸法（幅×高さ×奥行き）
  （付属のスペーサー除く）.....1002 × 86 × 161mm
  （付属のスペーサー含む）.....1002 × 99.5 × 161mm
- 質量.....6.3kg

YSP-CU3300 ＋ NS-WSW160

- 再生周波数帯域（－10dB、ステレオ再生）.....30Hz ～ 22kHz
- クロスオーバー周波数.....160Hz（ステレオ再生）
  160Hz、500Hz（サラウンド再生）

ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW160）の主な仕様については、ワイヤレスサブウーファーに付属している取扱説明書をご覧ください。

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

YIT-W12TX

- 消費電力 ..... 0.3W 以下
- 許容通過電流 ..... 2.1A 以下
- 接続端子 ..... ドックコネクタ、Micro USB
- サンプリング周波数 ..... 48kHz（iPod/iPhone/iPad 接続時）
  32kHz、44.1kHz、48kHz（パソコン接続時）
- ワイヤレス部
  周波数帯域 ..... 2.4GHz 帯
  通信距離 ..... 約 20m（妨害のないとき）
  伝送遅延 ..... グループ ID（A、B）：12msec
  グループ ID（C）：50msec
- 寸法（幅×高さ×奥行き）..... 40 × 38.5 × 10mm
- 質量 10.3g

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

対応 iPod ／ iPhone ／ iPad（2012 年 6 月現在）

- iPod touch（第 1 ～ 4 世代）
- iPod nano（第 3 ～ 6 世代）
- iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone
- iPad（第 3 世代）、iPad2、iPad

対応パソコン（オペレーティグシステム）（2012 年 6 月現在）

- Windows 7、Windows Vista、Windows XP
- Mac OS X (10.6 以降)

対応 USB 機器（YSP-CU4300）

iPod ／ iPhone ／ iPad（2012 年 6 月現在）

- iPod touch（第 1 ～ 4 世代）
- iPod nano（第 3 ～ 6 世代）
- iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone
- iPad（第 3 世代）、iPad 2、iPad

USB メモリー

- マスストレージクラスの USB メモリー（FAT16 ／ FAT32）
- 音声フォーマット
  －WAV（8kHz ～ 48kHz、16bit）
  －MP3（8kHz ～ 48kHz、5kbps ～ 320kbps）
  －WMA（8kHz ～ 48kHz、5kbps ～ 384kbps）
  －MPEG4-AAC（8kHz ～ 48kHz、8kbps ～ 320kbps）

本機の無線方式について

2.4XX4

「2.4」	2.4GHz 帯を使用する無線設備
「XX」	変調方式はその他の方式
「4」	想定干渉距離が 40m 以内
▬▬▬	全帯域を回避可能

本機を使用して iPhone を充電している際、本機が iPhone の電波に影響を及ぼす場合があります。また本機の電波と iPhone の電波はお互いに干渉する場合があります。もし通話時に不具合を感じた際は、iPhone を本機から取り外してご使用ください。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動
体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

「エアワイヤード」「AirWired」は、ヤマハ株式会社の商標です。

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。

「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、及びダブル D 記号 DD はドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許番号：5,956,674; 5,974,380; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 及び、その他米国や世界各国に出願し権利を保有する特許に基づき製造されています。DTS と DTS-HD、またそのシンボルマークは DTS, Inc. の登録商標です。DTS-HD、DTS-HD マスターオーディオ及び DTS のロゴは DTS, Inc. の商標です。「製品」にはソフトウェアも含みます。©DTS, Inc. 不許複製。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

「x.v.Color」はソニー株式会社の商標です。

世界に広く特許申請中の Cambridge Mechatronics Ltd からライセンスを受けています。

' ' は Cambridge Mechatronics Ltd の商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone または iPad 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod、iPhone または iPad と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iPad、iPhone、iPod、iPod nano、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

Windows™

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Windows XP、Windows Vista、Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

対応する信号

HDMI

本機が受信可能な音声信号

音声フォーマット	詳細	主なディスク
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32 ～ 192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
ビットストリーム（SD オーディオ）	ドルビーデジタル、ドルビーデジタルサラウンド EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ	ブルーレイディスク、HD DVD

- 本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

本機が伝送可能な映像信号 1)

— 解像度
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz, 50Hz
- 1080i/60Hz, 50Hz
- 1080p/60Hz, 50Hz, 24Hz

— Deep Color
— x.v.Color
— 3D 映像信号
— 4K2K 対応

デジタル音声（光・同軸）

音声フォーマット	詳細	主なディスク
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 96kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、ドルビーデジタルサラウンド EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video

1) 接続したテレビの性能により、伝送する映像信号の解像度などが変わります。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。（センターユニットの周囲に左右1cm、上5cm、背面5cm以上のスペースを確保する。）**

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

禁止

医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

必ず実行

心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から22 cm 以上離して使用する。
ペースメーカーや除細動器に影響を与え重大事故につながる場合があります。

必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。
傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。

お手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
本体の⏻キーでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。

必ず実行

下記の場合には、すべての乾電池を新しいものに交換する。

- **リモコンの操作範囲がせまくなった**
- **トランスミッションインジケーターが光らない、または光が弱くなった**

古い乾電池を使用していると、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

新しい乾電池を入れる前に、電池ケース内をきれいにふく。

異物が入ると、火災や故障の原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

あおむけや横倒しには設置しない。

故障やけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

注意

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

無線ネットワークを使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避ける。

遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

必ず実行

ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。

色むらが起きることがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

必ず実行

工事はお買上げ店または専門の工事業者に依頼する。

工事は技術と経験が必要です。不充分な取付けは、本機が落下して、けがをする原因になります。お客さまによる工事は一切行わないでください。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、デジタルサウンドプロジェクターの音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。
故障の原因になります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

故障の原因になります。

禁止

下記のような場所に置かない。

- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

お手入れ

必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW160）をお使いになる前に

ワイヤレスサブウーファーに付属している取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

音楽を楽しむエチケット

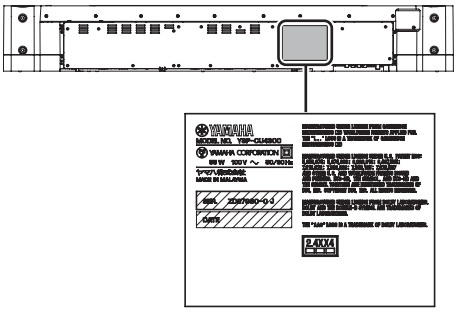
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

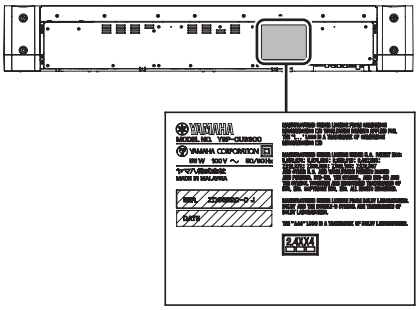
本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明及び電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けた通信機器を内蔵しております。

製品ラベルは本体の底面に掲示してあります。

YSP-CU4300



YSP-CU3300



ご注意

この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。

索引

英数字

2ch....36
3Beam（3 ビーム）....35
5.1ch....35、36
5Beam（5 ビーム）....35
5Beam+2（5 ビーム プラス 2）....35
7.1ch....35、36
AAC....74
ADVANCED....66
AirWired....21、64
AUDIO ASSGIN....41
AUDIO DELAY....41
AUTO PRESET....43
BASS....41
CATV 放送チューナー....19
CINEMA DSP インジケーター....9
CLEAR PRESET....45
CS 放送チューナー....19
Deep Color....74
Dolby PL IIx パラメーター....63
DTS....74
DTS-HD マスターオーディオ....30、74
DTS-HD ハイレゾルーションオーディオ....74
DUAL インジケーター....9、38
ENHANCER インジケーター....9
FM MODE....43
FM 簡易アンテナ....5
FM 放送....42
HDMI....74
HDMI インジケーター....9
HDMI 音声出力....63
HDMI ケーブル....18
HDMI コントロール....63
HDMI コントロール機能....28
iPod....46、77
iPod コントロールキー....49、52
iPod の再生（USB）....48
iPod の再生（無線）....46
Lch ／ Rch 位置調整....61
LINK 表示....8
MP3....31
My Surround（マイサラウンド）....35
PCM（パルス・コード・モジュレーション）....74
REPEAT....51、57
REPEATER インジケーター....9
RX インジケーター....9
SHUFFLE....51
St+3Beam（ステレオ +3 ビーム）....35
St+3Beam+2（ステレオ +3 ビームプラス 2）....35
STATUS 表示....6
SURROUND 表示....6
TARGET インジケーター....9
TREBLE....41
TV インプット....63
TX インジケーター....9
UNIVOLUME インジケーター....9
USB 機器の再生....54
USB 端子....6
VOLUME TRIM....41
VOL インジケーター....9、30
WMA....31
x.v.Color....74

あ

明るさの調節（フロントパネルディスプレイ）....65
アダプティブ DRC....62
インターロック....46、64
インテリビームマイク....22
インテリビームマイク端子....7
映画....33
映像信号情報....65
エコ機能....39
エラー音....24
エラーメッセージ....25
エンタテイメント....33
オーディオリターンチャンネル（ARC）....18
オプションメニュー....40
おまかせサラウンド機能....28
音楽....33
音質調整....22、25
音声信号情報....65
音声ビーム....74
音声ビームの出力方法....34
音量....30
音量バランス....31、62

か

拡張メニュー....66
簡易マイクスタンド....22
距離単位....65
グループ ID....21、64
グループ ID スイッチ....8、47
ゲーム機....19、30

さ

再生インジケーター....9
再生画面....50、55
サブウーファーの音量....30、31
サラウンド音声....32
サラウンド再生....31
サラウンドデコーダー....36
サンプリング周波数....32、54、65、74
サンプリングレート....30
システムメモリー....27
自動設定（インテリビーム）....22、25
シネマ DSP....32
シャッフル再生（iPod）....51
充電....53

焦点距離 60
スイートスポット 60
水平角度 60
ステレオ再生 31
ステレオ受信 43
ステレオピンケーブル 19
スピーカーレベル 62
スペーサー 13
設定メニュー 58

た

ターゲット再生 ....31、37
ダイナミックレンジ 63
タイミング調整（映像と音声） 41
チャンネル（ch） 75
チャンネル出力 ....34、36、61
チューナーインジケーター 9
デジタル音声ピンケーブル（同軸） 19
デジタルサウンドプロジェクター 75
テスト音 62
テレビ ....18、21、28、30
テレビ音声の入力端子割り当て 63
テレビへの登録 29
テレビリモコンリピーター機能 13
電源コード ....7、8、18
トーンの調整 41
トランスミッター（YIT-W12TX） ....5、46
ドルビー TrueHD ....30、75
ドルビーデジタル ....36、38、75
ドルビーデジタルプラス ....36、75
ドルビープロロジック 36
ドルビープロロジック II 75
ドルビープロロジック IIx ミュージック 63

な

入力端子の割り当て（HDMI の音声） 41
ノーマルチューニング 42

は

パソコンの曲の再生 47
ビーム経路長 60
ビームステレオ 31
ビーム調整 ....22、25
ビーム調整＋音質調整 ....22、25
光ファイバーケーブル ....18、19
ファームウェア ....65、67
副音声 38
ブラウズ画面 ....50、55
プリセットチューニング 43
ブルーレイディスクレコーダー ....18、30
フロントパネル（前面・上面） 6
フロントパネルディスプレイ 6
放送局の登録 44
放送局の登録解除 45
放送局の呼び出し 45

ま

ミュージックエンハンサー 31
無線接続 ....20、21
無線モジュール 6
メニュー画面 21
メニュー言語 65
モノラル受信 43

や

ユニボリューム 38

ら

リアパネル（背面） ....7、8
リピート再生（iPod） 51
リピート再生（USB 機器） 57
リモコン ....10、16
リモコン受光部 6

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル(全国共通) 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通) 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

名古屋サービスステーション
〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

九州サービスステーション
〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

ヤマハ株式会社
Printed in Malaysia ZD75530

© 2012 Yamaha Corporation